

## I 調査の概要

### 1 調査目的

令和5年度には「京都府歯と口の健康づくり基本計画（第3次）」を策定予定であり、府民の歯科保健に関する実態を把握することにより、「京都府歯と口の健康づくり基本計画（第2次）」、「京都府保健医療計画」及び「きょうと健やか21（第3次）」の評価を行うとともに、今後の京都府における歯科保健施策の推進に必要な基礎資料とする。

### 2 調査対象者

20歳以上の府民（京都市を除く25市町村在住者）

・歯科医院受診者

※新型コロナウイルス感染症の影響により、前回までの調査対象であった市町村実施イベントにおける成人歯科健診受診者は対象外

### 3 調査期間

令和4年9月～11月

### 4 調査内容

#### （1）口腔診査

- 1) 現在歯数
- 2) 喪失歯及びその補綴状況
- 3) 歯肉の状況
- 4) 口腔清掃状態
- 5) 顎関節の異常 等

#### （2）アンケート調査

- 1) 歯科疾患の予防の状況
- 2) 歯科健診や歯科受診に関すること 等

### 5 実施主体

京都府

### 6 実施方法

- （1）有識者（歯科関係団体、歯科教育機関、行政関係者）等で構成する検討会を設置（事務局：京都府健康福祉部健康対策課）し、調査方法及び集計・分析、報告書の作成について検討する。
- （2）調査については、一般社団法人京都府歯科医師会に委託及び市町村の協力により行う。

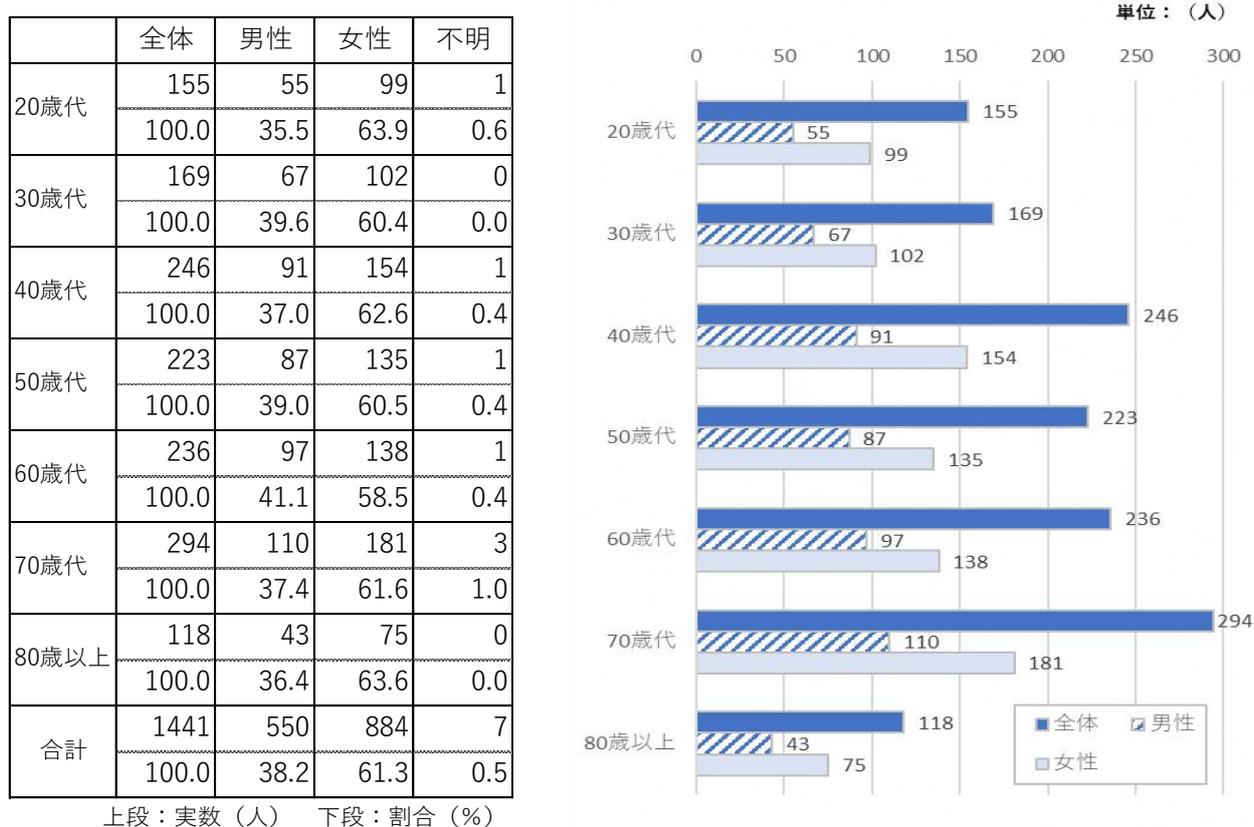
## II 調査結果

### 1 被調査者数

被調査者の総数は1,441人。内訳は、男性が550人（38.2%）、女性が884人（61.3%）となっており、約4対6の割合で女性が多い。

また、被調査者を20歳代からの年代別にみると、男性は70歳代が最も多い110人、80歳以上が最も少ない43人、女性も70歳代が最も多い181人、80歳以上が最も少ない75人となっている。

【表・図1 被調査者数】



【表 1-2 被調査者数（経年推移）】

	平成28年度				平成23年度			
	全体	男性	女性	不明	全体	男性	女性	不明
20歳代	142	51	91	0	178	50	128	0
30歳代	209	82	126	1	269	77	192	0
40歳代	270	89	181	0	254	87	167	0
50歳代	260	95	163	2	259	82	177	0
60歳代	346	130	216	0	361	143	218	0
70歳代	247	95	152	0	275	114	161	0
80歳以上	68	23	44	1	69	24	45	0
不明	3	1	2	0	0	0	0	0
合計	1,545	566	975	4	1,665	577	1,088	0

単位：（人）

## 2 口腔診査

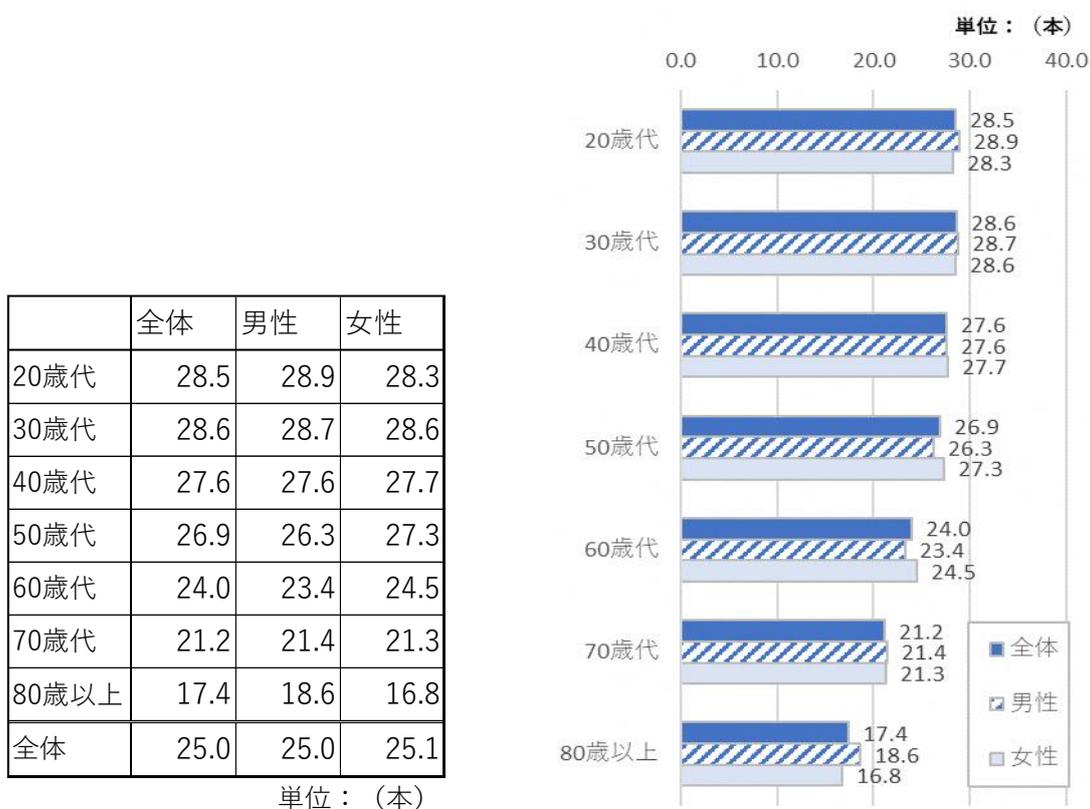
### (1) 歯の状況

#### 1) 現在歯数

一人平均現在歯数は、全体で 25.0 本と前回（平成 28 年度）調査の 25.1 本から 0.1 本減少しているものの、各年代・性別とも前回との大きな差はみられない。

年代別にみると、40 歳代で 28 本以下になり、50 歳代（26.9 本）と 60 歳代（24.0 本）を比較すると 2.9 本減少しており、60 歳代と 70 歳代では 2.8 本減少、70 歳代と 80 歳以上では 3.8 本減少している。80 歳以上になると 17.4 本に減少しているが、前回調査の 16.4 本と比較すると 1 本増加している。

【表・図2 一人平均現在歯数】



【表 2-2 一人平均現在歯数（経年推移）】

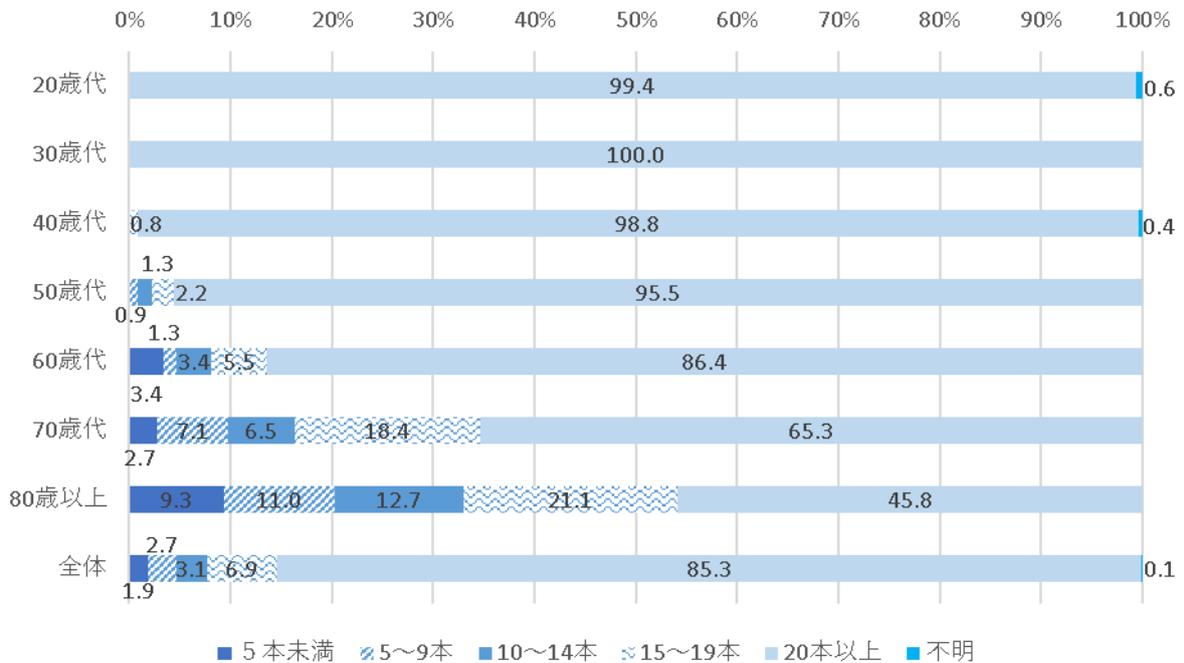
	平成28年度			平成23年度		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
20歳代	28.9	29.3	28.7	28.8	28.9	28.8
30歳代	28.5	28.8	28.4	28.3	28.7	28.2
40歳代	27.9	28.0	27.9	27.5	27.5	27.5
50歳代	26.3	26.2	26.4	25.6	25.2	25.8
60歳代	23.2	22.8	23.4	22.9	23.5	22.5
70歳代	20.6	19.4	21.4	20.2	19.5	20.7
80歳以上	16.4	16.7	16.1	11.3	12.3	10.8
全体	25.1	24.8	25.2	24.6	24.3	24.8

単位：（本）

【表・図3 現在歯数（年代別）】

	5本未満	5～9本	10～14本	15～19本	20本以上	不明
20歳代	0	0	0	0	154	1
	0.0	0.0	0.0	0.0	99.4	0.6
30歳代	0	0	0	0	169	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
40歳代	0	0	0	2	243	1
	0.0	0.0	0.0	0.8	98.8	0.4
50歳代	0	2	3	5	213	0
	0.0	0.9	1.3	2.2	95.5	0.0
60歳代	8	3	8	13	204	0
	3.4	1.3	3.4	5.5	86.4	0.0
70歳代	8	21	19	54	192	0
	2.7	7.1	6.5	18.4	65.3	0.0
80歳以上	11	13	15	25	54	0
	9.3	11.0	12.7	21.2	45.8	0.0
全体	27	39	45	99	1,229	2
	1.9	2.7	3.1	6.9	85.3	0.1

上段：実数（人） 下段：割合（％）

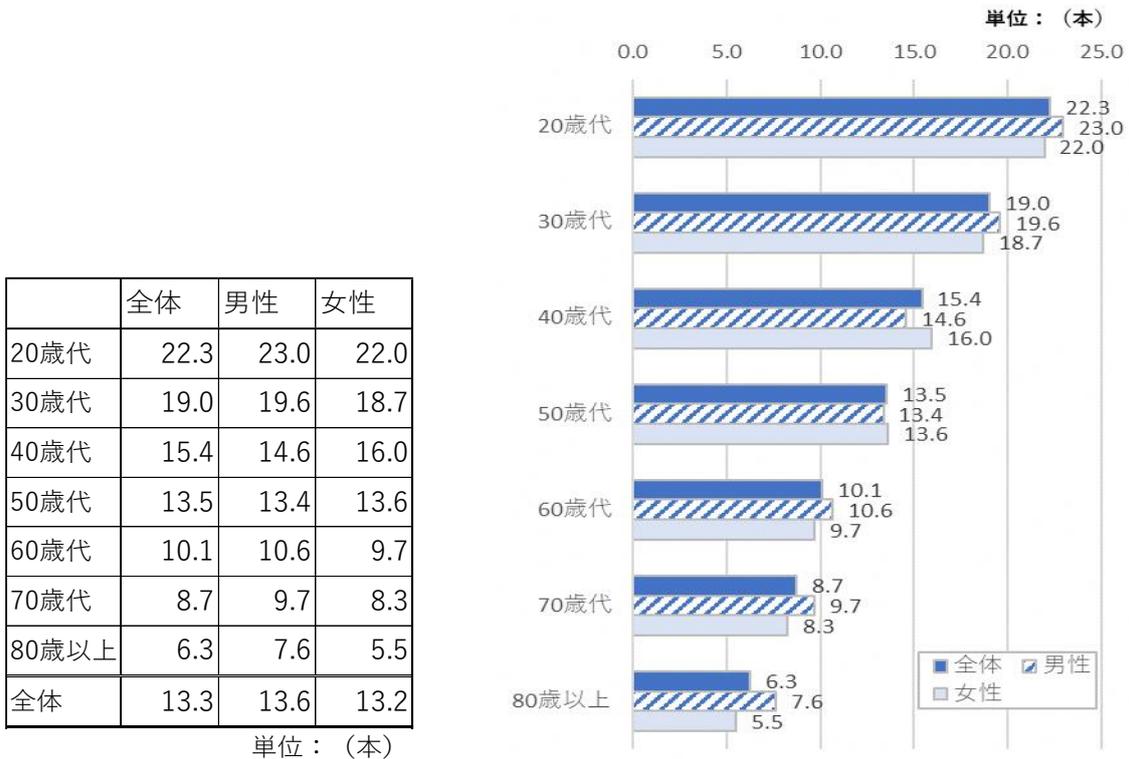


## 2) 健全歯数

一人平均健全歯数は、全体で13.3本となっている。前回（平成28年度）調査の12.6本に比べて0.7本多く、前々回（平成23年度）と比べると0.9本と約1本多くなっている。20歳代では1.9本増、80歳以上では1.8本増となり、約2本増えている。

今回の調査を性別で見ると、全体としては男性（13.6本）と女性（13.2本）と差はみられないが、40歳代と50歳代以外は女性より男性のほうが一人平均健全歯数が多い。50歳代と60歳代を比較すると一人平均健全歯数が3.4本減少し、男性（-2.8本）よりも女性（-3.9本）のほうが健全歯が少ない。

【表・図4 一人平均健全歯数】



【表 4-2 一人平均健全歯数（経年推移）】

	平成28年度			平成23年度		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
20歳代	20.4	20.2	20.5	20.6	19.9	21
30歳代	17.6	17.7	17.5	16.6	16.6	16.6
40歳代	15.1	16.3	14.4	14.1	14.3	14.1
50歳代	12.2	13.5	11.3	11.8	12.5	11.5
60歳代	9.7	10.6	9.2	9.5	11.2	8.4
70歳代	8.1	7.8	8.3	7.6	7.7	7.5
80歳以上	4.5	5.1	4.3	3.7	4.3	3.4
全体	12.6	13.2	12.3	12.4	12.3	12.4

単位：（本）

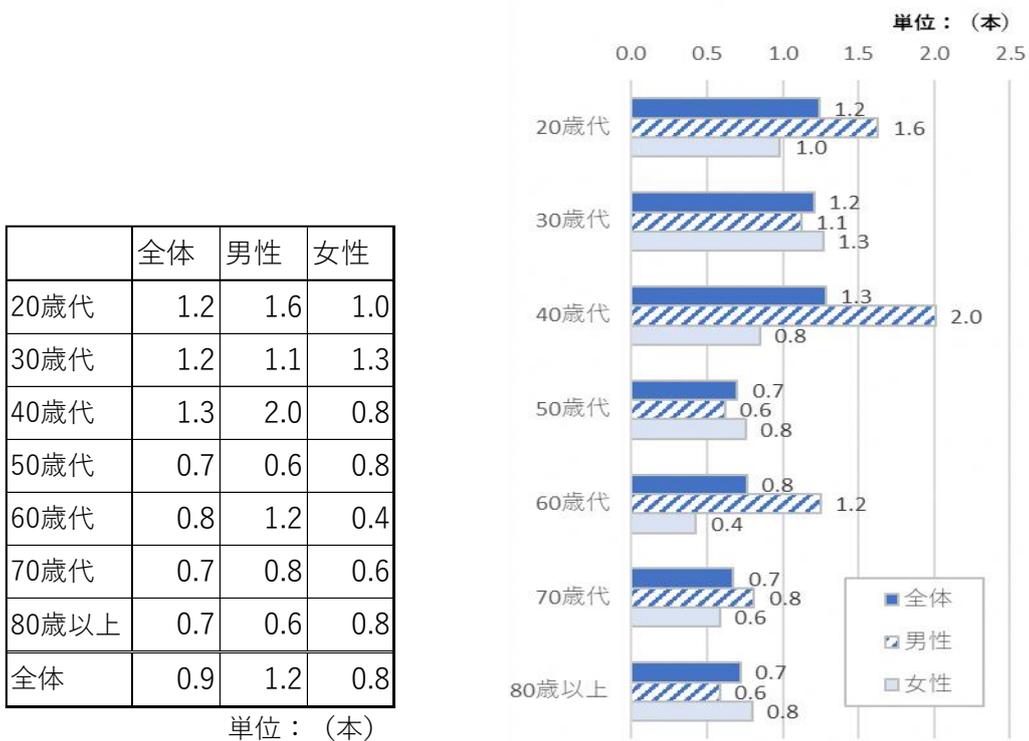
### 3) 未処置歯数

一人平均未処置歯数は、全体で0.9本と前回（平成28年度）調査の1.2本に比べて0.3本減っている。

性別で見ると、全体で男性1.2本、女性0.8本と、30歳代と80歳以上を除き、女性より男性のほうが一人平均未処置歯数が多い傾向にある。

年代別にみると、男性では40歳代2.0本（前回1.5本）、20歳代1.6本（前回3.1本）、60歳代1.2本（前回0.6本）の年代順に多く、女性では30歳代1.3本（前回1.2本）、20歳代1.0本（前回2.8本）と若い年代に多い。

【表・図5 一人平均未処置歯数】



【表 5-2 一人平均未処置歯数（経年推移）】

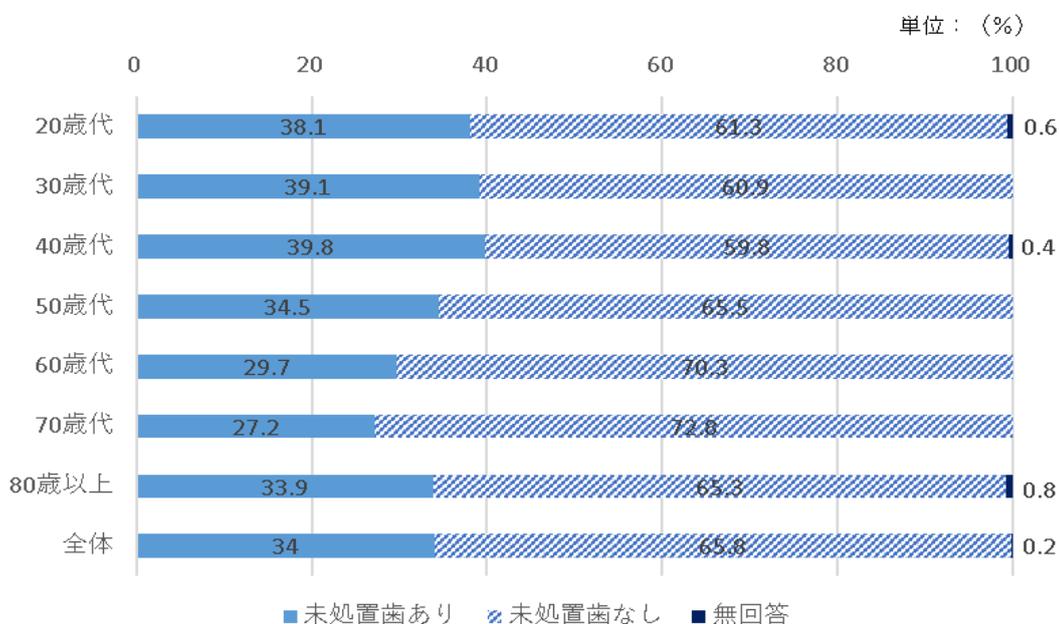
	平成28年度			平成23年度		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
20歳代	2.9	3.1	2.8	1.9	2.8	1.6
30歳代	1.6	2.2	1.2	1.5	2.5	1.1
40歳代	1.2	1.5	1.1	1.1	1.1	1.1
50歳代	0.9	1.2	0.8	1.1	1.4	1
60歳代	0.7	0.6	0.8	0.9	0.9	0.9
70歳代	0.9	1.2	0.7	0.9	0.8	0.9
80歳以上	1.1	1.8	0.8	1.4	2	1.1
全体	1.2	1.4	1.1	1.2	1.4	1.1

単位：（本）

【表・図6 未処置歯の有無（年代別）】

	未処置歯あり	未処置歯なし	無回答
20歳代	59	95	1
	38.1	61.3	0.6
30歳代	66	103	0
	39.1	60.9	0.0
40歳代	98	147	1
	39.8	59.8	0.4
50歳代	77	146	0
	34.5	65.5	0.0
60歳代	70	166	0
	29.7	70.3	0.0
70歳代	80	214	0
	27.2	72.8	0.0
80歳以上	40	77	1
	33.9	65.3	0.8
全体	490	948	3
	34.0	65.8	0.2

上段：実数（人） 下段：割合（％）



#### 4) 処置歯数

一人平均処置歯数は、全体で 10.8 本と前回（平成 28 年度）調査の 11.3 本に比べて 0.5 本減っている。

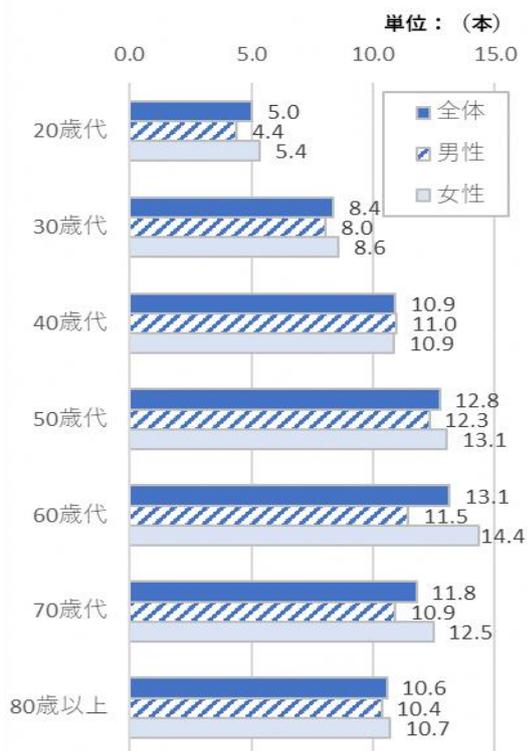
年代別にみると、男性では 50 歳代 12.3 本（前回 11.5 本）、60 歳代 11.5 本（前回 11.6 本）、40 歳代 11.0 本（前回 10.2 本）と多く、女性では 60 歳代 14.4 本（前回 13.4 本）、50 歳代 13.1 本（前回 14.3 本）、70 歳代 12.5 本（前回 12.4 本）が多い。

性別でみると、男性 10.2 本、女性 11.2 本と女性が 1 本多い。60 歳代では女性が約 3 本多く、各年代とも大きな男女の差はないが、やや女性のほうが多い。

【表・図7 一人平均処置歯数】

	全体	男性	女性
20歳代	5.0	4.4	5.4
30歳代	8.4	8.0	8.6
40歳代	10.9	11.0	10.9
50歳代	12.8	12.3	13.1
60歳代	13.1	11.5	14.4
70歳代	11.8	10.9	12.5
80歳以上	10.6	10.4	10.7
全体	10.8	10.2	11.2

単位：（本）



【表 6-2 一人平均処置歯数（経年推移）】

	平成28年度			平成23年度		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
20歳代	5.6	5.9	5.4	6.2	6.3	6.2
30歳代	9.4	9.0	9.7	10.3	9.7	10.5
40歳代	11.7	10.2	12.4	12.3	12.2	12.3
50歳代	13.2	11.5	14.3	12.6	11.3	13.3
60歳代	12.7	11.6	13.4	12.4	11.4	13.1
70歳代	11.6	10.4	12.4	11.8	11.0	12.3
80歳以上	10.7	9.9	11.0	6.2	6.0	6.3
全体	11.3	10.2	11.9	11.1	10.5	11.4

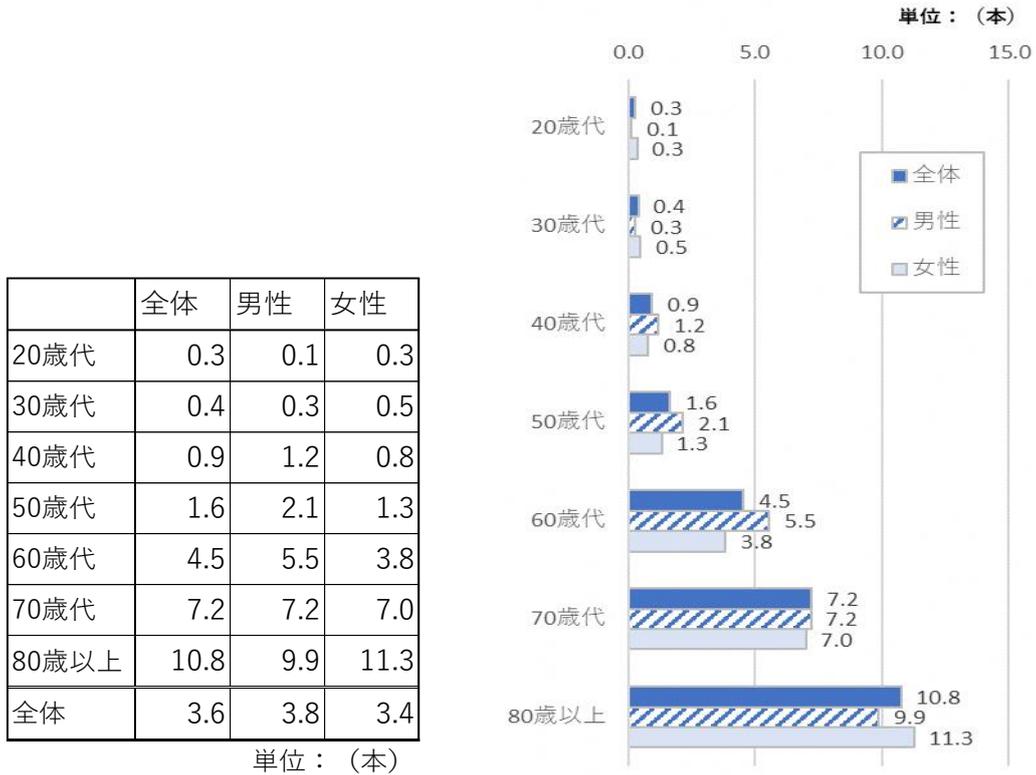
単位：（本）

## 5) 喪失歯数

一人平均喪失歯数は、全体で3.6本となっており、前回（平成28年度）調査の3.6本と同数である。

年代別にみると、60歳代から喪失歯数が増える傾向にあるが、前回と比較すると高齢層において喪失歯数が減少している。70歳代男性7.2本（前回9.0本）、80歳代男性9.9本（前回11.7本）、60歳代女性3.8本（前回5.0本）、80歳以上女性11.3本（前回12.2本）という結果である。

【表・図8 一人平均喪失歯数】



【表 8-2 一人平均喪失歯数（経年推移）】

	平成28年度			平成23年度		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
20歳代	0.3	0.2	0.3	0.2	0.1	0.3
30歳代	0.5	0.3	0.6	0.7	0.7	0.7
40歳代	1.0	1.2	1.0	1.3	1.4	1.2
50歳代	2.5	2.7	2.3	3.0	3.5	2.8
60歳代	5.3	5.8	5.0	5.7	5.4	5.9
70歳代	7.7	9.0	6.9	8.2	9.1	7.6
80歳以上	12.0	11.7	12.2	17.2	16.1	17.7
全体	3.6	4.0	3.4	4.1	4.6	3.8

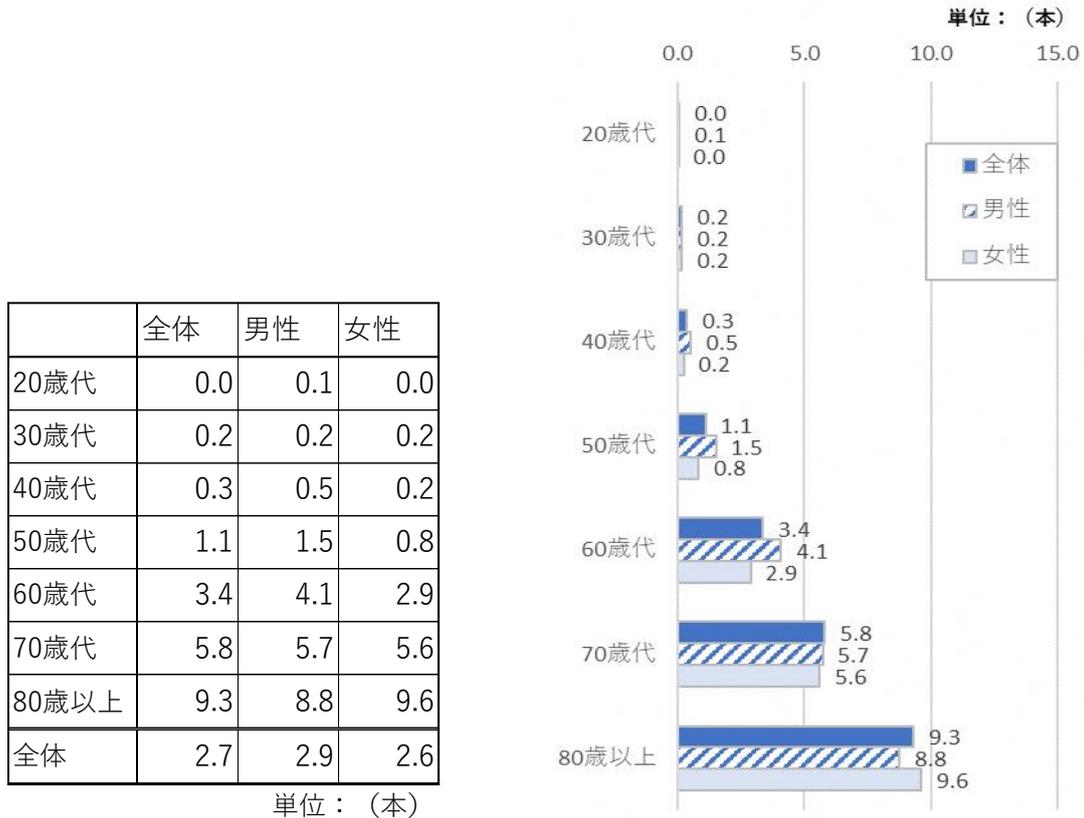
単位：（本）

## 6) 欠損補綴歯数

一人平均欠損補綴歯数は、全体で2.7本となっており、前回（平成28年度）調査の2.7本と同数である。

年代別にみると、70歳代男性5.7本（前回7.5本）、80歳代男性8.8本（前回9.4本）、60歳代女性2.9本（前回3.9本）、80歳以上女性9.6本（前回10.0本）と高齢層が前回に比べて減少している。

【表・図9 一人平均欠損補綴歯数】



【表 9-2 一人平均欠損補綴歯数（経年推移）】

	平成28年度			平成23年度		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
20歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
30歳代	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2
40歳代	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	0.5
50歳代	1.6	1.8	1.5	1.9	2.1	1.8
60歳代	4.1	4.5	3.9	4.4	4.0	4.6
70歳代	6.2	7.5	5.5	7.2	8.1	6.5
80歳以上	9.8	9.4	10.0	14.9	13.2	15.8
全体	2.7	3.1	2.5	3.2	3.6	2.9

単位：（本）

## 7) むし歯の状況

むし歯有病者の総数は1,325人で、割合に直すと97.4%となり、前回（平成28年度）調査（1,502人/97.2%）とほぼ同様である。

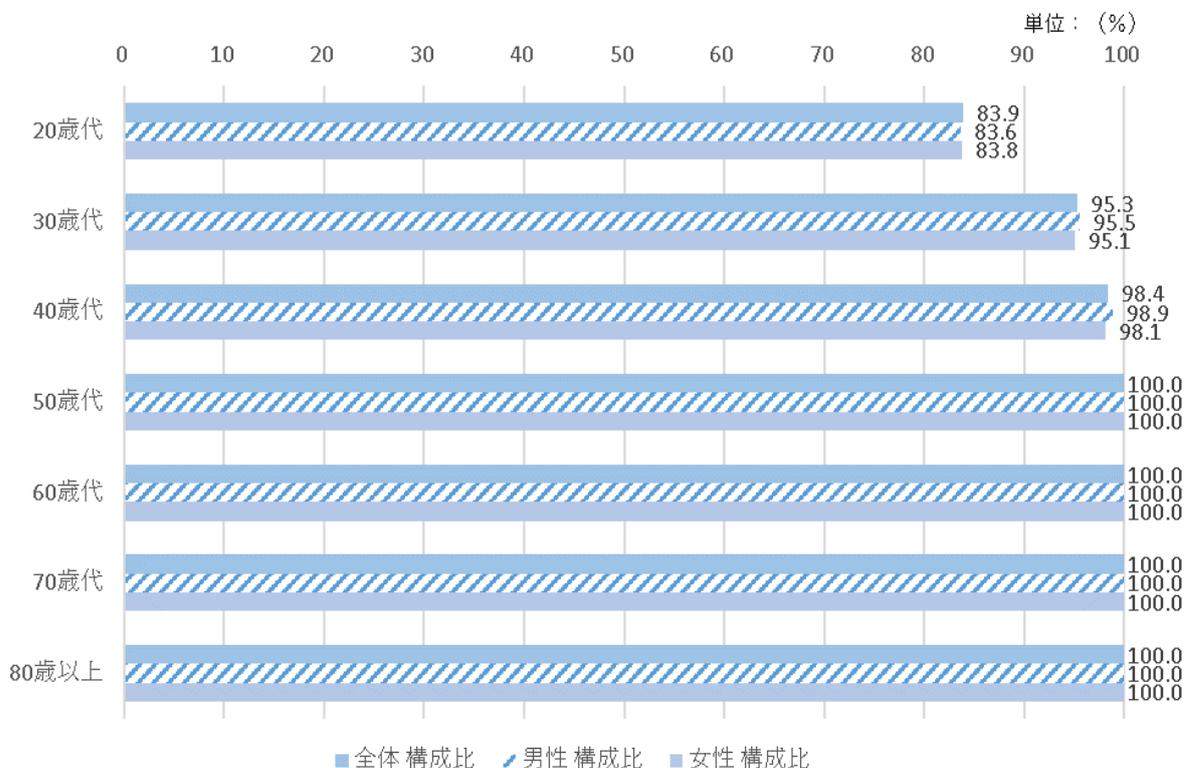
内訳は、男性が537人で97.6%（前回96.6%）、女性が860人で97.3%（前回97.5%）で、性別による差はみられない。

年代別では、50歳代～80歳以上ではすべての者がむし歯を有する。

【表・図10 むし歯の状況】

	全体			男性			女性		
	総数 (人)	むし歯 有病者 (人)	構成比 (%)	総数 (人)	むし歯 有病者 (人)	構成比 (%)	総数 (人)	むし歯 有病者 (人)	構成比 (%)
20歳代	155	130	83.9	55	46	83.6	99	83	83.8
30歳代	169	161	95.3	67	64	95.5	102	97	95.1
40歳代	246	242	98.4	91	90	98.9	154	151	98.1
50歳代	223	223	100.0	87	87	100.0	135	135	100.0
60歳代	236	236	100.0	97	97	100.0	138	138	100.0
70歳代	294	294	100.0	110	110	100.0	181	181	100.0
80歳以上	118	118	100.0	43	43	100.0	75	75	100.0
合計	1441	1404	97.4	550	537	97.6	884	860	97.3

※性別不明7人



### 一人平均むし歯数（DMFT 指数）

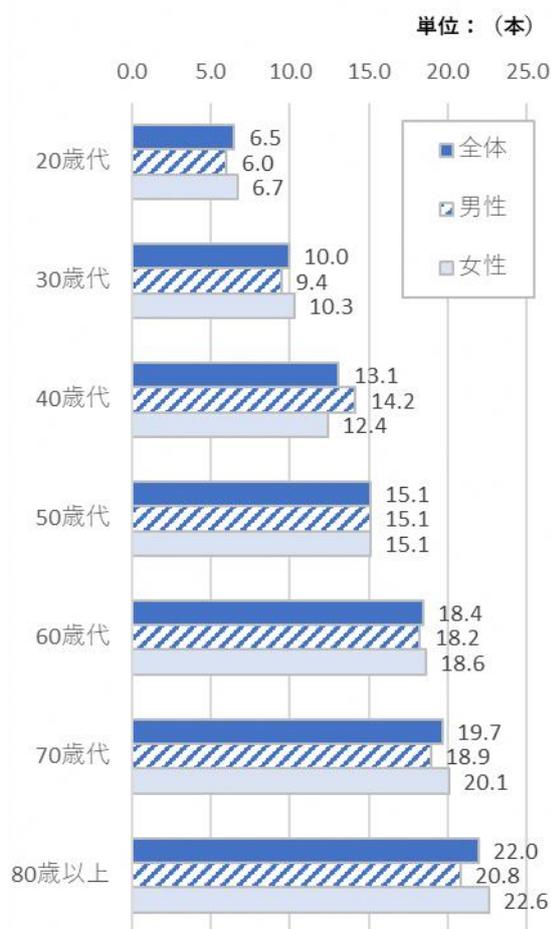
一人平均むし歯数（DMFT 指数）は全体で 15.0 本みられ、前回（平成 28 年度）調査の 16.1 本に比べて 1.1 本減少している。

男女ともに年代が高くなるほどむし歯が多くなる傾向にあるが、70 歳代男性 18.9 本（前回 20.6 本）、80 歳以上男性 20.8 本（前回 23.4 本）、80 歳以上女性 22.6 本（前回 24.0 本）のように高齢層にむし歯数の減少がみられる。また、20 歳代全体も 6.5 本（前回 8.8 本）と前回に比べて 2.3 本少ない。

【表・図 11 一人平均むし歯数（DMFT 指数）】

	全体	男性	女性
20歳代	6.5	6.0	6.7
30歳代	10.0	9.4	10.3
40歳代	13.1	14.2	12.4
50歳代	15.1	15.1	15.1
60歳代	18.4	18.2	18.6
70歳代	19.7	18.9	20.1
80歳以上	22.0	20.8	22.6
全体	15.0	14.7	15.1

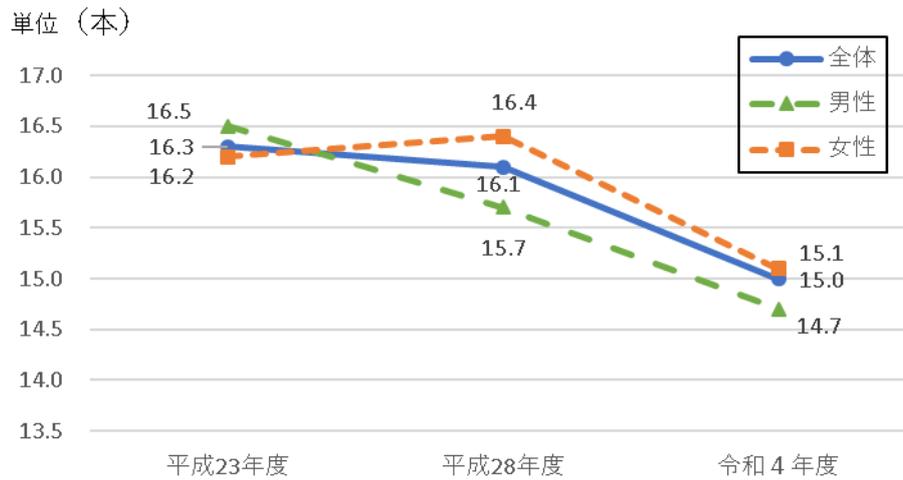
単位：（本）



【表・図 11-2 一人平均むし歯数 (DMFT 指数) (経年推移)】

	平成28年度			平成23年度		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
20歳代	8.8	9.3	8.5	8.4	9.2	8.1
30歳代	11.4	11.5	11.5	12.4	12.9	12.2
40歳代	13.9	12.8	14.4	14.6	14.6	14.6
50歳代	16.6	15.4	17.4	16.8	16.3	17.0
60歳代	18.8	18.0	19.3	19.1	17.7	19.9
70歳代	20.2	20.6	20.0	20.8	20.9	20.8
80歳以上	23.8	23.4	24.0	24.7	24.1	25.1
全体	16.1	15.7	16.4	16.3	16.5	16.2

単位：(本)



## (2) 欠損補綴の状況

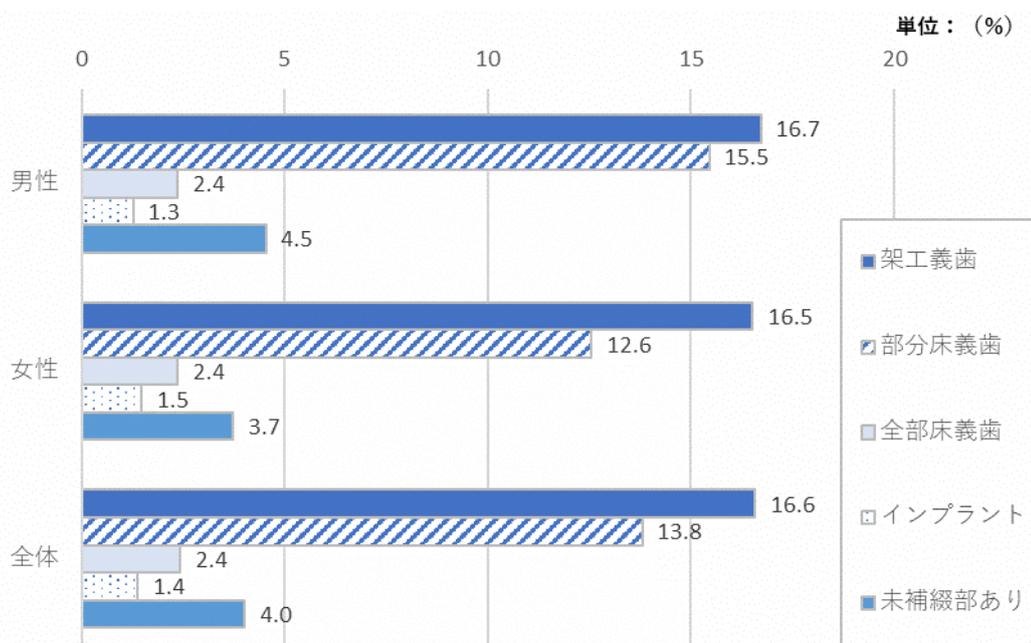
欠損補綴は、上顎は「架工義歯」(男性 16.7%/女性 16.5%)が多く、「部分床義歯」(男性 15.5%/女性 12.6%)が続いている。下顎は「部分床義歯」(男性 15.3%/女性 15.4%)のほうが多く、次いで「架工義歯」(男性 13.3%/女性 13.8%)となっている。前回(平成 28 年度)調査では、上顎「架工義歯」(男性 19.3%/女性 16.4%)、上顎「部分床義歯」(男性 14.3%/女性 12.0%)、下顎「架工義歯」(男性 18.9%/女性 16.5%)、下顎「部分床義歯」(男性 15.4%/女性 13.5%)であり、全体的に上下顎とも「部分床義歯」はやや増加傾向があるが、「架工義歯」、「全部床義歯」、「未補綴部あり」はやや減少傾向にはあるものの大きな変化はみられない。

### 1) 上顎

【表・図 12 上顎：欠損補綴の状況(性別)】

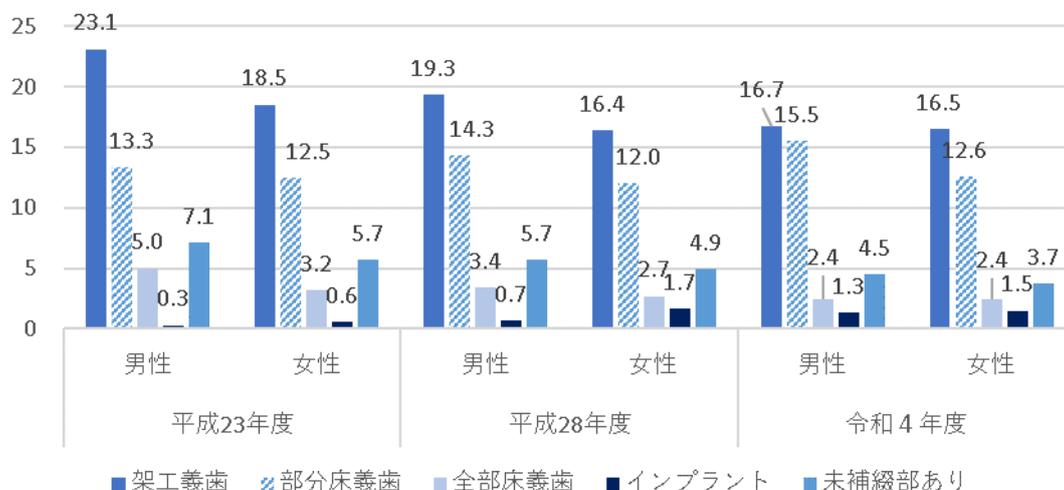
	架工義歯	部分床義歯	全部床義歯	インプラント	未補綴部あり
男性	92	85	13	7	25
	16.7	15.5	2.4	1.3	4.5
女性	146	111	21	13	33
	16.5	12.6	2.4	1.5	3.7
全体	239	199	35	20	58
	16.6	13.8	2.4	1.4	4.0

上段：実数(人) 下段：割合(%)



【図 12-1 上顎：欠損補綴の状況（性別、経年推移）】

単位：（％）

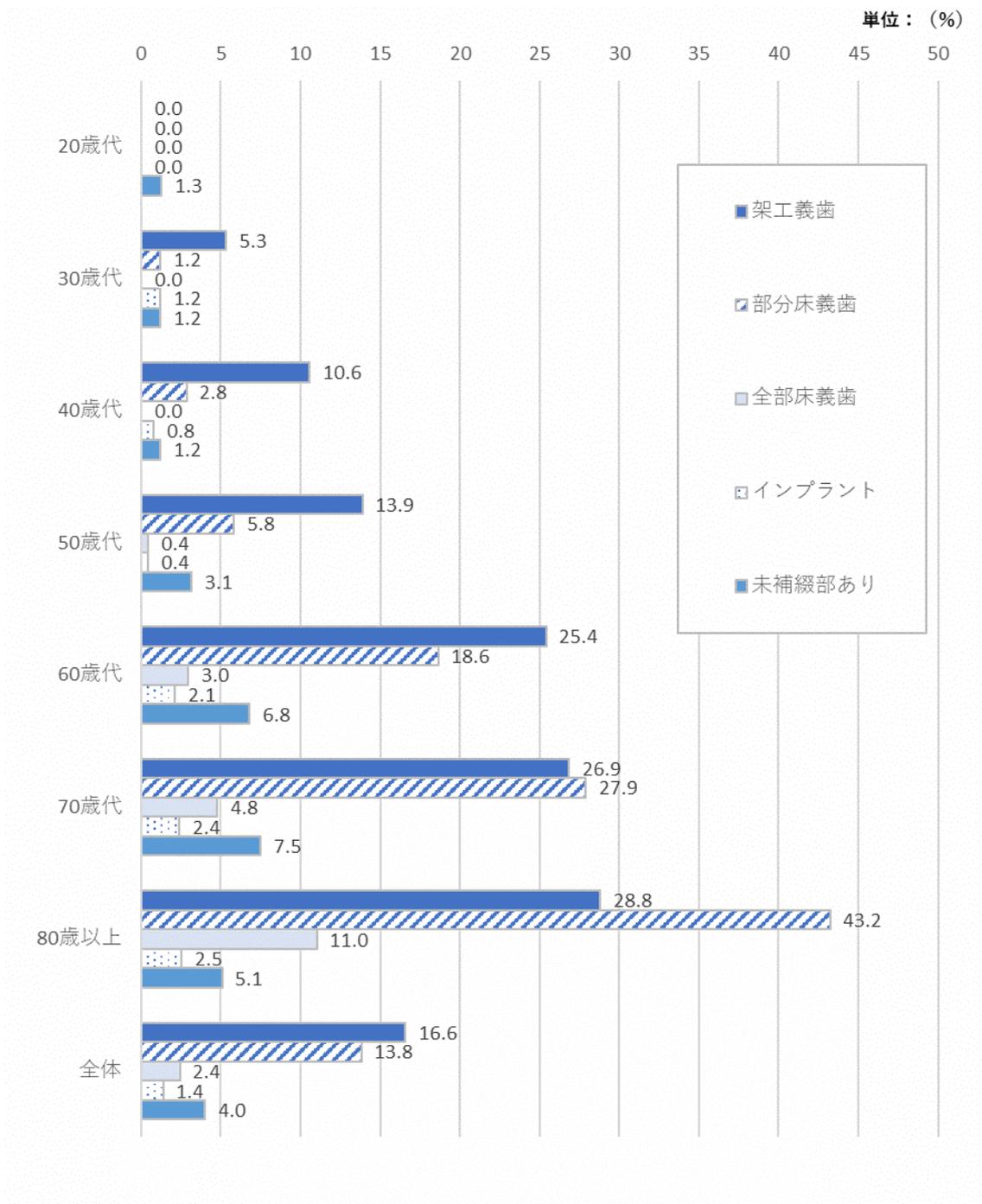


【表 13 上顎：欠損補綴の状況（年代別）】

	架工義歯	部分床義歯	全部床義歯	インプラント	未補綴部あり
20歳代	0	0	0	0	2
	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
30歳代	9	2	0	2	2
	5.3	1.2	0.0	1.2	1.2
40歳代	26	7	0	2	3
	10.6	2.8	0.0	0.8	1.2
50歳代	31	13	1	1	7
	13.9	5.8	0.4	0.4	3.1
60歳代	60	44	7	5	16
	25.4	18.6	3.0	2.1	6.8
70歳代	79	82	14	7	22
	26.9	27.9	4.8	2.4	7.5
80歳以上	34	51	13	3	6
	28.8	43.2	11.0	2.5	5.1
全体	239	199	35	20	58
	16.6	13.8	2.4	1.4	4.0

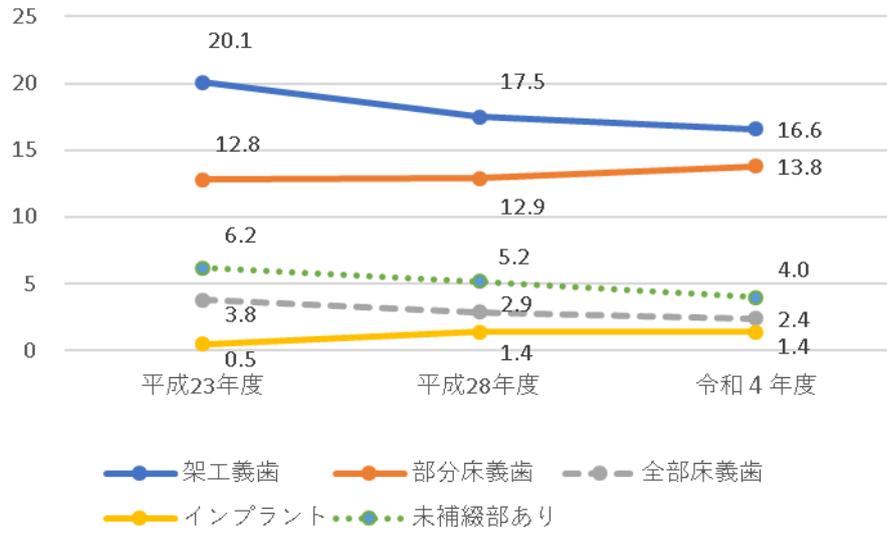
上段：実数（人） 下段：割合（％）

【図 13 上顎：欠損補綴の状況（年代別）】



【図 14 上顎：欠損補綴の状況（経年推移）】

単位：（％）

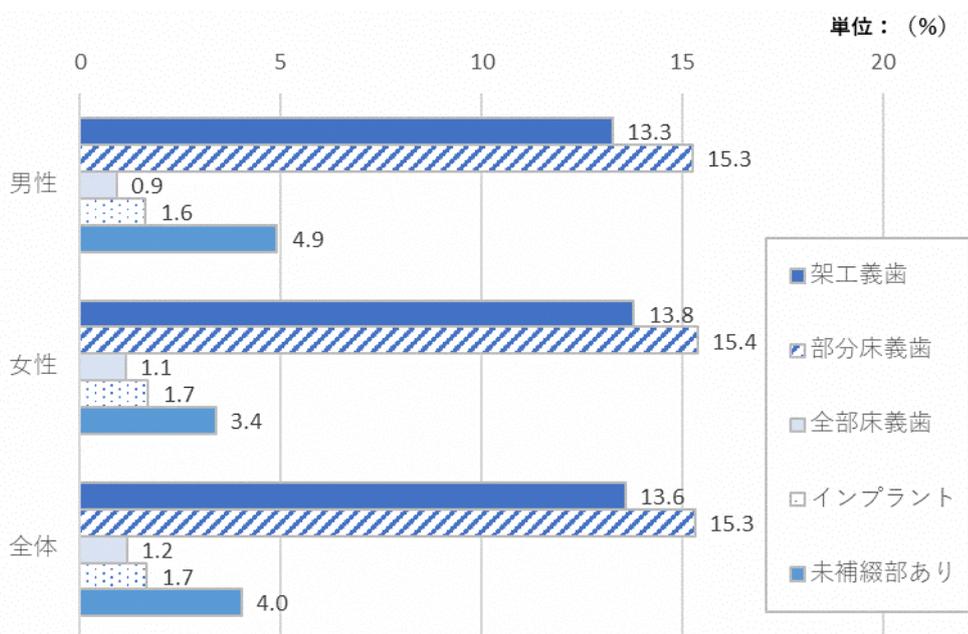


2) 下顎

【表・図 15 下顎：欠損補綴の状況（性別）】

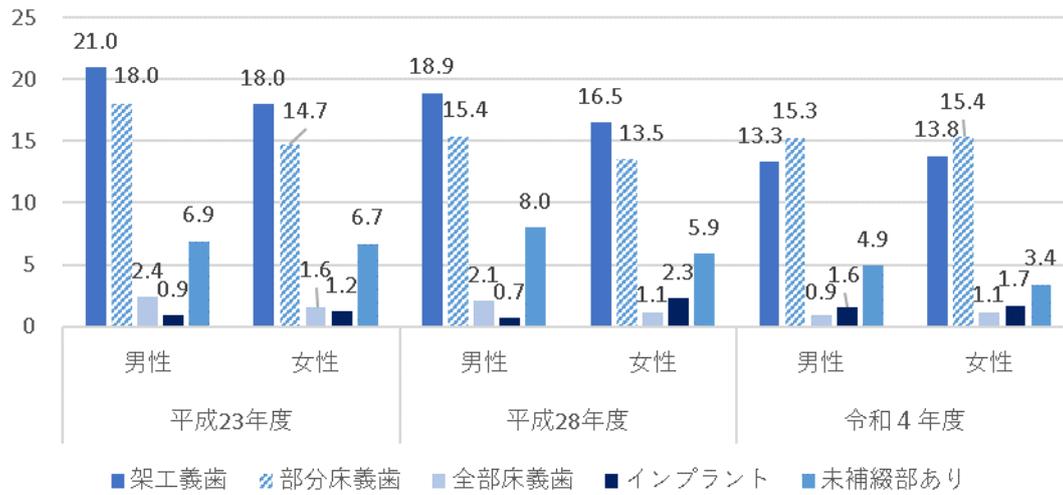
	架工義歯	部分床義歯	全部床義歯	インプラント	未補綴部あり
男性	73	84	5	9	27
	13.3	15.3	0.9	1.6	4.9
女性	122	136	10	15	30
	13.8	15.4	1.1	1.7	3.4
全体	196	221	17	24	58
	13.6	15.3	1.2	1.7	4.0

上段：実数（人） 下段：割合（％）



【表 15-1 下顎：欠損補綴の状況（性別、経年推移）】

単位：（％）

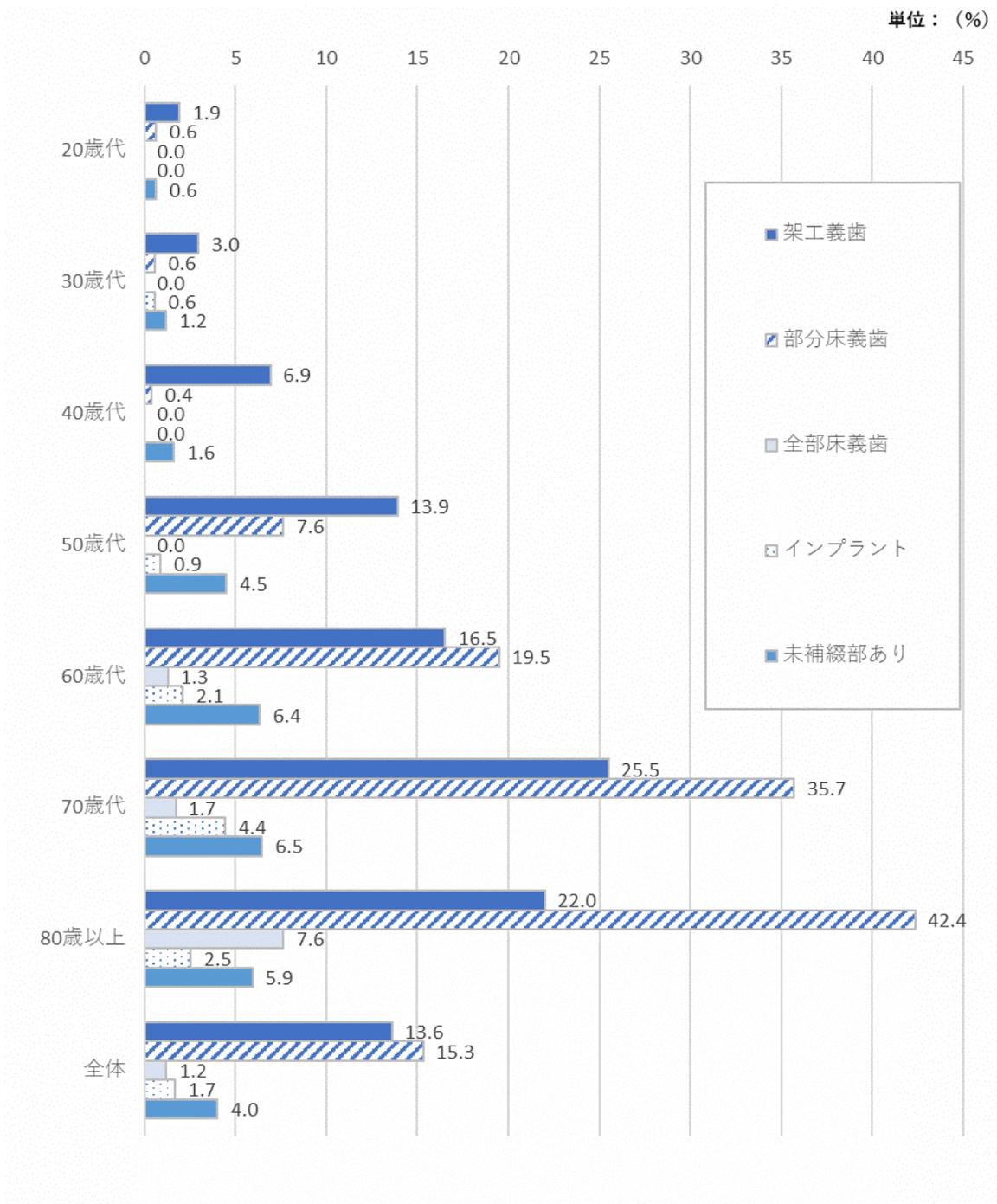


【表 16 下顎：欠損補綴の状況（年代別）】

	架工義歯	部分床義歯	全部床義歯	インプラント	未補綴部あり
20歳代	3	1	0	0	1
	1.9	0.6	0.0	0.0	0.6
30歳代	5	1	0	1	2
	3.0	0.6	0.0	0.6	1.2
40歳代	17	1	0	0	4
	6.9	0.4	0.0	0.0	1.6
50歳代	31	17	0	2	10
	13.9	7.6	0.0	0.9	4.5
60歳代	39	46	3	5	15
	16.5	19.5	1.3	2.1	6.4
70歳代	75	105	5	13	19
	25.5	35.7	1.7	4.4	6.5
80歳以上	26	50	9	3	7
	22.0	42.4	7.6	2.5	5.9
全体	196	221	17	24	58
	13.6	15.3	1.2	1.7	4.0

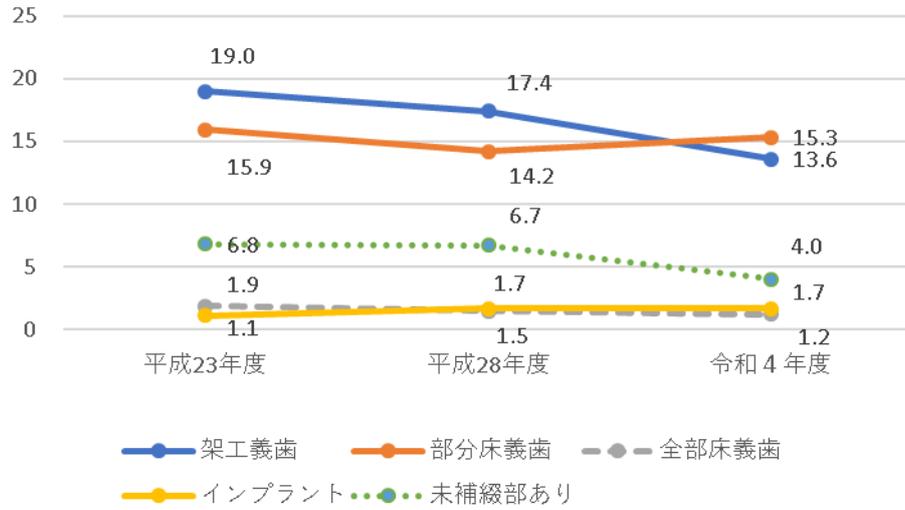
上段：実数（人） 下段：割合（％）

【図 16 下顎：欠損補綴の状況（年代別）】



【図 17 下顎：欠損補綴の状況（経年推移）】

単位：（％）



### (3) 歯肉の状況

#### 1) 歯肉の所見 (CPI による)

プローブを用いた歯肉の検査において、「歯周ポケット 4～5mm (コード 3)」が 33.2%と最も多く、次いで「歯石 (コード 2)」が 23.6%、「歯周ポケット 6mm 以上 (コード 4)」が 15.6%、「健全」15.1%、「歯肉出血 (コード 1)」10.0%と続いている。歯肉に炎症所見を有する (コード 3、4) 割合は 48.8%と、全体の半数を占め、前回 (平成 28 年度) 調査の 47.9%より若干ではあるが増加している。

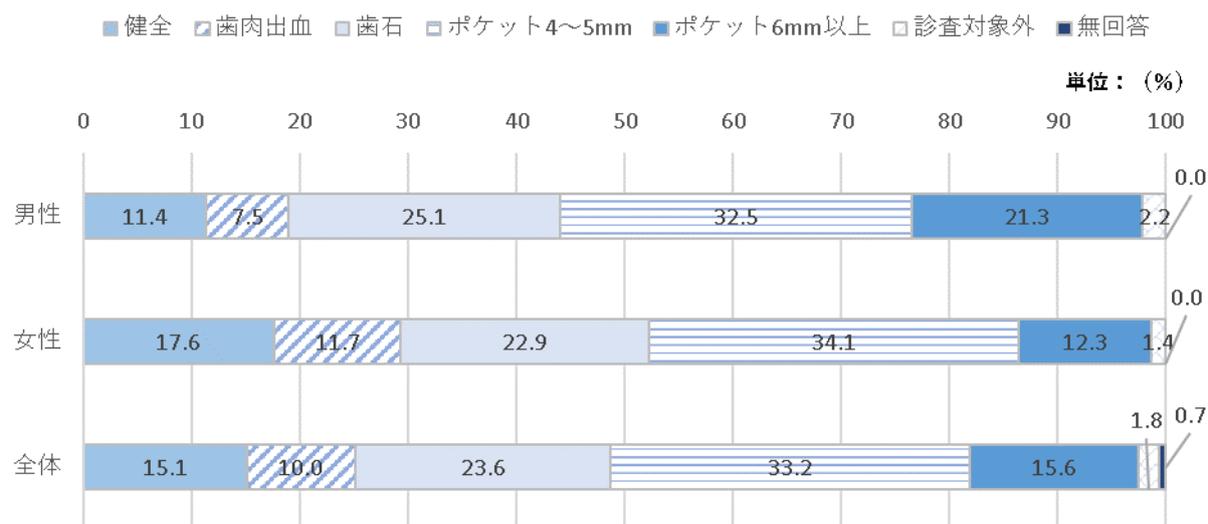
性別で見ると、コード 1 以上は女性 81.0% (前回 85.6%) に対し、男性のほうが 86.4% (前回 90.8%) と高いが、男女とも前回調査よりは減少傾向にある。

年代別で見ると、歯肉に炎症所見を有する (コード 3、4) 割合は、70 歳代では 61.9%と最も多い。次いで、80 歳以上では 56.7%であり、前回 (平成 28 年度) 調査の 47.9%と比較すると 8.8%ポイント増加している。

【表・図 18 歯肉の所見 (性別)】

	健全	歯肉出血	歯石	ポケット4～5mm	ポケット6mm以上	診査対象外	無回答	調査数
男性	62	41	137	177	116	12	0	545
	11.4	7.5	25.1	32.5	21.3	2.2	0.0	100.0
女性	155	103	201	300	108	12	0	879
	17.6	11.7	22.9	34.1	12.3	1.4	0.0	100.0
全体	218	144	340	478	225	26	10	1441
	15.1	10.0	23.6	33.2	15.6	1.8	0.7	100.0

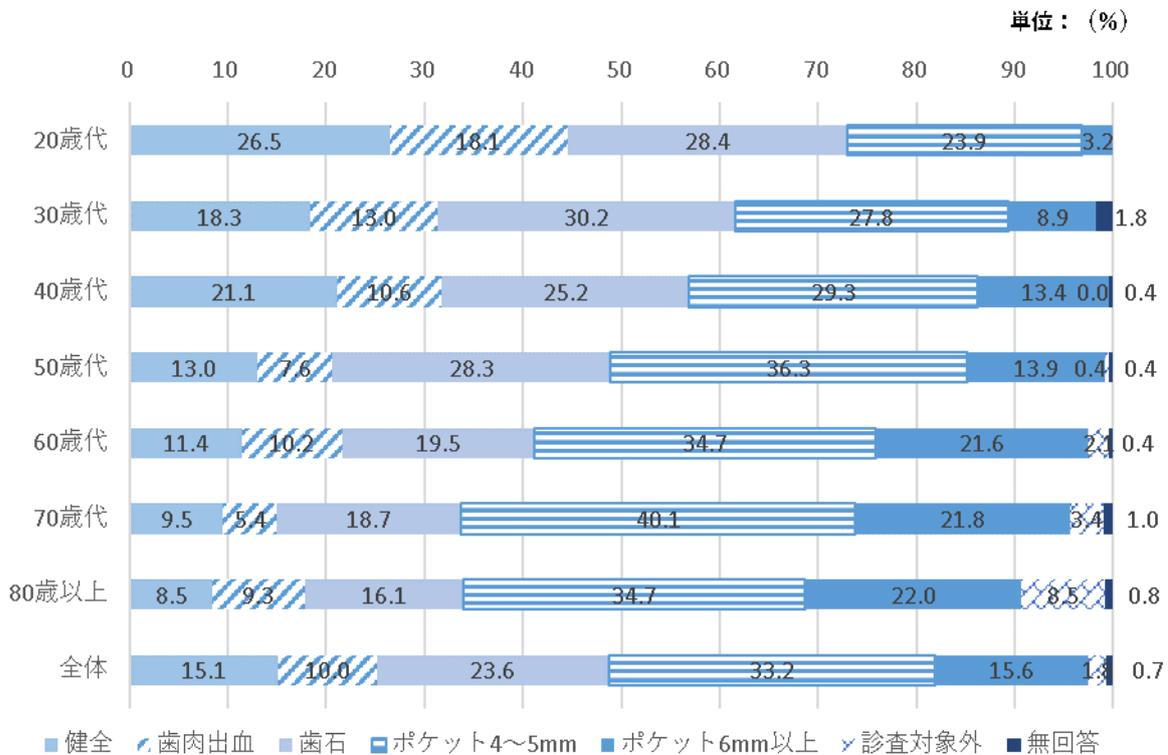
上段：実数 (人) 下段：割合 (%)



注) CPI コード 0 : 健全歯周組織、1 : プロービング後出血、2 : 縁上・縁下歯石、  
3 : 歯周ポケット 4～5mm、4 : 歯周ポケット 6mm 以上

【表・図 19 歯肉の所見（年代別）】

	健全	歯肉出血	歯石	ポケット4～5mm	ポケット6mm以上	診査対象外	無回答	調査数
20歳代	41	28	44	37	5	0	0	155
	26.5	18.1	28.4	23.9	3.2	0.0	0.0	100.0
30歳代	31	22	51	47	15	0	3	169
	18.3	13.0	30.2	27.8	8.9	0.0	1.8	100.0
40歳代	52	26	62	72	33	0	1	246
	21.1	10.6	25.2	29.3	13.4	0.0	0.4	100.0
50歳代	29	17	63	81	31	1	1	223
	13.0	7.6	28.3	36.3	13.9	0.4	0.4	100.0
60歳代	27	24	46	82	51	5	1	236
	11.4	10.2	19.5	34.7	21.6	2.1	0.4	100.0
70歳代	28	16	55	118	64	10	3	294
	9.5	5.4	18.7	40.1	21.8	3.4	1.0	100.0
80歳以上	10	11	19	41	26	10	1	118
	8.5	9.3	16.1	34.7	22.0	8.5	0.8	100.0
全体	218	144	340	478	225	26	10	1441
	15.1	10.0	23.6	33.2	15.6	1.8	0.7	100.0

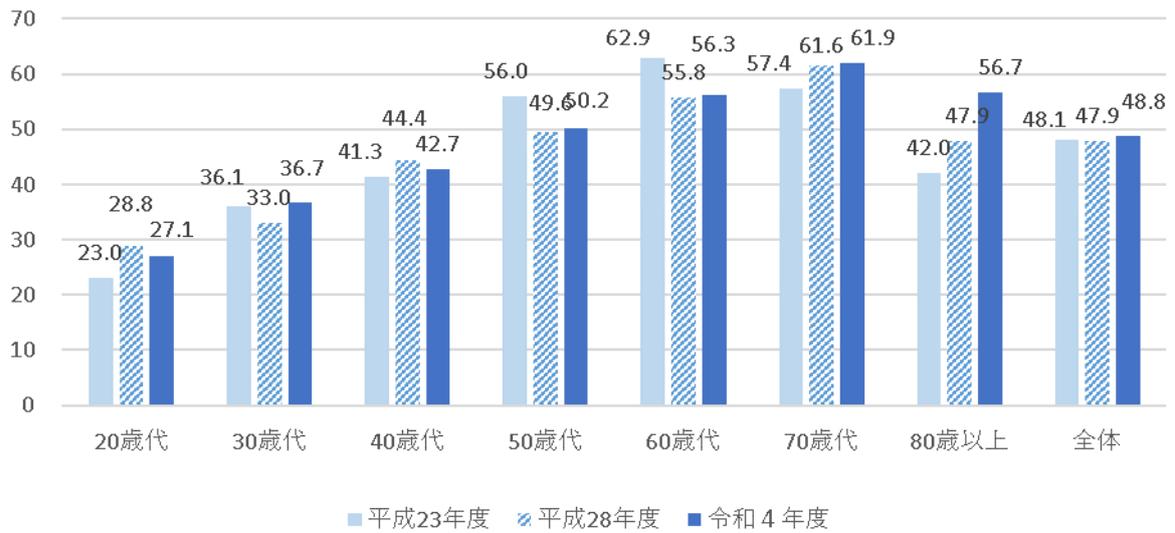


【表・図 19-2 進行した歯周炎（CPI コード3、4）を有する者の割合（年代別）（経年推移）】

	令和4年度	平成28年度	平成23年度
20歳代	27.1	28.8	23.0
30歳代	36.7	33.0	36.1
40歳代	42.7	44.4	41.3
50歳代	50.2	49.6	56.0
60歳代	56.3	55.8	62.9
70歳代	61.9	61.6	57.4
80歳以上	56.7	47.9	42.0
全体	48.8	47.9	48.1

単位：（％）

単位：（％）



## 2) 歯肉の所見（視診判定）

視診による歯肉に所見がある者の割合は全体で7割（74.4%）を超えている。内訳は「歯石あり」36.5%、「歯周炎あり」31.9%、「歯肉出血あり」21.4%となっている。

女性より男性のほうが歯肉に所見がある割合は高く、「歯周炎あり」が特に多い。

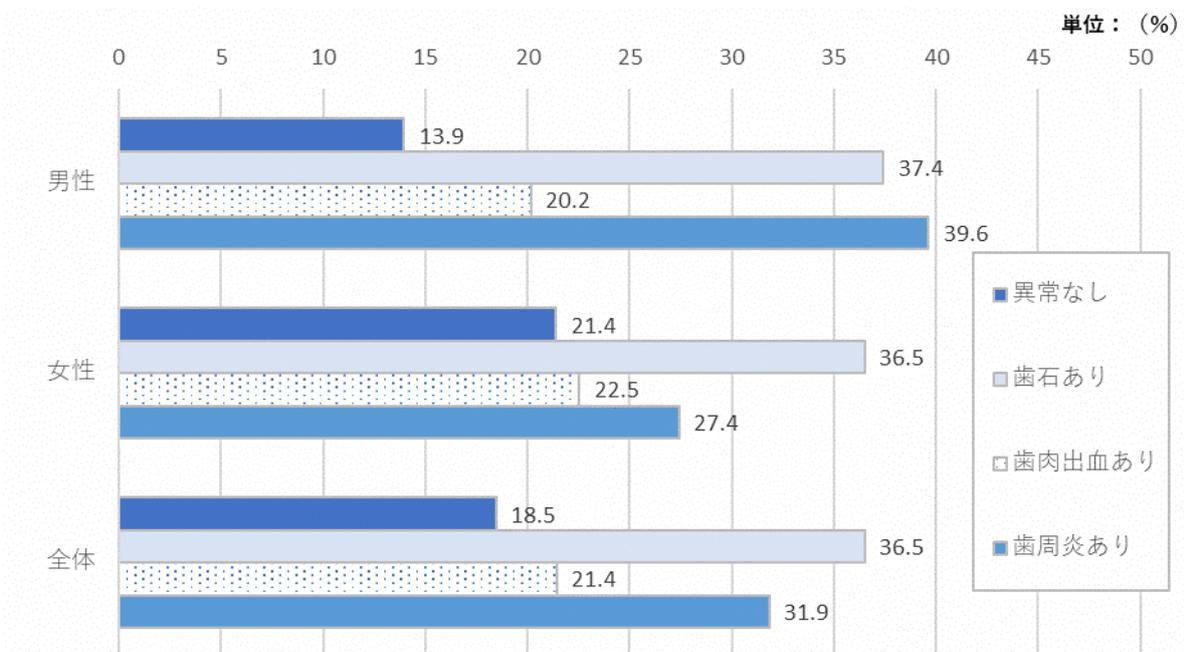
前回（平成28年度）調査と比較すると、「異常なし」の者が男性13.9%（前回8.7%）、女性21.4%（前回13.2%）、全体18.5%（前回11.7%）と増えている。

年代が高くなるにつれて「歯肉に所見あり」が増加傾向にあるが、20歳代でも65.8%と高い割合になっている。

【表・図20 歯肉の所見（視診判定）（性別）】

	異常なし	歯肉に所見あり			無回答	調査数	
		小計	歯石あり	歯肉出血あり			歯周炎あり
男性	76	427	204	110	216	42	545
	13.9	78.3	37.4	20.2	39.6	7.7	100.0
女性	188	631	321	198	241	60	879
	21.4	71.8	36.5	22.5	27.4	6.8	100.0
全体	266	1072	526	309	459	103	1441
	18.5	74.4	36.5	21.4	31.9	7.1	100.0

上段：実数（人） 下段：割合（%）

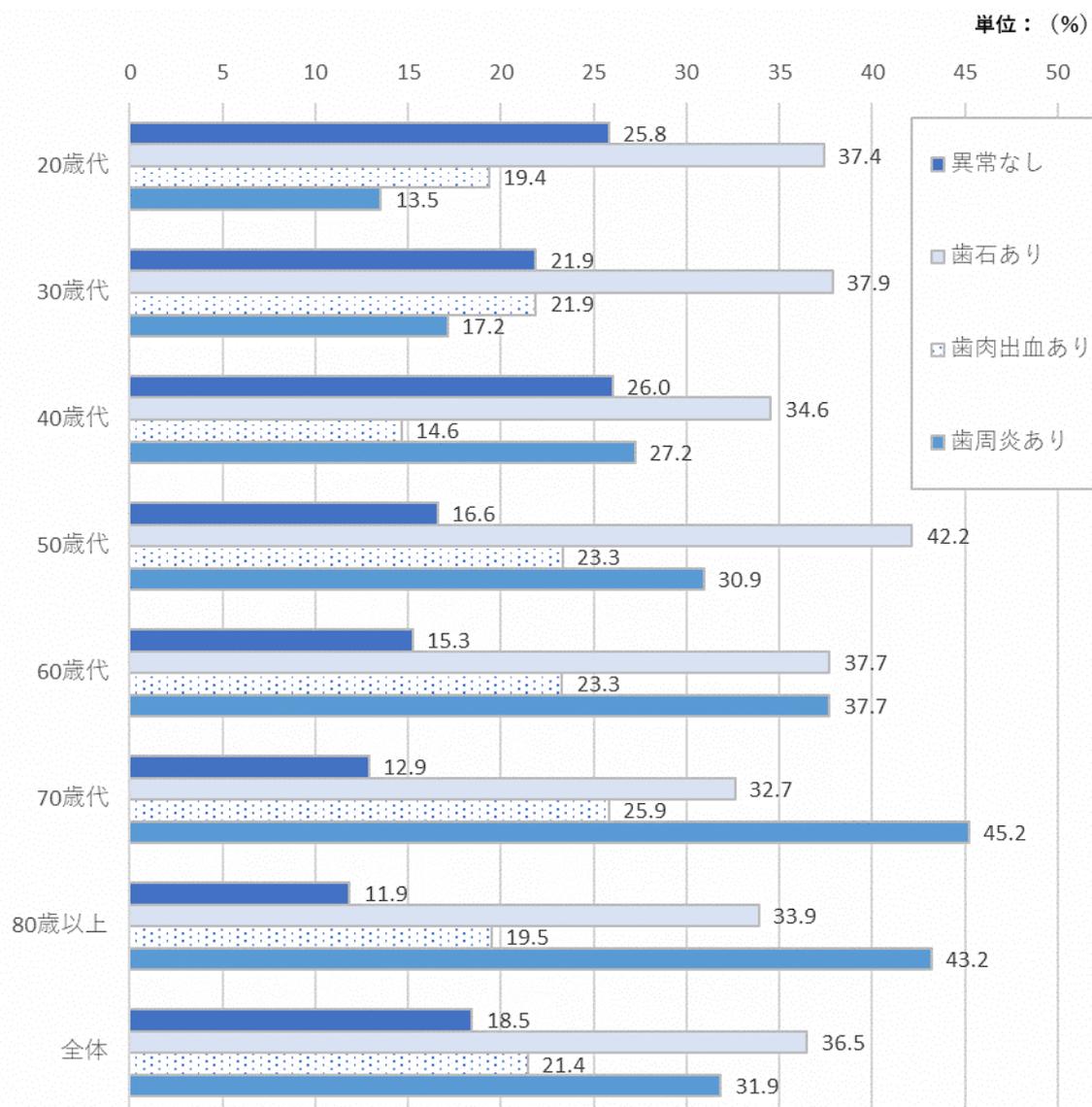


【表 21 歯肉の所見（視診判定）（年代別）】

	異常なし	歯肉に所見あり				無回答	調査数
		小計	歯石あり	歯肉出血あり	歯周炎あり		
20歳代	40	102	58	30	21	13	155
	25.8	65.8	37.4	19.4	13.5	8.4	100.0
30歳代	37	116	64	37	29	16	169
	21.9	68.6	37.9	21.9	17.2	9.5	100.0
40歳代	64	163	85	36	67	19	246
	26.0	66.3	34.6	14.6	27.2	7.7	100.0
50歳代	37	172	94	52	69	14	223
	16.6	77.1	42.2	23.3	30.9	6.3	100.0
60歳代	36	189	89	55	89	11	236
	15.3	80.1	37.7	23.3	37.7	4.7	100.0
70歳代	38	239	96	76	133	17	294
	12.9	81.3	32.7	25.9	45.2	5.8	100.0
80歳以上	14	91	40	23	51	13	118
	11.9	77.1	33.9	19.5	43.2	11.0	100.0
全体	266	1072	526	309	459	103	1441
	18.5	74.4	36.5	21.4	31.9	7.1	100.0

上段：実数（人） 下段：割合（％）

【図 21 歯肉の所見（視診判定）（年代別）】



【表 21-2 性別・年代別 歯肉の所見（視診判定）（平成 28 年度調査）】

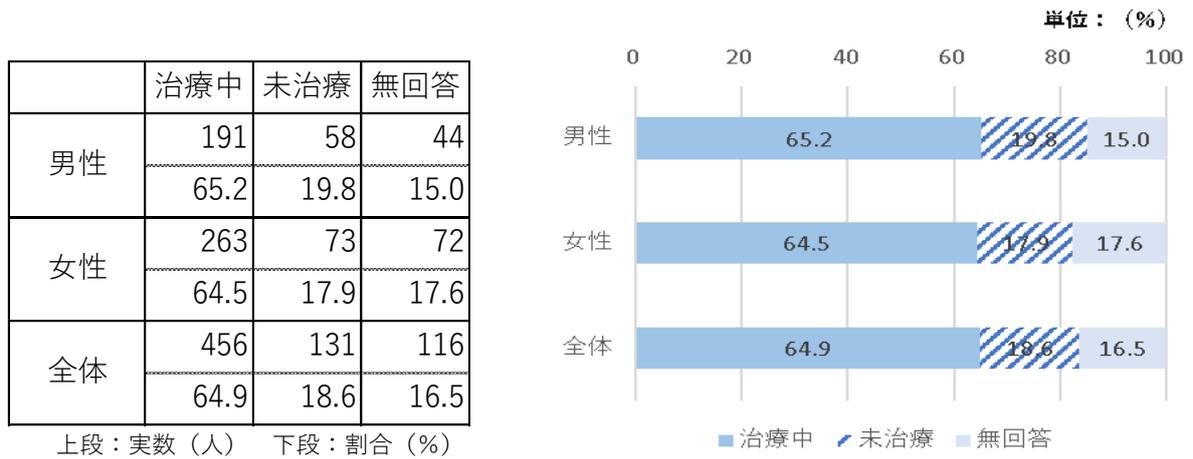
		異常なし	歯肉に所見あり				無回答	調査数
			小計	歯石あり	歯肉出血あり	歯周炎あり		
全体	20歳代	30 21.1%	110 77.5%	75 52.8%	67 47.2%	22 15.5%	2 1.4%	142 100.0%
	30歳代	33 15.8%	176 84.2%	134 64.1%	107 51.2%	50 23.9%	0 0.0%	209 100.0%
	40歳代	31 11.5%	238 88.1%	179 66.3%	130 48.1%	81 30.0%	1 0.4%	270 100.0%
	50歳代	25 9.6%	230 88.5%	163 62.7%	121 46.5%	101 38.8%	5 1.9%	260 100.0%
	60歳代	29 8.4%	311 89.9%	211 61.0%	164 47.4%	171 49.4%	6 1.7%	346 100.0%
	70歳代	24 9.7%	220 89.1%	127 51.4%	99 40.1%	131 53.0%	3 1.2%	247 100.0%
	80歳以上	7 10.3%	55 80.9%	29 42.6%	23 33.8%	28 41.2%	6 8.8%	68 100.0%
	全体	180 11.7%	1,342 86.9%	919 59.5%	712 46.1%	584 37.8%	23 1.5%	1,545 100.0%
男性	20歳代	10 19.6%	41 80.4%	28 54.9%	24 47.1%	7 13.7%	0 0.0%	51 100.0%
	30歳代	5 6.1%	77 93.9%	65 79.3%	46 56.1%	29 35.4%	0 0.0%	82 100.0%
	40歳代	4 4.5%	84 94.4%	68 76.4%	52 58.4%	28 31.5%	1 1.1%	89 100.0%
	50歳代	7 7.4%	87 91.6%	65 68.4%	42 44.2%	39 41.1%	1 1.1%	95 100.0%
	60歳代	14 10.8%	113 86.9%	77 59.2%	54 41.5%	67 51.5%	3 2.3%	130 100.0%
	70歳代	7 7.4%	86 90.5%	48 50.5%	33 34.7%	54 56.8%	2 2.1%	95 100.0%
	80歳以上	2 8.7%	21 91.3%	12 52.2%	9 39.1%	15 65.2%	0 0.0%	23 100.0%
	全体	49 8.7%	510 90.1%	363 64.1%	261 46.1%	239 42.2%	7 1.2%	566 100.0%
女性	20歳代	20 22.0%	69 75.8%	47 51.6%	43 47.3%	15 16.5%	2 2.2%	91 100.0%
	30歳代	28 22.2%	98 77.8%	69 54.8%	61 48.4%	20 15.9%	0 0.0%	126 100.0%
	40歳代	27 14.9%	154 85.1%	111 61.3%	78 43.1%	53 29.3%	0 0.0%	181 100.0%
	50歳代	16 9.8%	143 87.7%	98 60.1%	79 48.5%	62 38.0%	4 2.5%	163 100.0%
	60歳代	15 6.9%	198 91.7%	134 62.0%	110 50.9%	104 48.1%	3 1.4%	216 100.0%
	70歳代	17 11.2%	134 88.2%	79 52.0%	66 43.4%	77 50.7%	1 0.7%	152 100.0%
	80歳以上	5 11.4%	33 75.0%	17 38.6%	14 31.8%	12 27.3%	6 13.6%	44 100.0%
	全体	129 13.2%	830 85.1%	556 57.0%	451 46.3%	343 35.2%	16 1.6%	975 100.0%

### 3) 歯周炎の治療

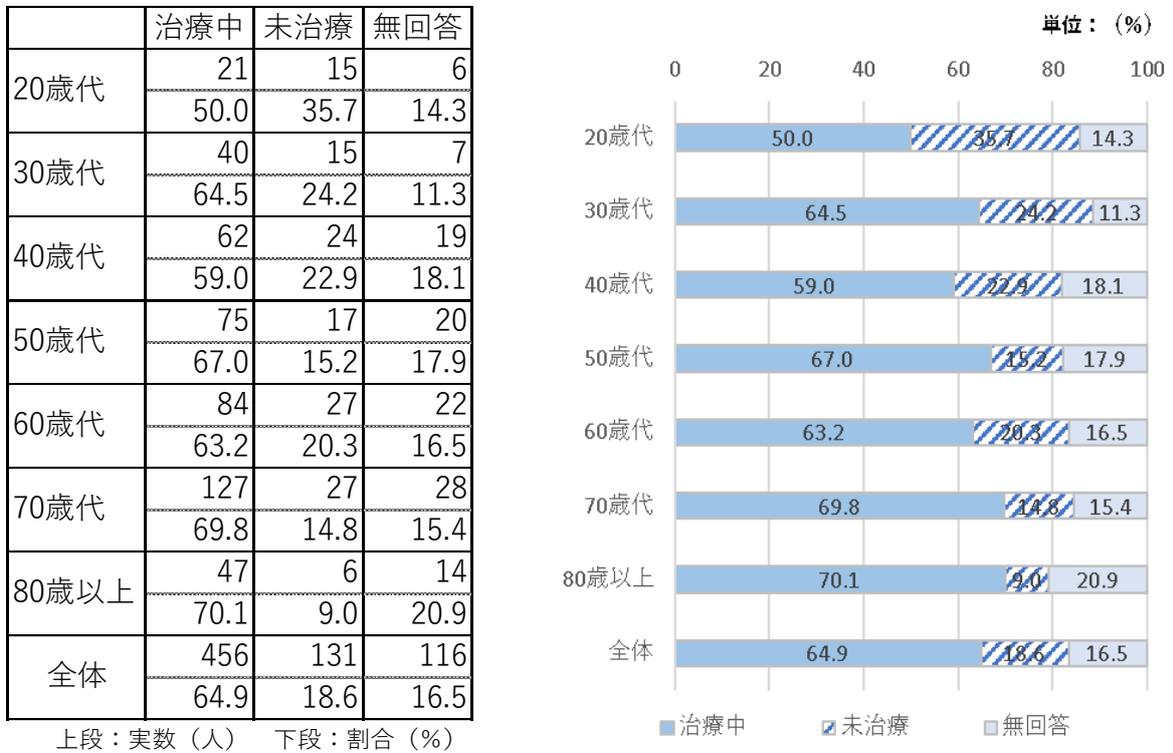
歯肉に炎症所見を有する者（CPI コード3または4）の歯周炎の治療状況は、「治療中」が全体で64.9%、「未治療」18.6%を大幅に上回っている。前回（平成28年度）調査では、「治療中」57.0%、「未治療」30.1%であったことから、治療する者の割合が増えている。

年代別にみると、20歳代においても「治療中」が50.0%、他の年代では6割台に増加する。

【表・図22 歯周炎の治療（性別）】



【表・図23 歯周炎の治療（年代別）】



#### (4) 口腔清掃状況

口腔清掃状況は、「普通」が51.1%（男性54.7%/女性48.9%）と最も多く、次いで、「良好」が34.1%（男性25.1%/女性39.7%）、「不良」が13.7%（男性19.5%/女性10.2%）となっている。

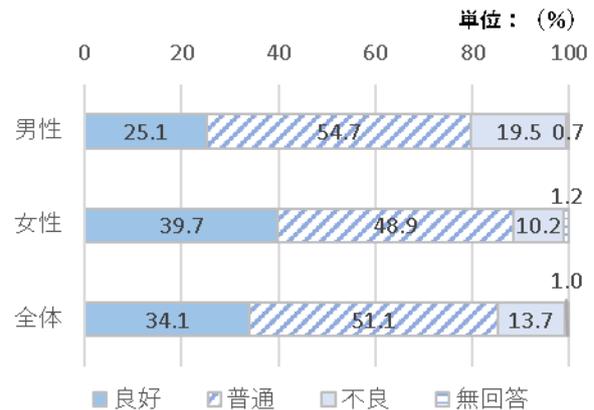
性別で見ると、女性のほうが男性に比べて「良好」が多い。

前回（平成28年度）調査では、「良好」が27.0%（男性20.1%/女性30.9%）であったので、改善傾向にある。

【表・図24 口腔清掃状況（性別）】

	良好	普通	不良	無回答
男性	138	301	107	4
	25.1	54.7	19.5	0.7
女性	351	432	90	11
	39.7	48.9	10.2	1.2
全体	491	737	198	15
	34.1	51.1	13.7	1.0

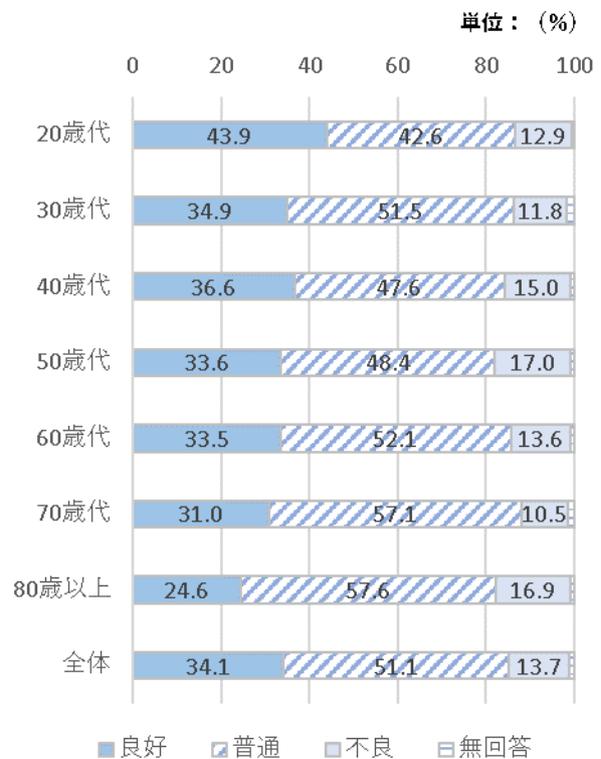
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図25 口腔清掃状況（年代別）】

	良好	普通	不良	無回答
20歳代	68	66	20	1
	43.9	42.6	12.9	0.6
30歳代	59	87	20	3
	34.9	51.5	11.8	1.8
40歳代	90	117	37	2
	36.6	47.6	15.0	0.8
50歳代	75	108	38	2
	33.6	48.4	17.0	0.9
60歳代	79	123	32	2
	33.5	52.1	13.6	0.8
70歳代	91	168	31	4
	31.0	57.1	10.5	1.4
80歳以上	29	68	20	1
	24.6	57.6	16.9	0.8
全体	491	737	198	15
	34.1	51.1	13.7	1.0

上段：実数（人） 下段：割合（%）



## (5) 顎関節の異常

### 1) 顎関節の異常

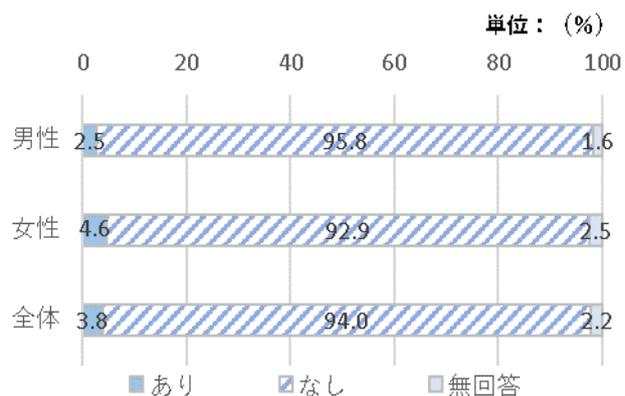
顎関節の異常所見「あり」は、全体で3.8%（男性2.5%/女性4.6%）であり、前回（平成28年度）調査の全体10.0%（男性7.6%/女性11.4%）と比較すると減少している。

また、前回調査も同様に、女性のほうが顎関節の異常所見「あり」の割合は高い。

【表・図 26 顎関節の異常（性別）】

	あり	なし	無回答
男性	14	527	9
	2.5	95.8	1.6
女性	41	821	22
	4.6	92.9	2.5
全体	55	1355	31
	3.8	94.0	2.2

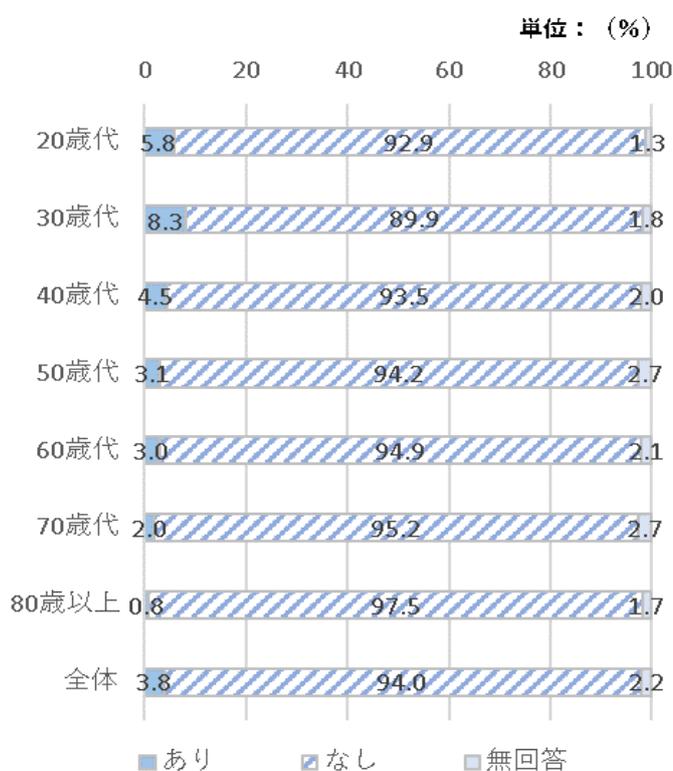
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 27 顎関節の異常（年代別）】

	あり	なし	無回答
20歳代	9	144	2
	5.8	92.9	1.3
30歳代	14	152	3
	8.3	89.9	1.8
40歳代	11	230	5
	4.5	93.5	2.0
50歳代	7	210	6
	3.1	94.2	2.7
60歳代	7	224	5
	3.0	94.9	2.1
70歳代	6	280	8
	2.0	95.2	2.7
80歳以上	1	115	2
	0.8	97.5	1.7
全体	55	1355	31
	3.8	94.0	2.2

上段：実数（人） 下段：割合（%）



## 2) 顎関節異常の自覚症状

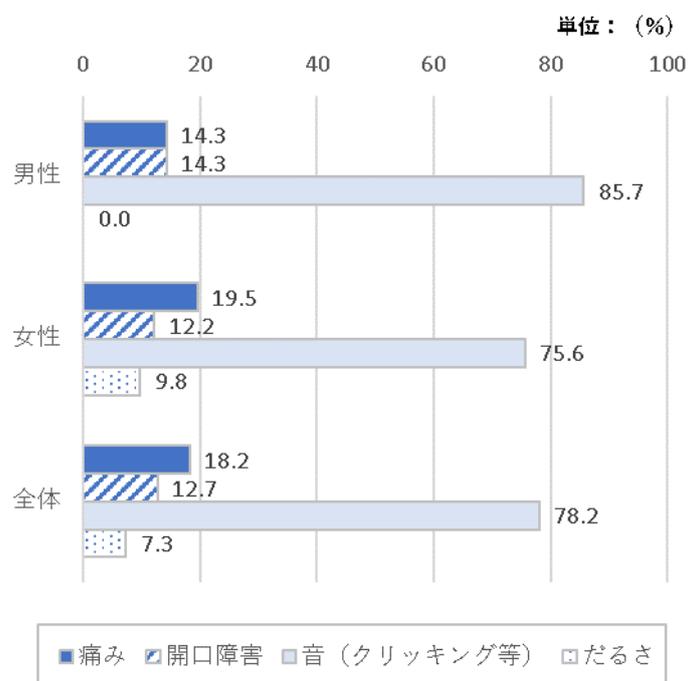
顎関節の異常所見を認めた者の自覚症状としては、「音（クリッキング等）」が78.2%と最も多く、「痛み」18.2%、「開口障害」12.7%、「だるさ」7.3%と続いている。男性には「だるさ」を訴える者がいないのに対して、女性には約1割（9.8%）みられる。「痛み」についても男性に比べて女性のほうが多い。

前回（平成28年度）調査では、性別による自覚症状に大きな差はみられず、全体で「音（クリッキング等）」66.9%が最も多いものの、「開口障害」18.8%、「だるさ」16.2%、「痛み」13.6%と、順番が変動している。

【表・図28 顎関節異常の自覚症状（性別）】

	痛み	開口障害	音（クリッキング等）	だるさ
男性	2	2	12	0
	14.3	14.3	85.7	0.0
女性	8	5	31	4
	19.5	12.2	75.6	9.8
全体	10	7	43	4
	18.2	12.7	78.2	7.3

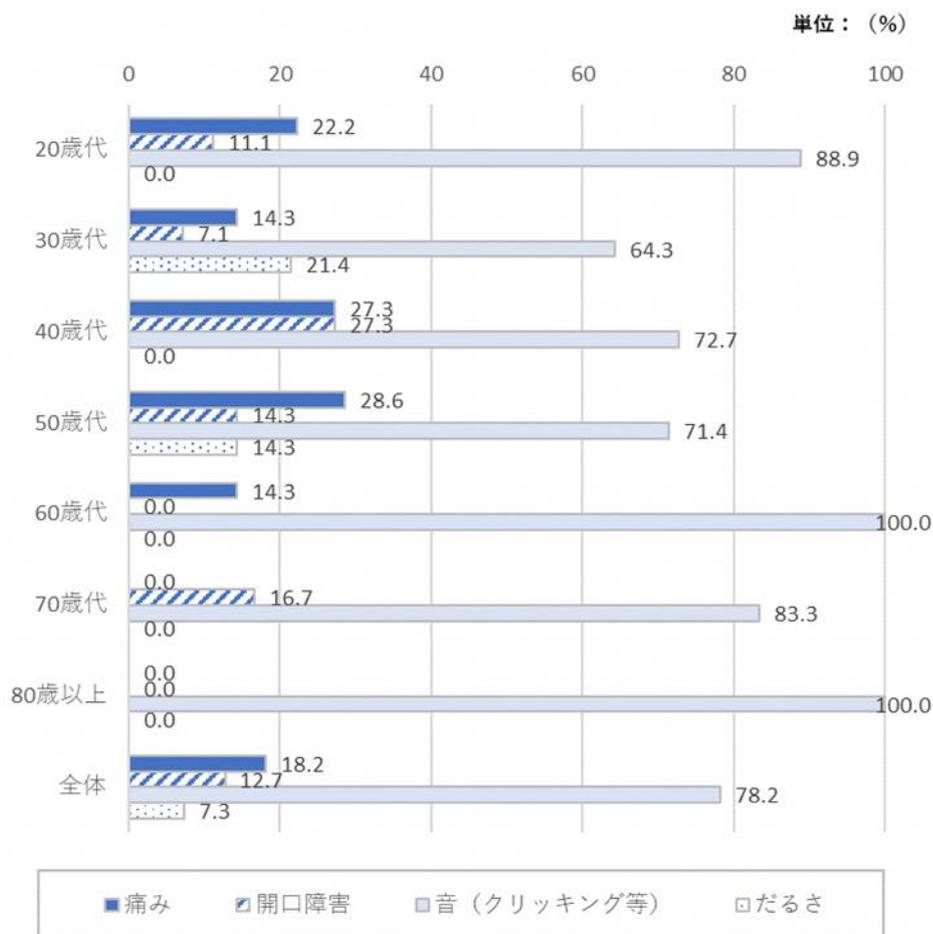
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 29 顎関節異常の自覚症状（年代別）】

	痛み	開口障害	音（クリッキング等）	だるさ
20歳代	2	1	8	0
	22.2	11.1	88.9	0.0
30歳代	2	1	9	3
	14.3	7.1	64.3	21.4
40歳代	3	3	8	0
	27.3	27.3	72.7	0.0
50歳代	2	1	5	1
	28.6	14.3	71.4	14.3
60歳代	1	0	7	0
	14.3	0.0	100.0	0.0
70歳代	0	1	5	0
	0.0	16.7	83.3	0.0
80歳以上	0	0	1	0
	0.0	0.0	100.0	0.0
全体	10	7	43	4
	18.2	12.7	78.2	7.3

上段：実数（人） 下段：割合（％）



## (6) 既往歴・現病歴

いずれかの既往歴・現病歴の基礎疾患がある者は全体の約4割強(44.2%)であり、中でも「高血圧」が2割弱(18.1%)を占め、次いで「がん」5.7%、「糖尿病」5.6%、「心臓病」4.3%となっている。また、前回(平成28年度)調査と比較すると、基礎疾患がある者は全体の4割(40.0%)であり、若干の増加傾向がみられる。

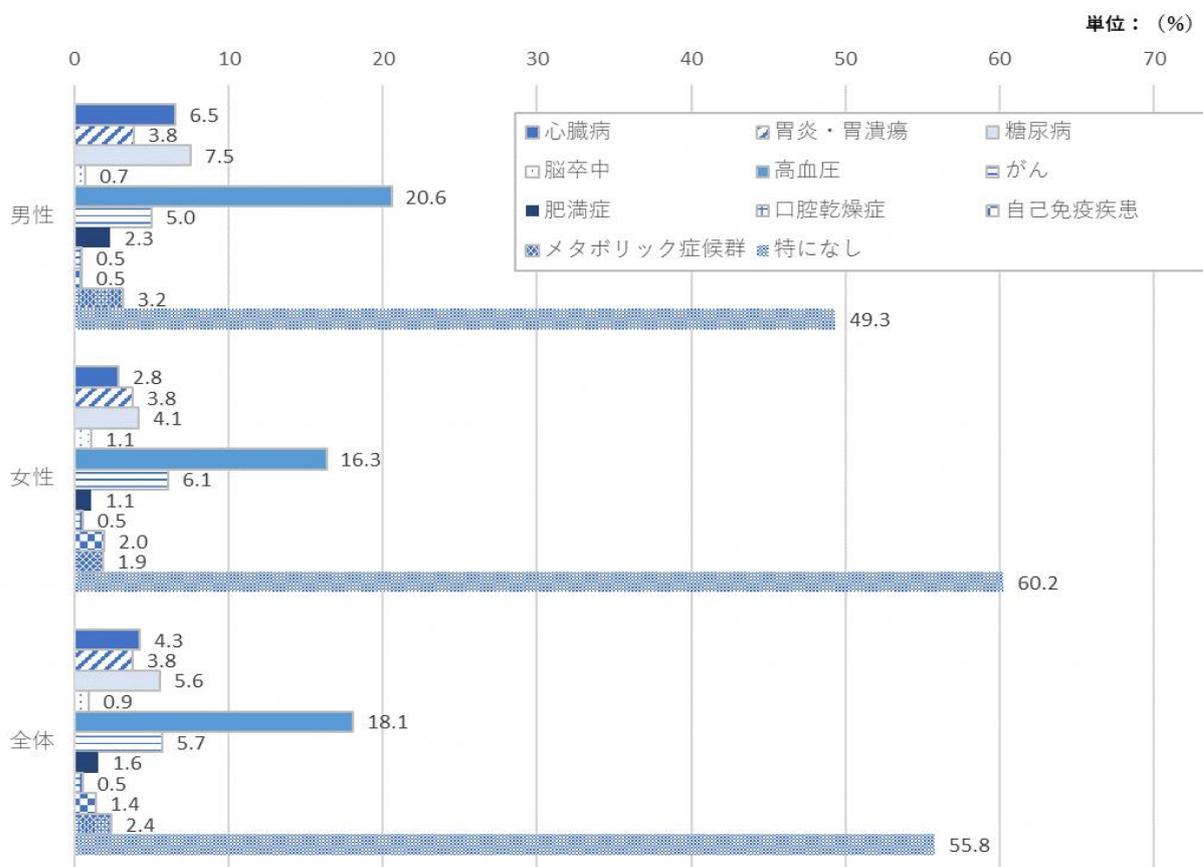
性別でみると、「心臓病」、「糖尿病」で男性の割合がやや多い。

年代別では、50歳代～80歳以上の「高血圧」が多く、80歳以上の「心臓病」、70歳代の「がん」、「糖尿病」の順に多い。

【表・図30 既往歴・現病歴(性別)】

	心臓病	胃炎・胃潰瘍	糖尿病	脳卒中	高血圧	がん	肥満症	口腔乾燥症	自己免疫疾患	メタボリック症候群	特になし
男性	39	23	45	4	123	30	14	3	3	19	295
	6.5	3.8	7.5	0.7	20.6	5.0	2.3	0.5	0.5	3.2	49.3
女性	26	35	38	10	150	56	10	5	18	17	553
	2.8	3.8	4.1	1.1	16.3	6.1	1.1	0.5	2.0	1.9	60.2
全体	65	58	85	14	275	87	24	8	21	36	850
	4.3	3.8	5.6	0.9	18.1	5.7	1.6	0.5	1.4	2.4	55.8

上段：実数(人) 下段：割合(%)

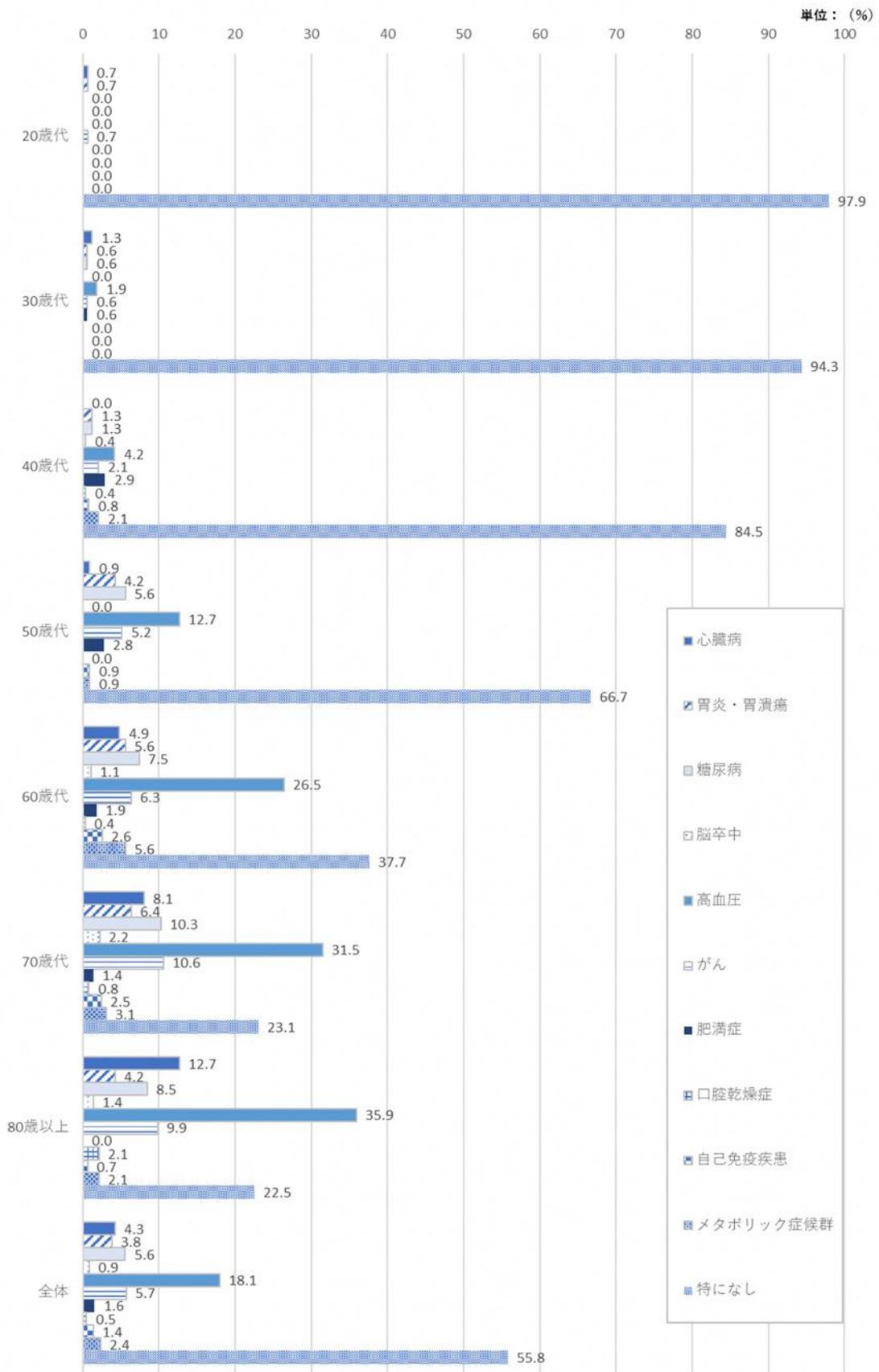


【表 31 既往歴・現病歴（年代別）】

	心臓病	胃炎・胃潰瘍	糖尿病	脳卒中	高血圧	がん	肥満症	口腔乾燥症	自己免疫疾患	メタボリック症候群	特になし
20歳代	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	141
	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	97.9
30歳代	2	1	1	0	3	1	1	0	0	0	150
	1.3	0.6	0.6	0.0	1.9	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	94.3
40歳代	0	3	3	1	10	5	7	1	2	5	201
	0.0	1.3	1.3	0.4	4.2	2.1	2.9	0.4	0.8	2.1	84.5
50歳代	2	9	12	0	27	11	6	0	2	2	142
	0.9	4.2	5.6	0.0	12.7	5.2	2.8	0.0	0.9	0.9	66.7
60歳代	13	15	20	3	71	17	5	1	7	15	101
	4.9	5.6	7.5	1.1	26.5	6.3	1.9	0.4	2.6	5.6	37.7
70歳代	29	23	37	8	113	38	5	3	9	11	83
	8.1	6.4	10.3	2.2	31.5	10.6	1.4	0.8	2.5	3.1	23.1
80歳以上	18	6	12	2	51	14	0	3	1	3	32
	12.7	4.2	8.5	1.4	35.9	9.9	0.0	2.1	0.7	2.1	22.5
全体	65	58	85	14	275	87	24	8	21	36	850
	4.3	3.8	5.6	0.9	18.1	5.7	1.6	0.5	1.4	2.4	55.8

上段：実数（人） 下段：割合（％）

【図 31 既往歴・現病歴（年代別）】



【表 32 既往歴・現病歴の治療状況（性別・年代別）】

	心臓病		
	治療中	治療済	未治療
男性	28	11	0
	71.8	28.2	0.0
女性	17	6	3
	65.4	23.1	11.5
全体	45	17	3
	69.2	26.2	4.6

	胃炎・胃潰瘍		
	治療中	治療済	未治療
男性	8	14	1
	34.8	60.9	4.3
女性	20	15	0
	57.1	42.9	0.0
全体	28	29	1
	48.3	50.0	1.7

	心臓病		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	1	0
	0.0	100.0	0.0
30歳代	1	1	0
	50.0	50.0	0.0
40歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
50歳代	1	1	0
	50.0	50.0	0.0
60歳代	6	5	2
	46.2	38.5	15.4
70歳代	21	7	1
	72.4	24.1	3.4
80歳以上	16	2	0
	88.9	11.1	0.0
全体	45	17	3
	69.2	26.2	4.6

	胃炎・胃潰瘍		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	1	0
	0.0	100.0	0.0
30歳代	0	0	1
	0.0	0.0	100.0
40歳代	1	2	0
	33.3	66.7	0.0
50歳代	3	6	0
	33.3	66.7	0.0
60歳代	5	10	0
	33.3	66.7	0.0
70歳代	15	8	0
	65.2	34.8	0.0
80歳以上	4	2	0
	66.7	33.3	0.0
全体	28	29	1
	48.3	50.0	1.7

上段：実数（人） 下段：割合（％）

【表 32-2 既往歴・現病歴の治療状況（性別・年代別）】

	糖尿病		
	治療中	治療済	未治療
男性	44	1	0
	97.8	2.2	0.0
女性	37	0	1
	97.4	0.0	2.6
全体	83	1	1
	97.6	1.2	1.2

	脳卒中		
	治療中	治療済	未治療
男性	1	3	0
	25.0	75.0	0.0
女性	5	5	0
	50.0	50.0	0.0
全体	6	8	0
	42.9	57.1	0.0

	糖尿病		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
30歳代	0	0	1
	0.0	0.0	100.0
40歳代	3	0	0
	100.0	0.0	0.0
50歳代	12	0	0
	100.0	0.0	0.0
60歳代	19	1	0
	95.0	5.0	0.0
70歳代	37	0	0
	100.0	0.0	0.0
80歳以上	12	0	0
	100.0	0.0	0.0
全体	83	1	1
	97.6	1.2	1.2

	脳卒中		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
30歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
40歳代	1	0	0
	100.0	0.0	0.0
50歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
60歳代	0	3	0
	0.0	100.0	0.0
70歳代	4	4	0
	50.0	50.0	0.0
80歳以上	1	1	0
	50.0	50.0	0.0
全体	6	8	0
	42.9	57.1	0.0

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【表 32-3 既往歴・現病歴の治療状況（性別・年代別）】

	高血圧症		
	治療中	治療済	未治療
男性	115	4	4
	93.5	3.3	3.3
女性	149	1	0
	99.3	0.7	0.0
全体	266	5	4
	96.7	1.8	1.5

	がん		
	治療中	治療済	未治療
男性	8	27	0
	26.7	73.3	0.0
女性	16	40	0
	28.6	71.4	0.0
全体	24	63	0
	27.6	72.4	0.6

	高血圧症		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
30歳代	2	1	0
	66.7	33.3	0.0
40歳代	9	1	0
	90.0	10.0	0.0
50歳代	27	0	0
	100.0	0.0	0.0
60歳代	69	1	1
	97.2	1.4	1.4
70歳代	109	1	3
	96.5	0.9	2.7
80歳以上	50	1	0
	98.0	2.0	0.0
全体	266	5	4
	96.7	1.8	1.5

	がん		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	1	0
	0.0	100.0	0.0
30歳代	0	1	0
	0.0	100.0	0.0
40歳代	2	3	0
	40.0	60.0	0.0
50歳代	3	8	0
	27.3	72.7	0.0
60歳代	5	12	0
	29.4	70.6	0.0
70歳代	13	25	0
	34.2	65.8	0.0
80歳以上	1	13	0
	7.1	92.9	0.0
全体	24	63	0
	27.6	72.4	0.0

上段：実数（人） 下段：割合（％）

【表 32-4 既往歴・現病歴の治療状況（性別・年代別）】

	肥満症		
	治療中	治療済	未治療
男性	6	2	6
	42.9	14.3	42.9
女性	0	0	10
	0.0	0.0	100.0
全体	6	2	16
	25.0	8.3	66.7

	口腔乾燥症		
	治療中	治療済	未治療
男性	2	0	1
	66.7	0.0	33.3
女性	2	0	3
	40.0	0.0	60.0
全体	4	0	4
	50.0	0.0	50.0

	肥満症		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
30歳代	1	0	0
	100.0	0.0	0.0
40歳代	1	2	4
	14.3	28.6	57.1
50歳代	1	0	5
	16.7	0.0	83.3
60歳代	2	0	3
	40.0	0.0	60.0
70歳代	1	0	4
	20.0	0.0	80.0
80歳以上	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
全体	6	2	16
	25.0	8.3	66.7

	口腔乾燥症		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
30歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
40歳代	0	0	1
	0.0	0.0	100.0
50歳代	0	0	0
	0.0	0.0	100.0
60歳代	0	0	1
	0.0	0.0	100.0
70歳代	2	0	1
	66.7	0.0	33.3
80歳以上	2	0	1
	66.7	0.0	33.3
全体	4	0	4
	50.0	0.0	50.0

上段：実数（人） 下段：割合（％）

【表 32-5 既往歴・現病歴の治療状況（性別・年代別）】

	自己免疫疾患		
	治療中	治療済	未治療
男性	3	0	0
	100.0	0.0	0.0
女性	16	1	1
	88.9	5.6	5.6
全体	19	1	1
	90.5	4.8	4.8

	メタボリック症候群		
	治療中	治療済	未治療
男性	8	0	11
	42.1	0.0	57.9
女性	14	1	2
	82.4	5.9	11.8
全体	22	1	13
	61.1	2.8	36.1

	自己免疫疾患		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
30歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
40歳代	1	0	1
	50.0	0.0	50.0
50歳代	2	0	0
	100.0	0.0	0.0
60歳代	7	0	0
	100.0	0.0	0.0
70歳代	8	1	0
	88.9	11.1	0.0
80歳以上	1	0	0
	100.0	0.0	0.0
全体	19	1	1
	90.5	4.8	4.8

	メタボリック症候群		
	治療中	治療済	未治療
20歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
30歳代	0	0	0
	0.0	0.0	0.0
40歳代	2	0	3
	40.0	0.0	60.0
50歳代	0	0	2
	0.0	0.0	100.0
60歳代	9	1	5
	60.0	6.7	33.3
70歳代	9	0	2
	81.8	0.0	18.2
80歳以上	2	0	1
	66.7	0.0	33.3
全体	22	1	13
	61.1	2.8	36.1

上段：実数（人） 下段：割合（％）

### 3 歯科に関するアンケート

#### 問1 あなたは歯や口の中について、悩みや気になることがありますか。

歯や口の中についての悩みや気になることは、「食べ物のはさまる」が43.2%（男性40.9%/女性44.7%）で最も多く、「歯が痛んだり、しみたりする」27.2%（男性29.3%/女性26.0%）、「歯ぐきから血が出たり腫れたりする」22.5%（男性21.6%/女性23.1%）、「歯がない、歯のないところがある」20.7%（男性22.2%/女性19.7%）と続いている。

性別で比較してみると、男性は「歯周病（歯槽膿漏）のような気がする」21.3%（女性16.0%）、「口臭がある」20.9%（女性13.9%）が多く、女性は「食べ物のはさまる」44.7%（男性40.9%）、「口の中が乾きやすい」11.9%（男性8.4%）が多いなどの差がみられた。

年代別で比較してみると、80歳代では「食事の時にむせたり、食べこぼす」が15.3%と多くなっている。

【表33 歯や口の中についての悩み等（性別）】

	歯が痛んだり、しみたりする	歯がぐらつく	歯ぐきから血が出たり腫れたりする	食べ物のはさまる	口臭がある	粘るような不快感がある	歯周病（歯槽膿漏）のような気がする	歯並びやかみ合わせが気になる	歯がない、歯のないところがある	食べ物がかめにくい	口の中が乾きやすい	飲み込みにくくなった	食事の時にむせたり、食べこぼす	滑舌が悪くなった	その他	特になし
男性	161	64	119	225	115	23	117	96	122	35	46	13	20	33	7	100
	29.3	11.6	21.6	40.9	20.9	4.2	21.3	17.5	22.2	6.4	8.4	2.4	3.6	6.0	1.3	18.2
女性	230	70	204	395	123	42	141	173	174	49	105	24	46	39	24	136
	26.0	7.9	23.1	44.7	13.9	4.8	16.0	19.6	19.7	5.5	11.9	2.7	5.2	4.4	2.7	15.4
全体	392	134	324	622	239	65	259	269	299	85	152	37	66	72	32	239
	27.2	9.3	22.5	43.2	16.6	4.5	18.0	18.7	20.7	5.9	10.5	2.6	4.6	5.0	2.2	16.6

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【表34 歯や口の中についての悩み等（年代別）】

	歯が痛んだり、しみたりする	歯がぐらつく	歯ぐきから血が出たり腫れたりする	食べ物のはさまる	口臭がある	粘るような不快感がある	歯周病（歯槽膿漏）のような気がする	歯並びやかみ合わせが気になる	歯がない、歯のないところがある	食べ物がかめにくい	口の中が乾きやすい	飲み込みにくくなった	食事の時にむせたり、食べこぼす	滑舌が悪くなった	その他	特になし
20歳代	55	4	32	51	15	3	17	37	8	3	13	1	1	5	1	38
	35.5	2.6	20.6	32.9	9.7	1.9	11.0	23.9	5.2	1.9	8.4	0.6	0.6	3.2	0.6	24.5
30歳代	63	5	45	50	30	8	17	46	7	3	19	1	1	3	6	26
	37.3	3.0	26.6	29.6	17.8	4.7	10.1	27.2	4.1	1.8	11.2	0.6	0.6	1.8	3.6	15.4
40歳代	75	11	62	96	48	9	38	52	31	5	20	4	5	8	7	41
	30.5	4.5	25.2	39.0	19.5	3.7	15.4	21.1	12.6	2.0	8.1	1.6	2.0	3.3	2.8	16.7
50歳代	68	22	64	109	45	15	57	39	32	12	17	1	8	8	3	34
	30.5	9.9	28.7	48.9	20.2	6.7	25.6	17.5	14.3	5.4	7.6	0.4	3.6	3.6	1.3	15.2
60歳代	50	30	59	119	46	13	61	41	67	20	24	12	12	18	5	33
	21.2	12.7	25.0	50.4	19.5	5.5	25.8	17.4	28.4	8.5	10.2	5.1	5.1	7.6	2.1	14.0
70歳代	64	40	46	148	41	13	56	35	110	28	43	10	21	20	8	42
	21.8	13.6	15.6	50.3	13.9	4.4	19.0	11.9	37.4	9.5	14.6	3.4	7.1	6.8	2.7	14.3
80歳以上	17	22	16	49	14	4	13	19	44	14	16	8	18	10	2	25
	14.4	18.6	13.6	41.5	11.9	3.4	11.0	16.1	37.3	11.9	13.6	6.8	15.3	8.5	1.7	21.2
全体	392	134	324	622	239	65	259	269	299	85	152	37	66	72	32	239
	27.2	9.3	22.5	43.2	16.6	4.5	18.0	18.7	20.7	5.9	10.5	2.6	4.6	5.0	2.2	16.6

上段：実数（人） 下段：割合（%）

## 問2 あなたは歯や歯ぐきの健康のために、普段どのようなことをしていますか。

歯や歯ぐきの健康のために普段から行なっていることは、多い順に「食後歯を磨いている」57.2%（男性50.5%/女性61.2%）、「定期的に歯石をとってもらう」51.1%（男性43.5%/女性56.1%）、「口をすすいでいる」34.6%（男性33.5%/女性35.5%）、「歯の根もとまで磨いている」33.4%（男性32.4%/女性34.0%）が3割を超える回答である。全項目とも女性の割合が高くなっている。

【表35 歯や歯ぐきの健康のために行っていること（性別）】

	定期的に 歯石を とってもらう	食後歯を 磨いている	口をすす いでいる	歯の根も とまで磨 いている	甘いもの の飲食を 控えている	バランス のとれた 食事をして いる	よくかん で食べて いる	週に1回以 上歯や歯ぐ きの様子を 観察してい る	喫煙をし ないよう にしてい る	特に何も していな い
男性	239	278	184	178	51	85	95	33	142	67
	43.5	50.5	33.5	32.4	9.3	15.5	17.3	6.0	25.8	12.2
女性	496	541	314	301	70	186	166	59	174	78
	56.1	61.2	35.5	34.0	7.9	21.0	18.8	6.7	19.7	8.8
全体	737	824	499	481	122	272	262	92	318	145
	51.1	57.2	34.6	33.4	8.5	18.9	18.2	6.4	22.1	10.1

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【表36 歯や歯ぐきの健康のために行っていること（年代別）】

	定期的に 歯石を とってもらう	食後歯を 磨いている	口をすす いでいる	歯の根も とまで磨 いている	甘いもの の飲食を 控えている	バランス のとれた 食事をして いる	よくかん で食べて いる	週に1回以 上歯や歯ぐ きの様子を 観察してい る	喫煙をし ないよう にしてい る	特に何も していな い
20歳代	52	92	48	30	8	15	22	7	36	20
	33.5	59.4	31.0	19.4	5.2	9.7	14.2	4.5	23.2	12.9
30歳代	76	110	54	45	17	26	23	9	48	13
	45.0	65.1	32.0	26.6	10.1	15.4	13.6	5.3	28.4	7.7
40歳代	133	126	66	76	17	32	30	13	54	22
	54.1	51.2	26.8	30.9	6.9	13.0	12.2	5.3	22.0	8.9
50歳代	106	122	70	76	9	31	21	14	48	22
	47.5	54.7	31.4	34.1	4.0	13.9	9.4	6.3	21.5	9.9
60歳代	141	132	75	75	19	54	43	11	47	29
	59.7	55.9	31.8	31.8	8.1	22.9	18.2	4.7	19.9	12.3
70歳代	174	177	128	122	36	79	83	26	55	22
	59.2	60.2	43.5	41.5	12.2	26.9	28.2	8.8	18.7	7.5
80歳以上	55	65	58	57	16	35	40	12	30	17
	46.6	55.1	49.2	48.3	13.6	29.7	33.9	10.2	25.4	14.4
全体	737	824	499	481	122	272	262	92	318	145
	51.1	57.2	34.6	33.4	8.5	18.9	18.2	6.4	22.1	10.1

上段：実数（人） 下段：割合（%）

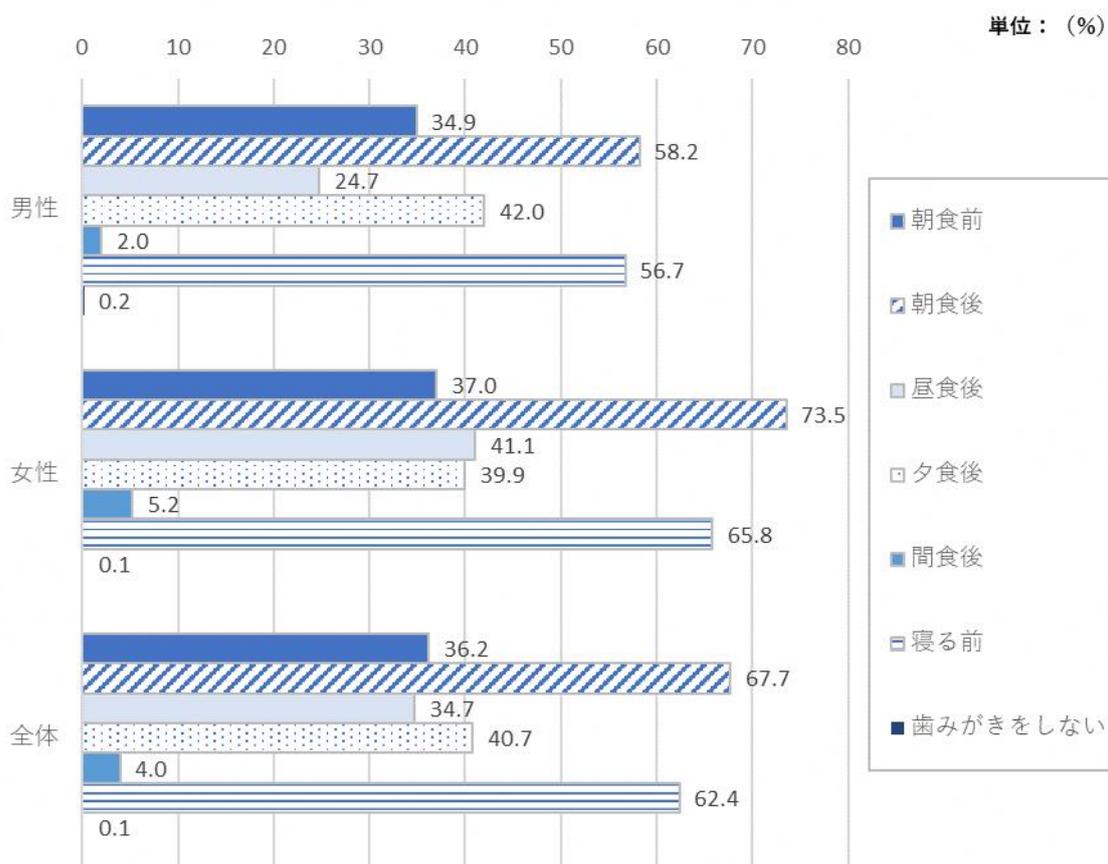
### 問3 あなたはいつ歯みがき（入れ歯の手入れ）をしますか。

歯みがき（入れ歯の手入れ）をするタイミングとしては、「朝食後」67.7%（男性58.2%/女性73.5%）と「寝る前」62.4%（男性56.7%/女性65.8%）が6割強と多い。「夕食後」40.7%（男性42.0%/女性39.9%）」は約4割、「朝食前」36.2%（男性34.9%/女性37.0%）と「昼食後」34.7%（男性24.7%/女性41.1%）は3割強にとどまっている。

【表・図37 歯みがきの状況（性別）】

	朝食前	朝食後	昼食後	夕食後	間食後	寝る前	歯みがきをしない
男性	192	320	136	231	11	312	1
	34.9	58.2	24.7	42.0	2.0	56.7	0.2
女性	327	650	363	353	46	582	1
	37.0	73.5	41.1	39.9	5.2	65.8	0.1
全体	521	975	500	587	57	899	2
	36.2	67.7	34.7	40.7	4.0	62.4	0.1

上段：実数（人） 下段：割合（%）

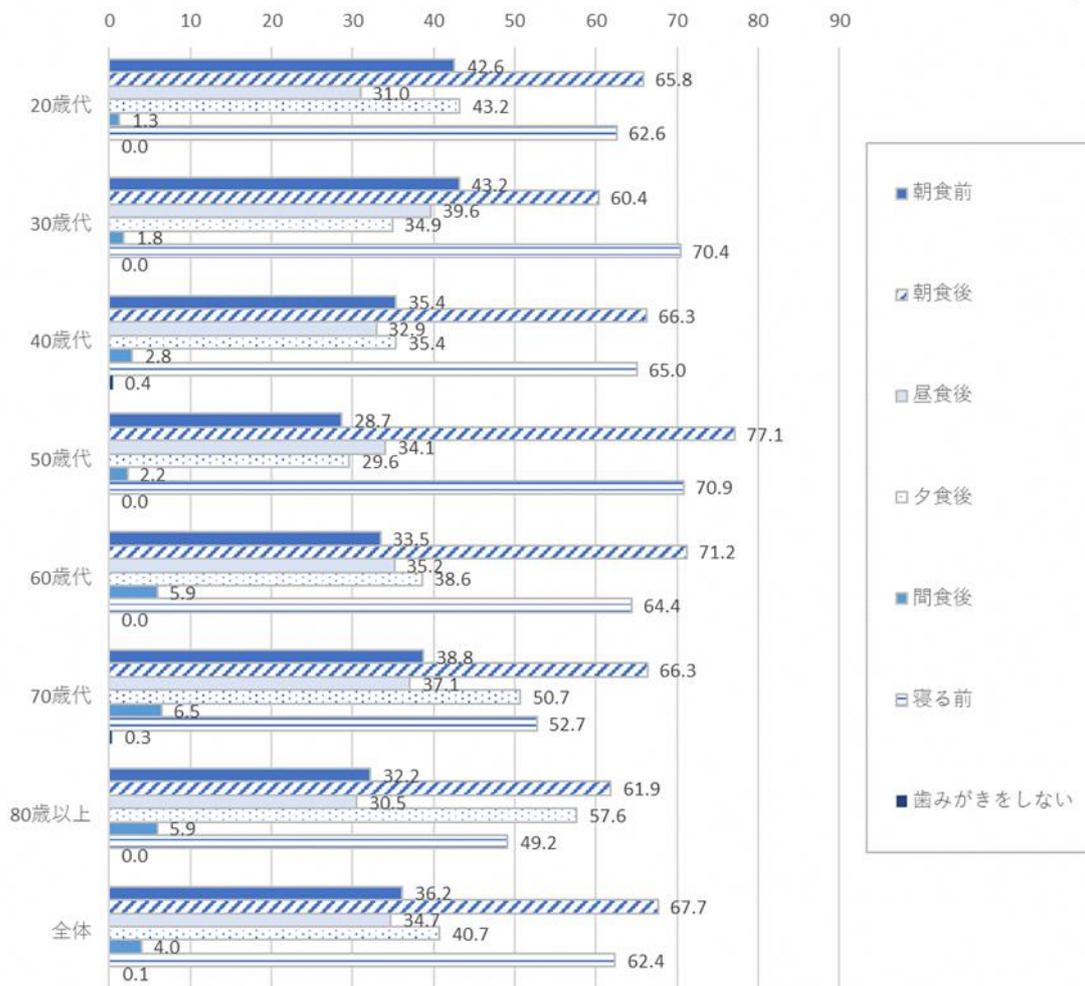


【表・図 38 歯みがきの状況（年代別）】

	朝食前	朝食後	昼食後	夕食後	間食後	寝る前	歯みがきをしない
20歳代	66	102	48	67	2	97	0
	42.6	65.8	31.0	43.2	1.3	62.6	0.0
30歳代	73	102	67	59	3	119	0
	43.2	60.4	39.6	34.9	1.8	70.4	0.0
40歳代	87	163	81	87	7	160	1
	35.4	66.3	32.9	35.4	2.8	65.0	0.4
50歳代	64	172	76	66	5	158	0
	28.7	77.1	34.1	29.6	2.2	70.9	0.0
60歳代	79	168	83	91	14	152	0
	33.5	71.2	35.2	38.6	5.9	64.4	0.0
70歳代	114	195	109	149	19	155	1
	38.8	66.3	37.1	50.7	6.5	52.7	0.3
80歳以上	38	73	36	68	7	58	0
	32.2	61.9	30.5	57.6	5.9	49.2	0.0
全体	521	975	500	587	57	899	2
	36.2	67.7	34.7	40.7	4.0	62.4	0.1

上段：実数（人） 下段：割合（％）

単位：（％）



## 歯みがき回数

歯みがきの回数としては、「2回」が46.8%と最も多く、次いで「3回」が29.9%となっており、約9割が1日に2回以上の歯みがきをしている。

また、歯みがきの平均回数でみると、全体では2.5回となっており、性別でみると、男性では2.2回、女性では2.6回であり、女性のほうが頻度は高くなっている。

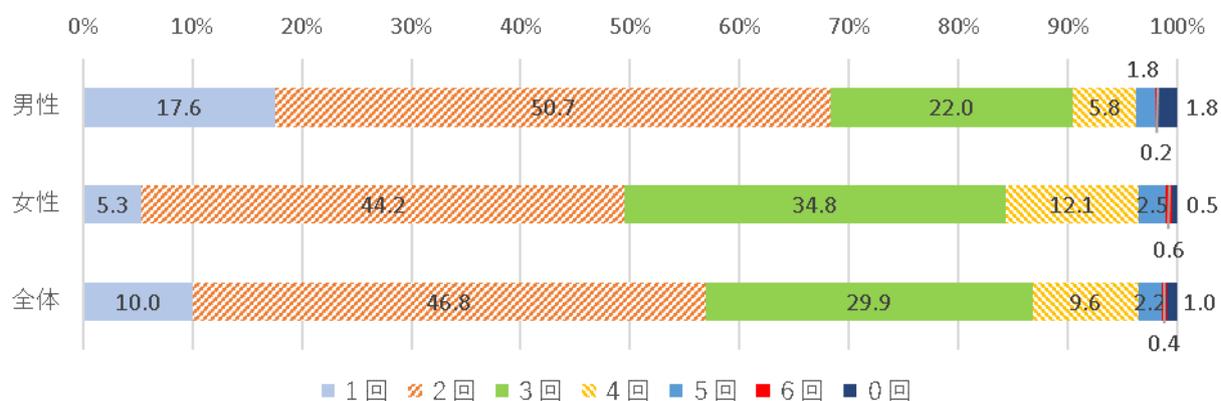
1日に1回の歯みがきをする割合は、男性では17.6%、女性では5.3%であり、男性のほうが12.3%ポイント高くなっている。

年代別でみると、1日に1回の歯みがきをする割合は、80歳以上では16.3%と最も多く、次いで40歳代では13.4%となっている。

【表・図 39 歯みがき回数（性別）】

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	0回
男性	97	279	121	32	10	1	10
	17.6	50.7	22.0	5.8	1.8	0.2	1.8
女性	47	391	308	107	22	5	4
	5.3	44.2	34.8	12.1	2.5	0.6	0.5
全体	144	675	431	139	32	6	14
	10.0	46.8	29.9	9.6	2.2	0.4	1.0

上段：実数（人） 下段：割合（%）

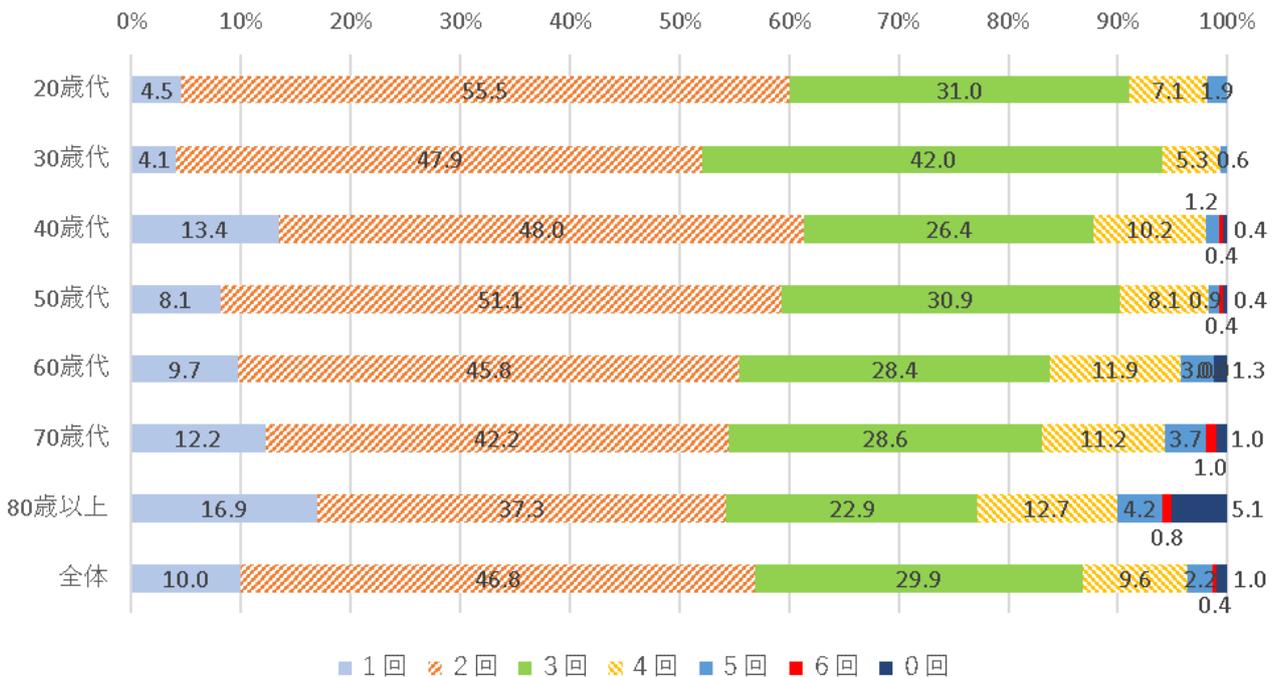


【表・図 40 歯みがき回数（年代別）】

	歯みがき回数							平均歯みがき回数		
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	0回	全体	男性	女性
20歳代	7	86	48	11	3	0	0	2.5	2.2	2.6
	4.5	55.5	31.0	7.1	1.9	0.0	0.0			
30歳代	7	81	71	9	1	0	0	2.5	2.5	2.3
	4.1	47.9	42.0	5.3	0.6	0.0	0.0			
40歳代	33	118	65	25	3	1	1	2.4	2.1	2.6
	13.4	48.0	26.4	10.2	1.2	0.4	0.4			
50歳代	18	114	69	18	2	1	1	2.4	2.1	2.6
	8.1	51.1	30.9	8.1	0.9	0.4	0.4			
60歳代	23	108	67	28	7	0	3	2.5	2.2	2.7
	9.7	45.8	28.4	11.9	3.0	0.0	1.3			
70歳代	36	124	84	33	11	3	3	2.5	2.3	2.6
	12.2	42.2	28.6	11.2	3.7	1.0	1.0			
80歳以上	20	44	27	15	5	1	6	2.4	2.0	2.6
	16.9	37.3	22.9	12.7	4.2	0.8	5.1			
全体	144	675	431	139	32	6	14	2.5	2.2	2.6
	10.0	46.8	29.9	9.6	2.2	0.4	1.0			

上段：実数（人） 下段：割合（％）

単位：（回）



#### 問4 あなたは歯ブラシ以外にどのような清掃用具を習慣的に使っていますか。

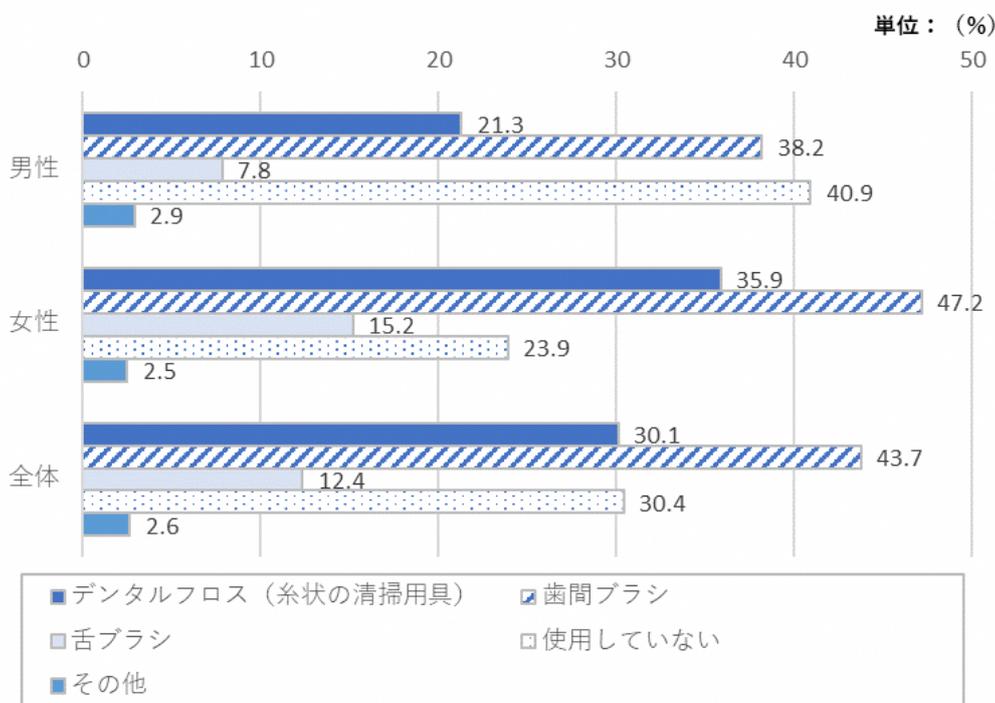
歯ブラシ以外の清掃用具の習慣的な使用状況としては、「歯間ブラシ」が最も多く43.7%（男性38.2%/女性47.2%）、「デンタルフロス（糸状の清掃用具）」30.1%（男性21.3%/女性35.9%）、「舌ブラシ」12.4%（男性7.8%/女性15.2%）となっている。「使用していない」が30.4%（男性40.9%/女性23.9%）という結果である。歯ブラシ以外の何らかの清掃用具を約7割弱が習慣的に使用している。

性別でみると、いずれの清掃用具も男性より女性のほうが使用している割合が高い。

【表・図41 清掃用具の使用状況（性別）】

	デンタルフロス（糸状の清掃用具）	歯間ブラシ	舌ブラシ	使用していない	その他
男性	117	210	43	225	16
	21.3	38.2	7.8	40.9	2.9
女性	317	417	134	211	22
	35.9	47.2	15.2	23.9	2.5
全体	434	630	178	438	38
	30.1	43.7	12.4	30.4	2.6

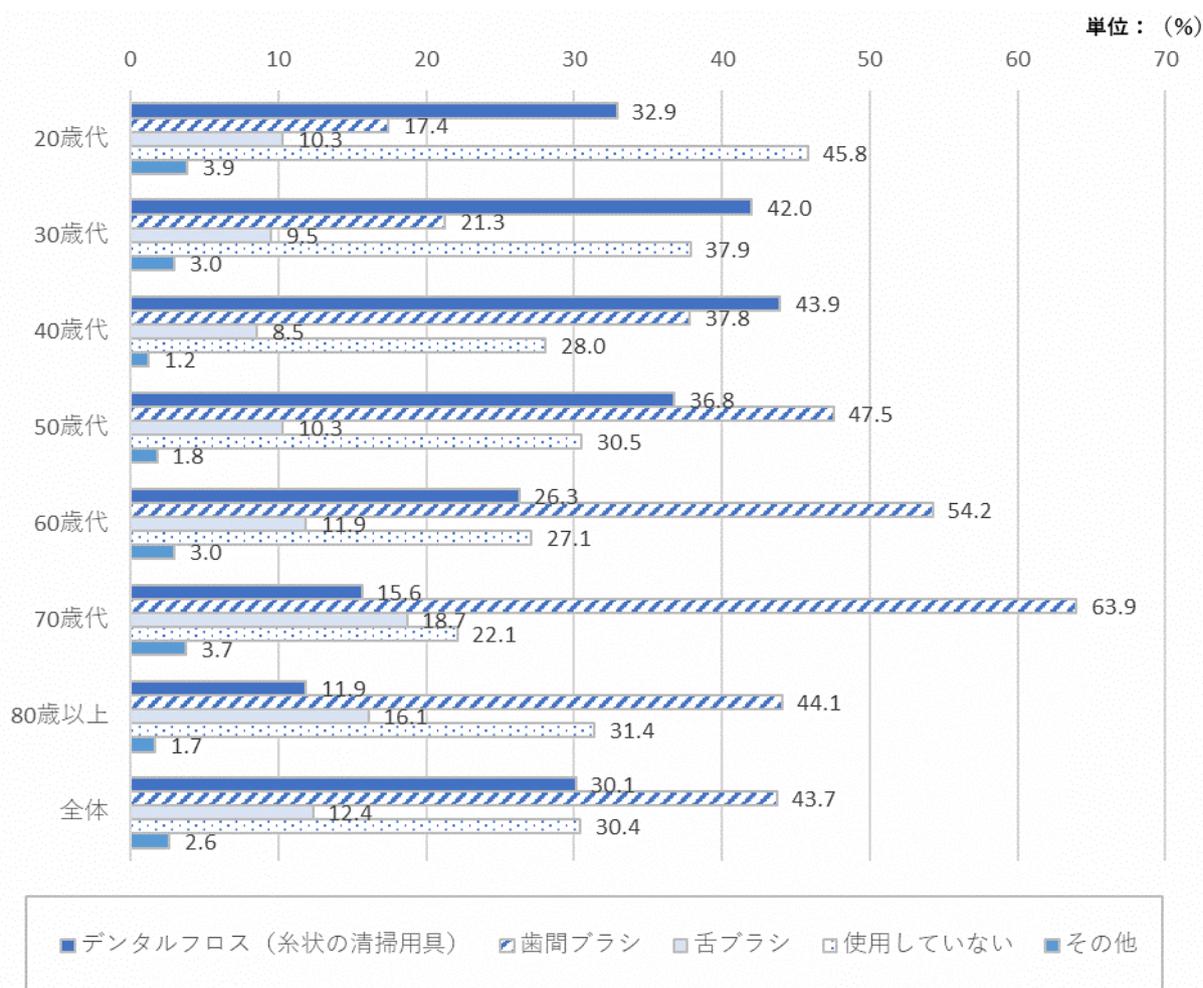
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 42 清掃用具の使用状況（年代別）】

	デンタルフロス（糸状の清掃用具）	歯間ブラシ	舌ブラシ	使用していない	その他
20歳代	51	27	16	71	6
	32.9	17.4	10.3	45.8	3.9
30歳代	71	36	16	64	5
	42.0	21.3	9.5	37.9	3.0
40歳代	108	93	21	69	3
	43.9	37.8	8.5	28.0	1.2
50歳代	82	106	23	68	4
	36.8	47.5	10.3	30.5	1.8
60歳代	62	128	28	64	7
	26.3	54.2	11.9	27.1	3.0
70歳代	46	188	55	65	11
	15.6	63.9	18.7	22.1	3.7
80歳以上	14	52	19	37	2
	11.9	44.1	16.1	31.4	1.7
全体	434	630	178	438	38
	30.1	43.7	12.4	30.4	2.6

上段：実数（人） 下段：割合（％）



## 問5 あなたはどんなときに歯科医院に行きますか。

歯科医院を受診する理由としては、「口の中が気にならなくても定期的に受診する（定期健診、歯石除去など）」が49.4%（男性41.1%/女性54.8%）と約5割を占めて最も多い。次いで「痛みや不自由を感じたとき」が32.8%（男性41.6%/女性27.3%）、「口の中が気になったとき」が15.0%（男性13.1%/女性16.2%）、「少々の痛みや不自由では行かない」が1.6%（男性2.4%/女性1.0%）となっている。

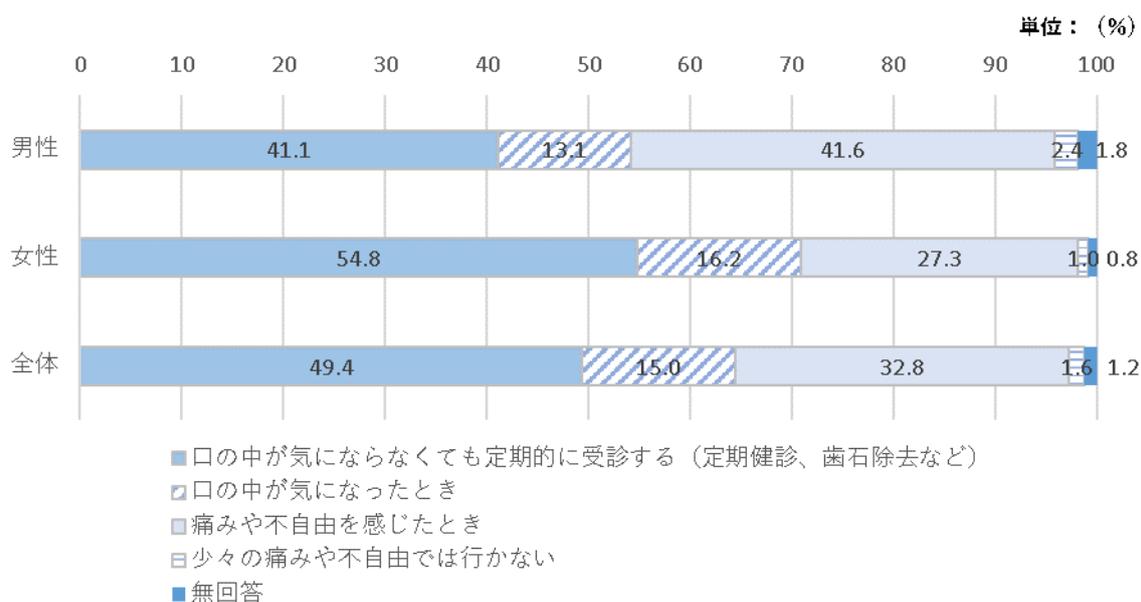
性別でみると、男性は「口の中が気にならなくても定期的に受診する」と「痛みや不自由を感じたとき」が約4割であるのに対して、女性は「口の中が気にならなくても定期的に受診する」が5割強、「痛みや不自由を感じたとき」が3割弱と男女で異なる。

年代別にみると、20歳代は「痛みや不自由を感じたとき」が最も多いが、それ以外の年代は「口の中が気にならなくても定期的に受診する」が最も多い。

【表・図43 歯科医院の受診理由（性別）】

	口の中が気にならなくても定期的に受診する（定期健診、歯石除去など）	口の中が気になったとき	痛みや不自由を感じたとき	少々の痛みや不自由では行かない	無回答
男性	226	72	229	13	10
	41.1	13.1	41.6	2.4	1.8
女性	484	143	241	9	7
	54.8	16.2	27.3	1.0	0.8
全体	712	216	473	23	17
	49.4	15.0	32.8	1.6	1.2

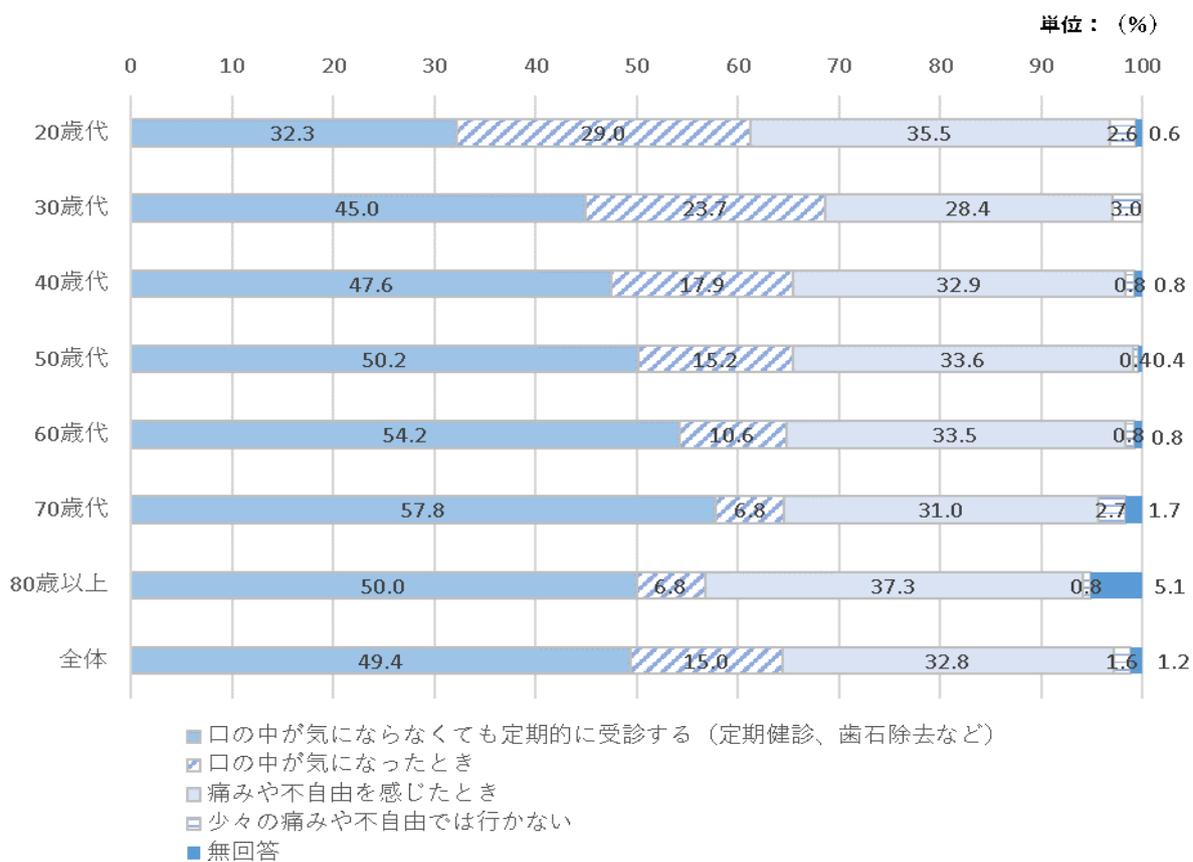
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 44 歯科医院の受診理由（年代別）】

	口の中が気にならなくても定期的に受診する（定期健診、歯石除去など）	口の中が気になったとき	痛みや不自由を感じたとき	少々の痛みや不自由では行かない	無回答
20歳代	50	45	55	4	1
	32.3	29.0	35.5	2.6	0.6
30歳代	76	40	48	5	0
	45.0	23.7	28.4	3.0	0.0
40歳代	117	44	81	2	2
	47.6	17.9	32.9	0.8	0.8
50歳代	112	34	75	1	1
	50.2	15.2	33.6	0.4	0.4
60歳代	128	25	79	2	2
	54.2	10.6	33.5	0.8	0.8
70歳代	170	20	91	8	5
	57.8	6.8	31.0	2.7	1.7
80歳以上	59	8	44	1	6
	50.0	6.8	37.3	0.8	5.1
全体	712	216	473	23	17
	49.4	15.0	32.8	1.6	1.2

上段：実数（人） 下段：割合（%）



### 問6 「かかりつけ歯科医」をもちっていますか。

「かかりつけ歯科医をもちている」は、82.1%（男性76.2%/女性85.9%）で、「もっていない」16.4%（男性22.2%/女性12.8%）を大きく上回っている。

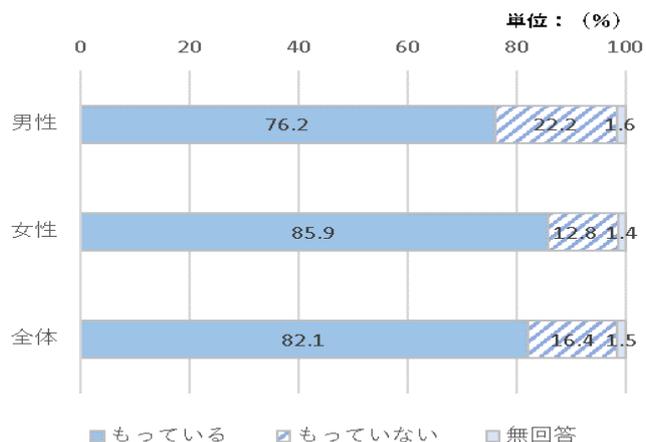
性別で見ると、女性は約8.5割、男性は約7.5割が、「かかりつけ歯科医をもちている」という結果である。

年代別では、20歳代で約6割、30歳代で約7割、40歳代以上は8割～9割が「かかりつけ歯科医をもちている」と回答している。

【表・図45 かかりつけ歯科医の有無（性別）】

	もって いる	もって いない	無回答
男性	419	122	9
	76.2	22.2	1.6
女性	759	113	12
	85.9	12.8	1.4
全体	1183	237	21
	82.1	16.4	1.5

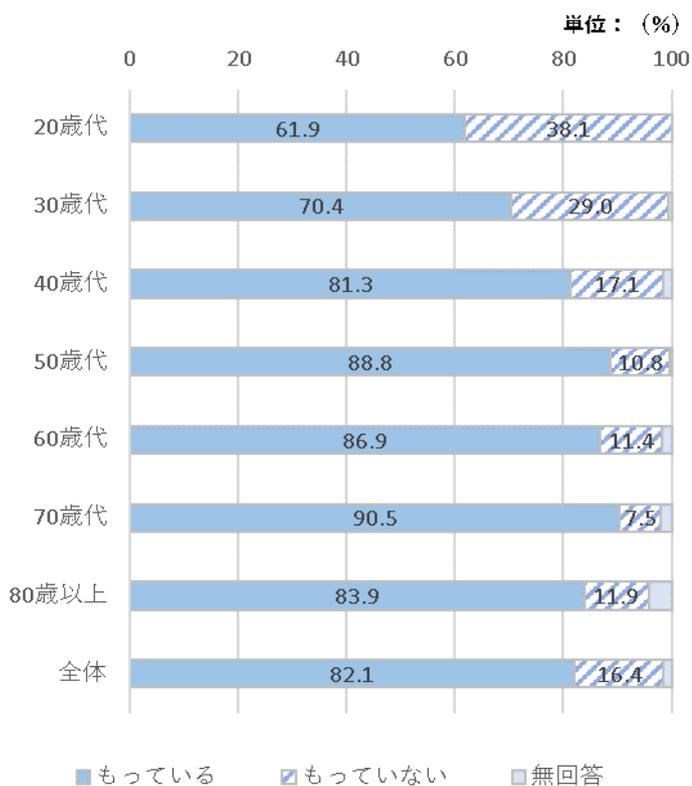
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図46 かかりつけ歯科医の有無（年代別）】

	もって いる	もって いない	無回答
20歳代	96	59	0
	61.9	38.1	0.0
30歳代	119	49	1
	70.4	29.0	0.6
40歳代	200	42	4
	81.3	17.1	1.6
50歳代	198	24	1
	88.8	10.8	0.4
60歳代	205	27	4
	86.9	11.4	1.7
70歳代	266	22	6
	90.5	7.5	2.0
80歳以上	99	14	5
	83.9	11.9	4.2
全体	1183	237	21
	82.1	16.4	1.5

上段：実数（人） 下段：割合（%）



### 問7 あなたは過去1年間に歯科健診を受けましたか。

過去1年間に歯科健診を「受けた」と回答した者は、全体で66.5%（男性58.5%/女性71.3%）、  
「受けていない」は32.3%（男性40.2%/女性27.5%）であった。

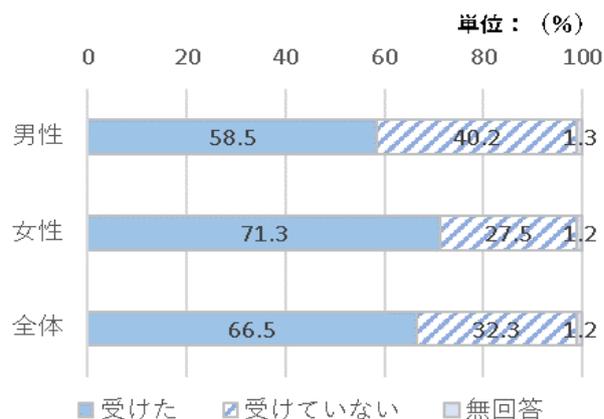
性別で見ると、女性は約7割、男性は約6割が過去1年間に歯科健診を受けている。

年代別では、70歳代が最も受診率が高く76.9%、反対に低いのは20歳代55.5%、30歳代58.0%である。40歳代以降は70歳代を除いて、66~67%の者が歯科健診を受けている。

【表・図47 歯科健診の受診状況（性別）】

	受けた	受けていない	無回答
男性	322	221	7
	58.5	40.2	1.3
女性	630	243	11
	71.3	27.5	1.2
全体	958	465	18
	66.5	32.3	1.2

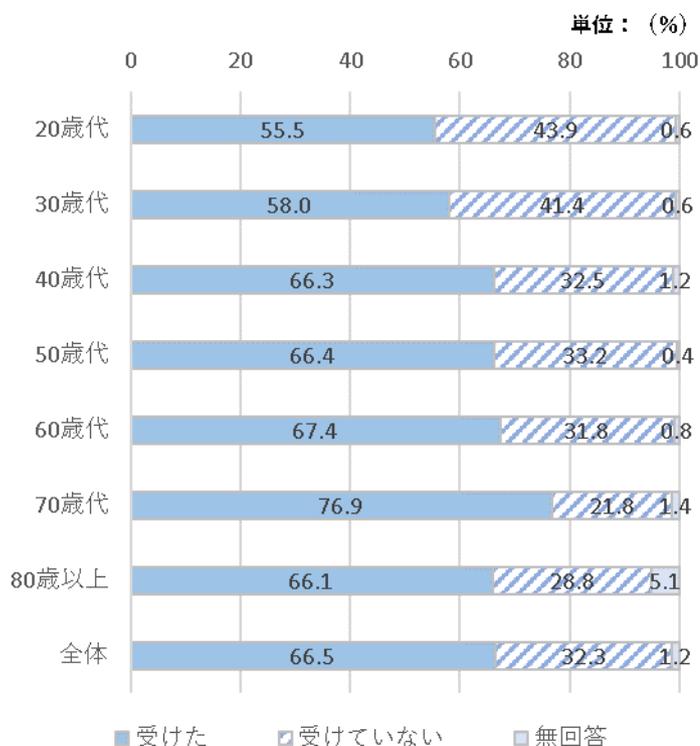
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図48 歯科健診の受診状況（年代別）】

	受けた	受けていない	無回答
20歳代	86	68	1
	55.5	43.9	0.6
30歳代	98	70	1
	58.0	41.4	0.6
40歳代	163	80	3
	66.3	32.5	1.2
50歳代	148	74	1
	66.4	33.2	0.4
60歳代	159	75	2
	67.4	31.8	0.8
70歳代	226	64	4
	76.9	21.8	1.4
80歳以上	78	34	6
	66.1	28.8	5.1
全体	958	465	18
	66.5	32.3	1.2

上段：実数（人） 下段：割合（%）



「受けた」と答えた方におたずねします。どこで受けていますか。

歯科健診を受けた者の受診場所としては、「歯科医院（病院、診療所を含む）」93.9%（男性93.2%/女性94.3%）と最も多い。少数ではあるが、「市町村が行っている歯科健診」4.1%（男性3.4%/女性4.4%）、「職場」1.9%（男性3.4%/女性1.1%）もみられた。

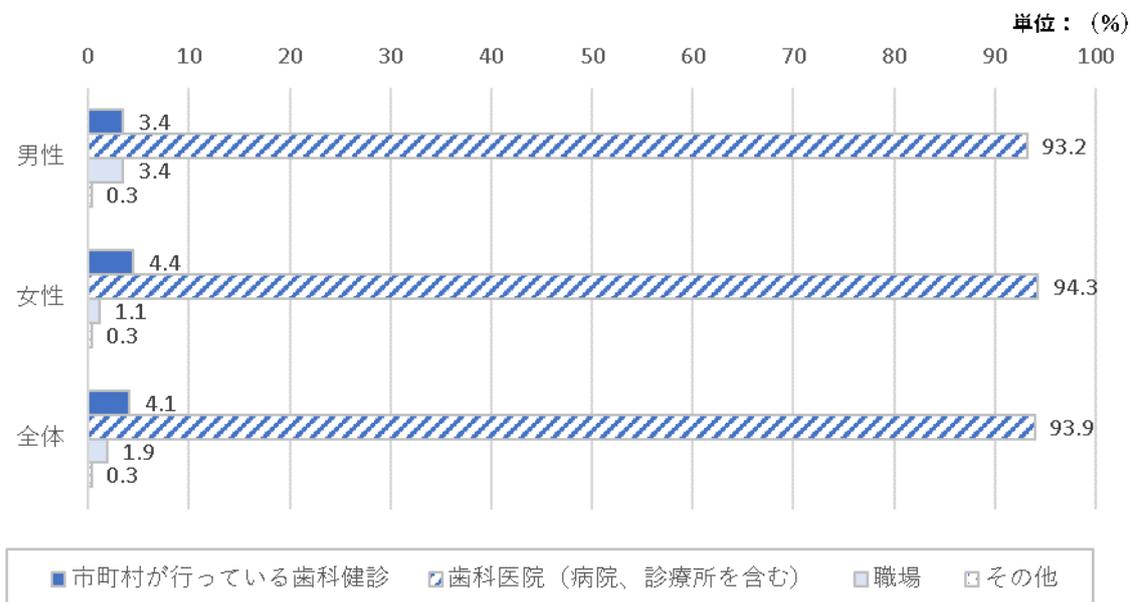
性別で見ると、男性の「職場」での受診がやや多いものの、性別による差はみられない。

年代別では、20歳代の「職場」での受診が5.8%と他の年代と比べて多いが、すべての年代で「歯科医院（病院、診療所を含む）」が9割を超えている。

【表・図 49 歯科健診の受診場所（性別）】

	市町村が行っている 歯科健診	歯科医院（病院、 診療所を含む）	職場	その他
男性	11	300	11	1
	3.4	93.2	3.4	0.3
女性	28	594	7	2
	4.4	94.3	1.1	0.3
全体	39	900	18	3
	4.1	93.9	1.9	0.3

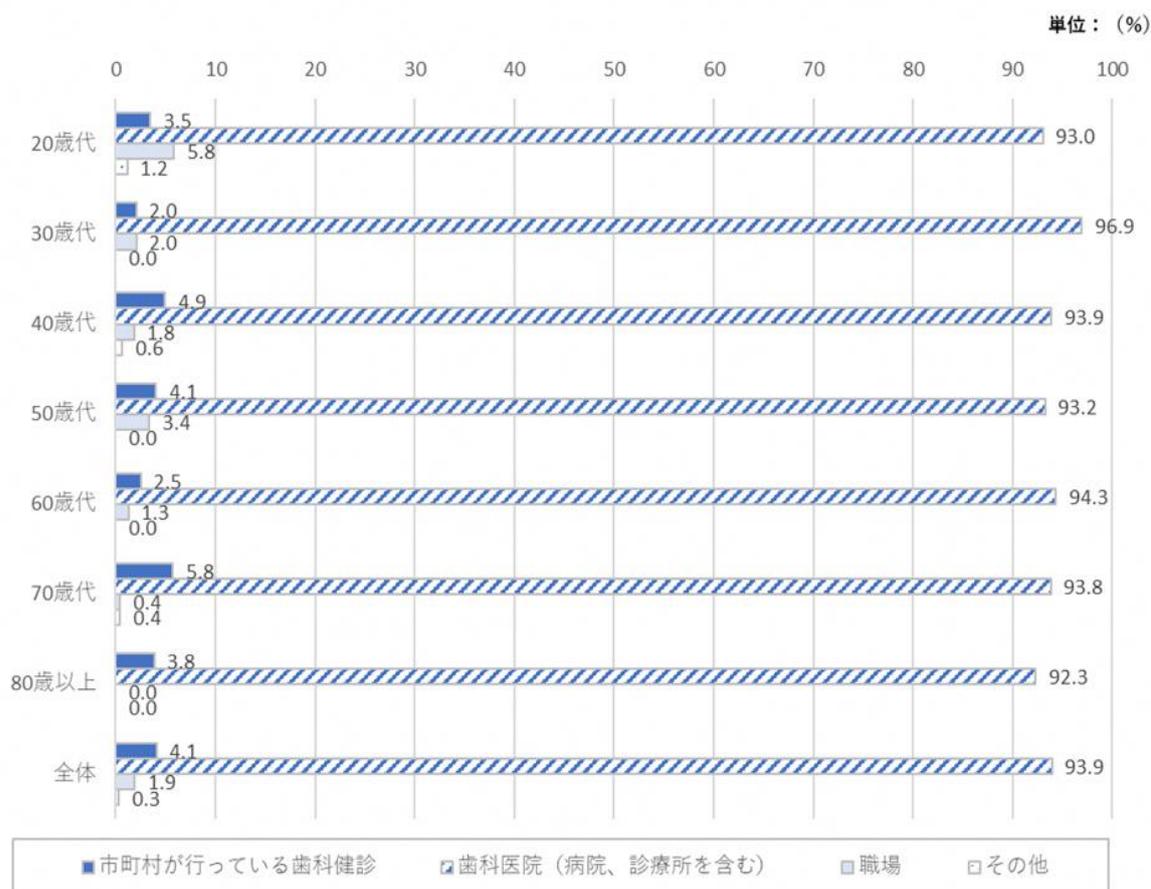
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 50 歯科健診の受診場所（年代別）】

	市町村が行っている 歯科健診	歯科医院（病院、 診療所を含む）	職場	その他
20歳代	3	80	5	1
	3.5	93.0	5.8	1.2
30歳代	2	95	2	0
	2.0	96.9	2.0	0.0
40歳代	8	153	3	1
	4.9	93.9	1.8	0.6
50歳代	6	138	5	0
	4.1	93.2	3.4	0.0
60歳代	4	150	2	0
	2.5	94.3	1.3	0.0
70歳代	13	212	1	1
	5.8	93.8	0.4	0.4
80歳以上	3	72	0	0
	3.8	92.3	0.0	0.0
全体	39	900	18	3
	4.1	93.9	1.9	0.3

上段：実数（人） 下段：割合（％）



「受けていない」と答えた方におたずねします。受けていない理由は何ですか。

歯科健診を受けていない理由として、「受診の必要性を感じない」27.5%（男性29.9%/女性25.1%）、「現在歯科医院に通院中である」23.4%（男性26.2%/女性21.0%）、「健診を実施しているか知らない」18.5%（男性19.9%/女性17.3%）、「日時が合わない」13.8%（男性15.4%/女性12.3%）となっている。

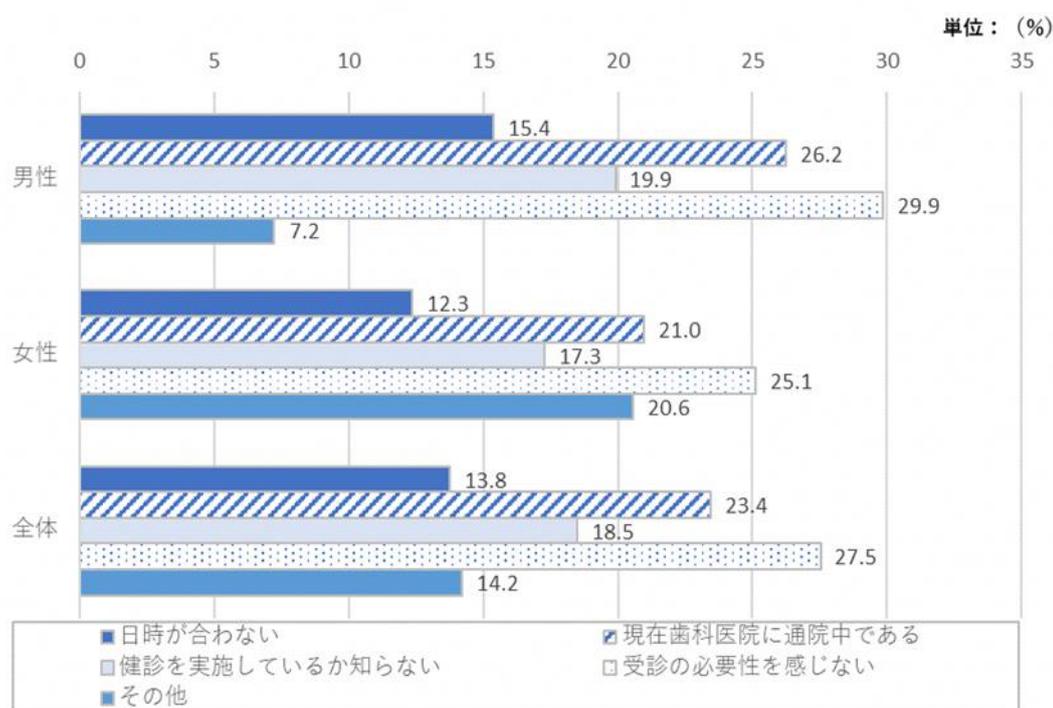
性別による差は認めないが、男性の約1割（7.2%）、女性の約2割（20.6%）が「その他」と回答している。「その他」の理由として、「新型コロナウイルス感染症の流行のため受診を控えた」などの回答かみられる。

年代別にみると、「受診の必要性を感じない」が20歳代で41.2%と最も多く、次いで「現在歯科医院に通院中である」が70歳代で34.4%である。60歳代では「受診の必要性を感じない」が33.3%、「現在歯科医院に通院中である」32.0%、30歳代では「日時が合わない」が28.6%となっている。

【表・図 51 歯科健診を受けていない理由（性別）】

	日時が合わない	現在歯科医院に通院中である	健診を実施しているか知らない	受診の必要性を感じない	その他
男性	34	58	44	66	16
	15.4	26.2	19.9	29.9	7.2
女性	30	51	42	61	50
	12.3	21.0	17.3	25.1	20.6
全体	64	109	86	128	66
	13.8	23.4	18.5	27.5	14.2

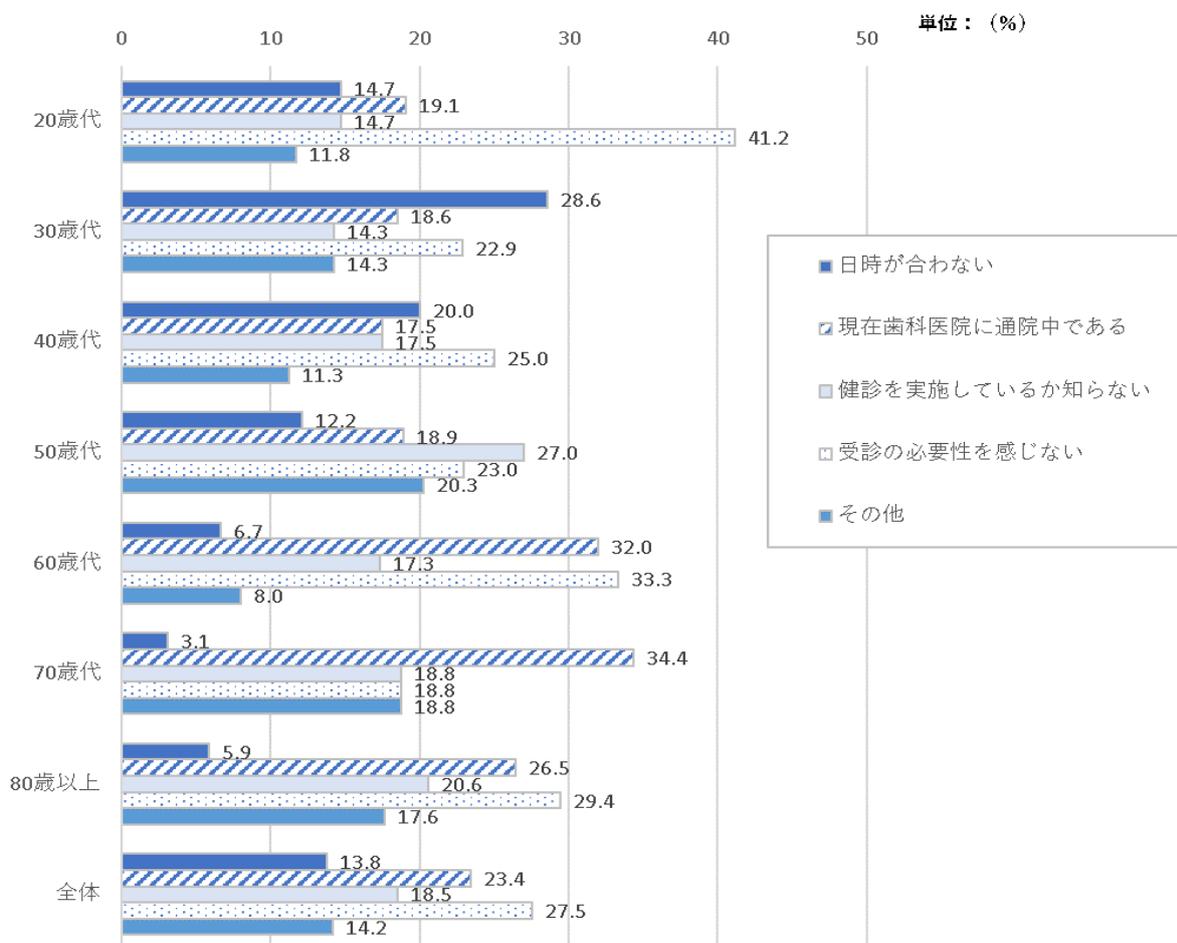
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 52 歯科健診を受けていない理由（年代別）】

	日時が合わない	現在歯科医院に通院中である	健診を実施しているか知らない	受診の必要性を感じない	その他
20歳代	10	13	10	28	8
	14.7	19.1	14.7	41.2	11.8
30歳代	20	13	10	16	10
	28.6	18.6	14.3	22.9	14.3
40歳代	16	14	14	20	9
	20.0	17.5	17.5	25.0	11.3
50歳代	9	14	20	17	15
	12.2	18.9	27.0	23.0	20.3
60歳代	5	24	13	25	6
	6.7	32.0	17.3	33.3	8.0
70歳代	2	22	12	12	12
	3.1	34.4	18.8	18.8	18.8
80歳以上	2	9	7	10	6
	5.9	26.5	20.6	29.4	17.6
全体	64	109	86	128	66
	13.8	23.4	18.5	27.5	14.2

上段：実数（人） 下段：割合（％）



### 問8 むし歯や歯周病などで歯を失うことについてどう思いますか。

むし歯や歯周病などで歯を失うことについては、「定期受診や歯みがきなどの努力により防ぐことができる」が80.2%（男性71.5%/女性85.7%）と大多数を占めた。「年をとれば仕方ないこと」は、15.1%（男性22.0%/女性10.6%）であった。

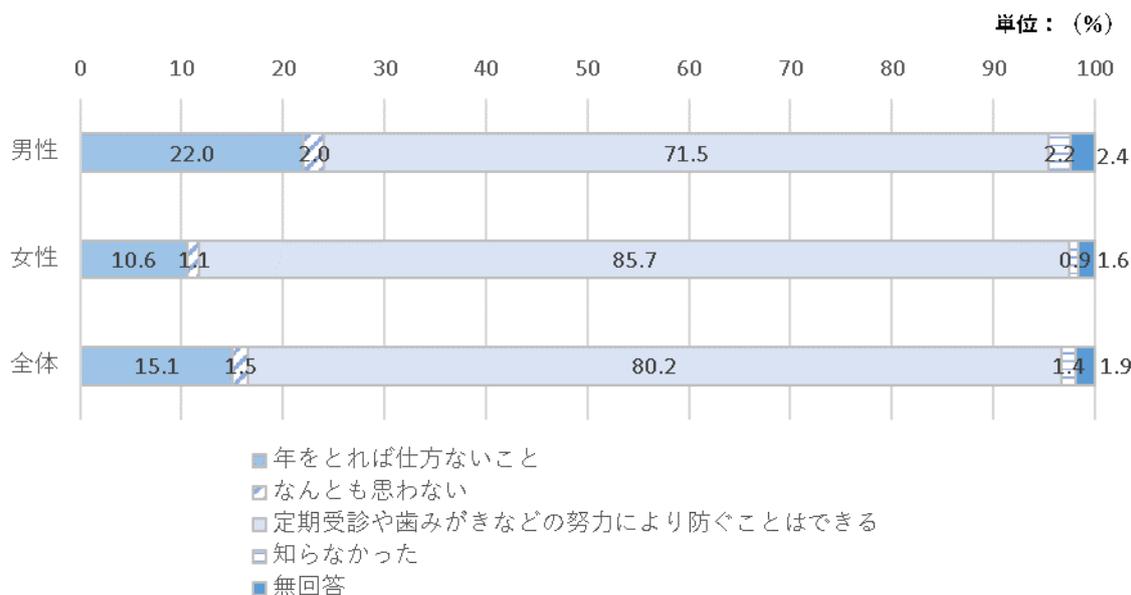
性別でみると、「定期受診や歯みがきなどの努力により防ぐことができる」は、女性のほうが男性よりも14.2%ポイント高い。

年代別では、「努力により防げる」が、40歳代85.8%、30歳代84.6%、50歳代84.3%と8割を超えているが、70歳代75.5%、80歳以上66.1%と6~7割に減少している。また、「年をとれば仕方ない」が、30歳代以降では年代が高くなるにつれて増加し、70歳代20.1%、80歳以上25.4%と2割を超えている。

【表・図53 歯を失うことについての意識（性別）】

	年をとれば仕方ないこと	なんとも思わない	定期受診や歯みがきなどの努力により防ぐことができる	知らなかった	無回答
男性	121	11	393	12	13
	22.0	2.0	71.5	2.2	2.4
女性	94	10	758	8	14
	10.6	1.1	85.7	0.9	1.6
全体	217	21	1155	20	28
	15.1	1.5	80.2	1.4	1.9

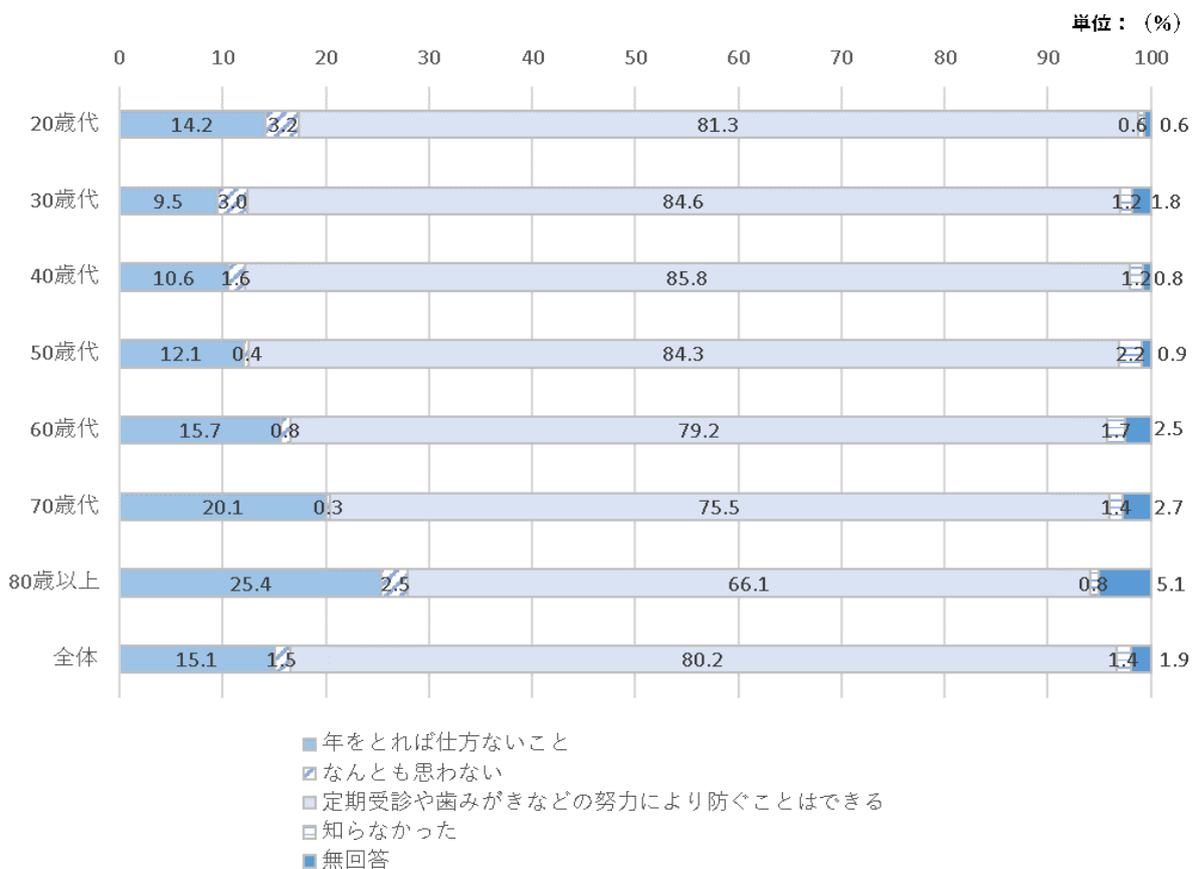
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 54 歯を失うことについての意識（年代別）】

	年をとれば仕方ないこと	なんとも思わない	定期受診や歯みがきなどの努力により防ぐことはできる	知らなかった	無回答
20歳代	22	5	126	1	1
	14.2	3.2	81.3	0.6	0.6
30歳代	16	5	143	2	3
	9.5	3.0	84.6	1.2	1.8
40歳代	26	4	211	3	2
	10.6	1.6	85.8	1.2	0.8
50歳代	27	1	188	5	2
	12.1	0.4	84.3	2.2	0.9
60歳代	37	2	187	4	6
	15.7	0.8	79.2	1.7	2.5
70歳代	59	1	222	4	8
	20.1	0.3	75.5	1.4	2.7
80歳以上	30	3	78	1	6
	25.4	2.5	66.1	0.8	5.1
全体	217	21	1155	20	28
	15.1	1.5	80.2	1.4	1.9

上段：実数（人） 下段：割合（%）



### 問9 取り外しのできる「入れ歯」を使用していますか。

取り外しのできる「入れ歯」の使用について、「使用していない（作る必要がないため）」が74.5%（男性72.9%/女性75.7%）、「常に使用している」が20.0%（男性20.9%/女性19.2%）となっている。「ときどき使用している」や「作ったが使用していない」はそれぞれ1.9%である。

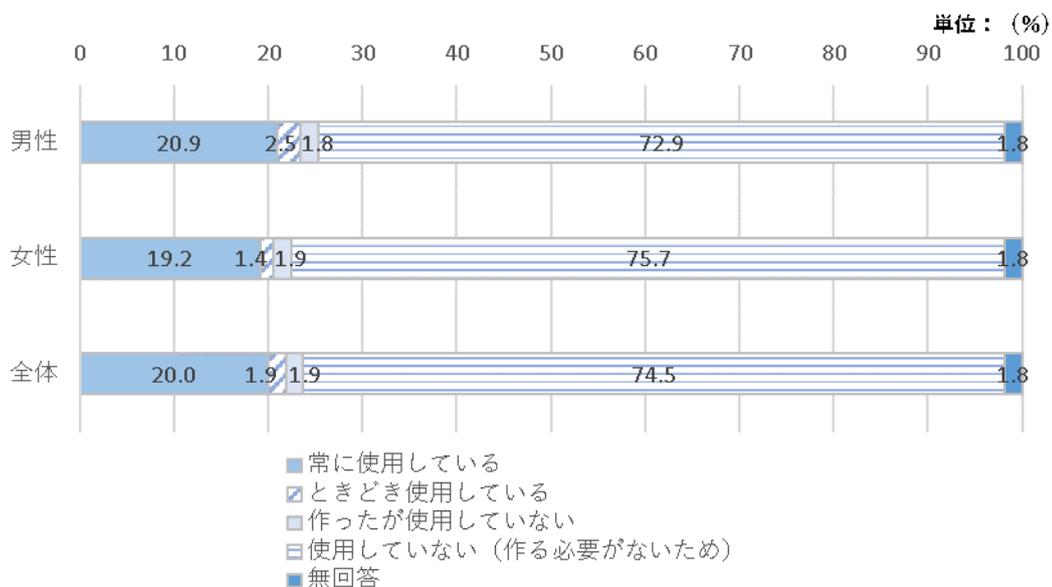
性別による差はみられない。

年代が高くなるにつれて「常に使用している」の割合が高くなり、50歳代で9.4%が、60歳代では25.8%、さらに70歳代41.2%、80歳以上は62.7%に増えている。

【表・図55 入れ歯の使用状況（性別）】

	常に使用している	ときどき使用している	作ったが使用していない	使用していない（作る必要がないため）	無回答
男性	115	14	10	401	10
	20.9	2.5	1.8	72.9	1.8
女性	170	12	17	669	16
	19.2	1.4	1.9	75.7	1.8
全体	288	27	27	1073	26
	20.0	1.9	1.9	74.5	1.8

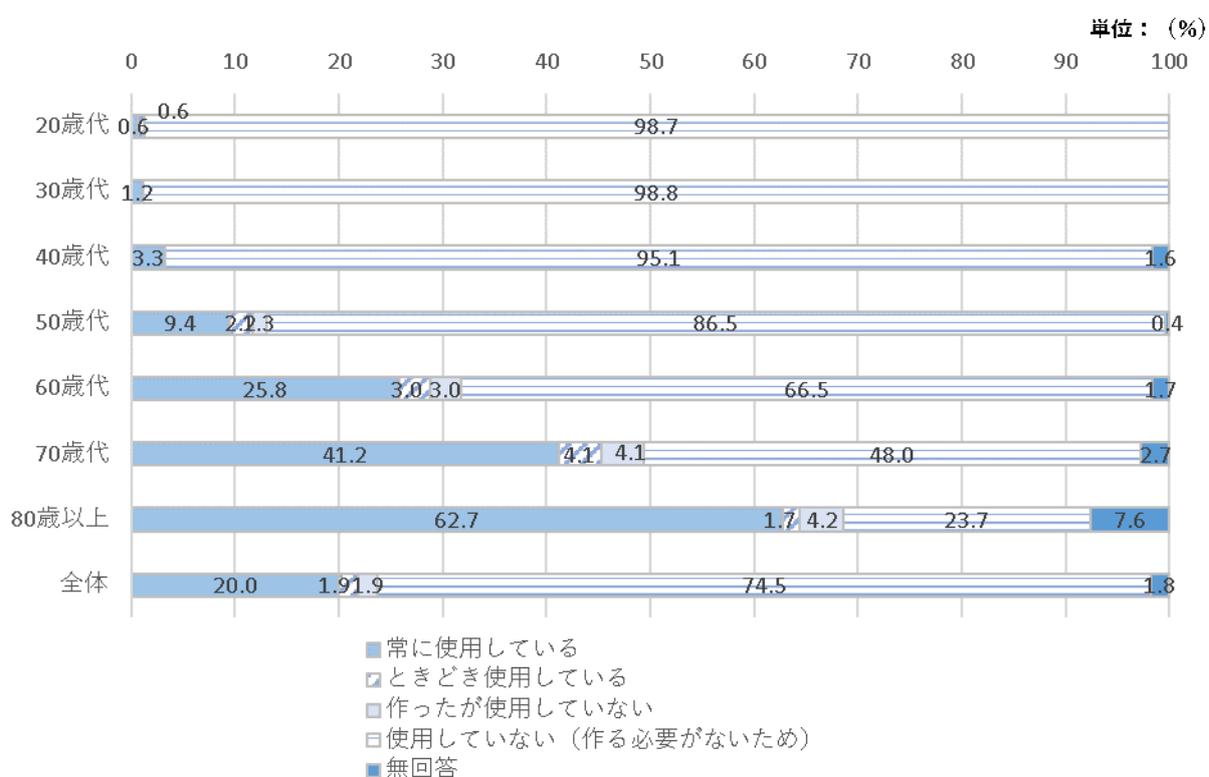
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 56 入れ歯の使用状況（年代別）】

	常に使用して いる	ときどき使用 している	作ったが使用 していない	使用していない (作る必要がな いため)	無回答
20歳代	1	1	0	153	0
	0.6	0.6	0.0	98.7	0.0
30歳代	2	0	0	167	0
	1.2	0.0	0.0	98.8	0.0
40歳代	8	0	0	234	4
	3.3	0.0	0.0	95.1	1.6
50歳代	21	5	3	193	1
	9.4	2.2	1.3	86.5	0.4
60歳代	61	7	7	157	4
	25.8	3.0	3.0	66.5	1.7
70歳代	121	12	12	141	8
	41.2	4.1	4.1	48.0	2.7
80歳以上	74	2	5	28	9
	62.7	1.7	4.2	23.7	7.6
全体	288	27	27	1073	26
	20.0	1.9	1.9	74.5	1.8

上段：実数（人） 下段：割合（％）



「1」「2」「3」と答えた方におたずねします。「入れ歯」についてどのように感じていますか。

「入れ歯」の使用感については、「具合がよい」が最も多い26.9%（男性24.5%/女性29.1%）、次いで「取り外しがめんどろ」が26.0%（男性28.8%/女性24.6%）である。「話しにくい」は15.8%（男性20.9%/女性12.6%）、「特になし」が26.6%（男性28.1%/女性25.1%）、「入れ歯が合わない」が11.1%、「食べ物の味がわからない」が9.4%、「口の中に傷ができやすい」が8.8%となっている。

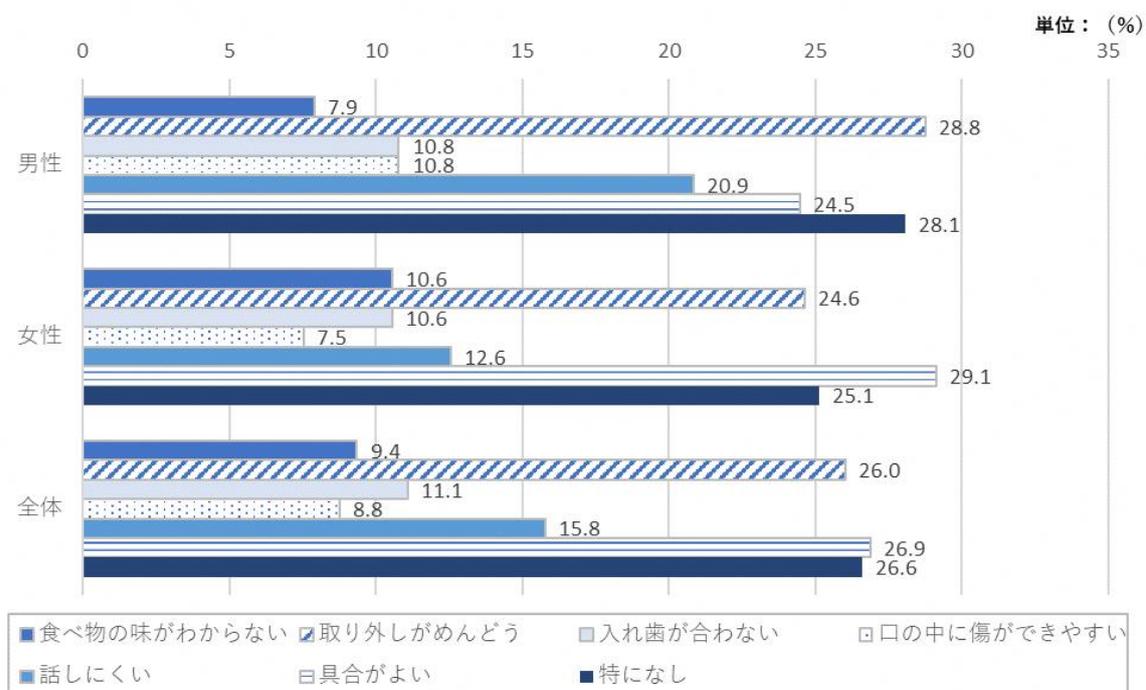
性別で見ると、男性のほうが女性よりも「取り外しがめんどろ」、「話しにくい」と感じている割合が多い。

年代別で見ると、20～60歳代が「具合がよい」よりも、「取り外しがめんどろ」と感じている割合が多い。

【表・図 57 入れ歯の使用感（性別）】

	食べ物の味がわからない	取り外しがめんどろ	入れ歯が合わない	口の中に傷ができやすい	話しにくい	具合がよい	特になし
男性	11	40	15	15	29	34	39
	7.9	28.8	10.8	10.8	20.9	24.5	28.1
女性	21	49	21	15	25	58	50
	10.6	24.6	10.6	7.5	12.6	29.1	25.1
全体	32	89	38	30	54	92	91
	9.4	26.0	11.1	8.8	15.8	26.9	26.6

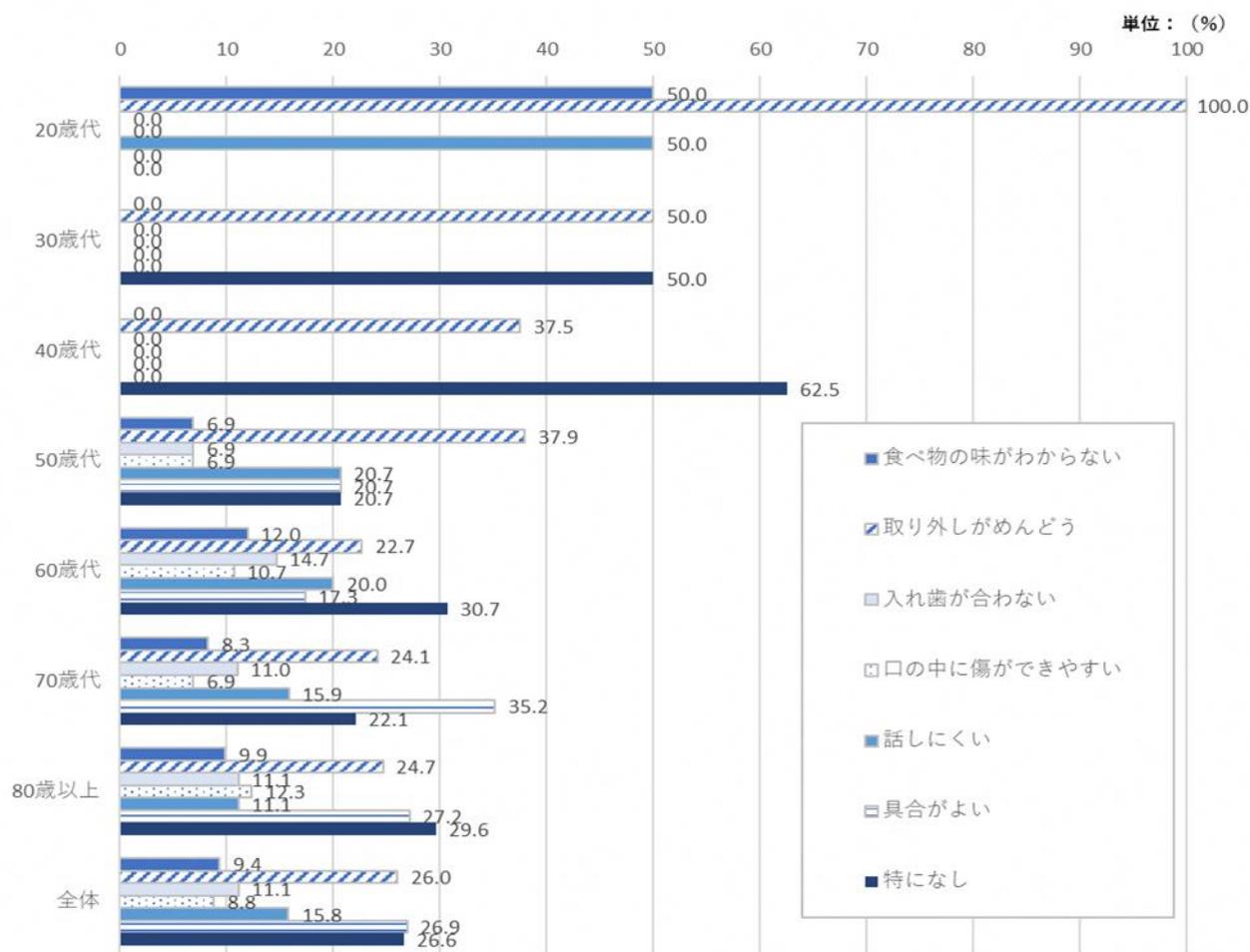
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 58 入れ歯の使用感（年代別）】

	食べ物の味がわからない	取り外しがめんどろ	入れ歯が合わない	口の中に傷がしやすい	話しにくい	具合がよい	特になし
20歳代	1	2	0	0	1	0	0
	50.0	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
30歳代	0	1	0	0	0	0	1
	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
40歳代	0	3	0	0	0	0	5
	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5
50歳代	2	11	2	2	6	6	6
	6.9	37.9	6.9	6.9	20.7	20.7	20.7
60歳代	9	17	11	8	15	13	23
	12.0	22.7	14.7	10.7	20.0	17.3	30.7
70歳代	12	35	16	10	23	51	32
	8.3	24.1	11.0	6.9	15.9	35.2	22.1
80歳以上	8	20	9	10	9	22	24
	9.9	24.7	11.1	12.3	11.1	27.2	29.6
全体	32	89	38	30	54	92	91
	9.4	26.0	11.1	8.8	15.8	26.9	26.6

上段：実数（人） 下段：割合（％）



問10 次の食べ物について、好き嫌いに関係なく、かみにくいものはありますか。

かみにくい食べ物があるという者は、全体の約3割となっている。内訳としては、「堅焼きせんべい」17.3%が最も多く、次いで「たくあん」6.9%、「りんご」2.9%、「柿」2.7%、「こんにゃく」2.3%、「キャベツ」2.2%、「きゅうり」2.1%、「かまぼこ」1.2%、「うどん」0.3%、「とうふ」0.2%となっている。

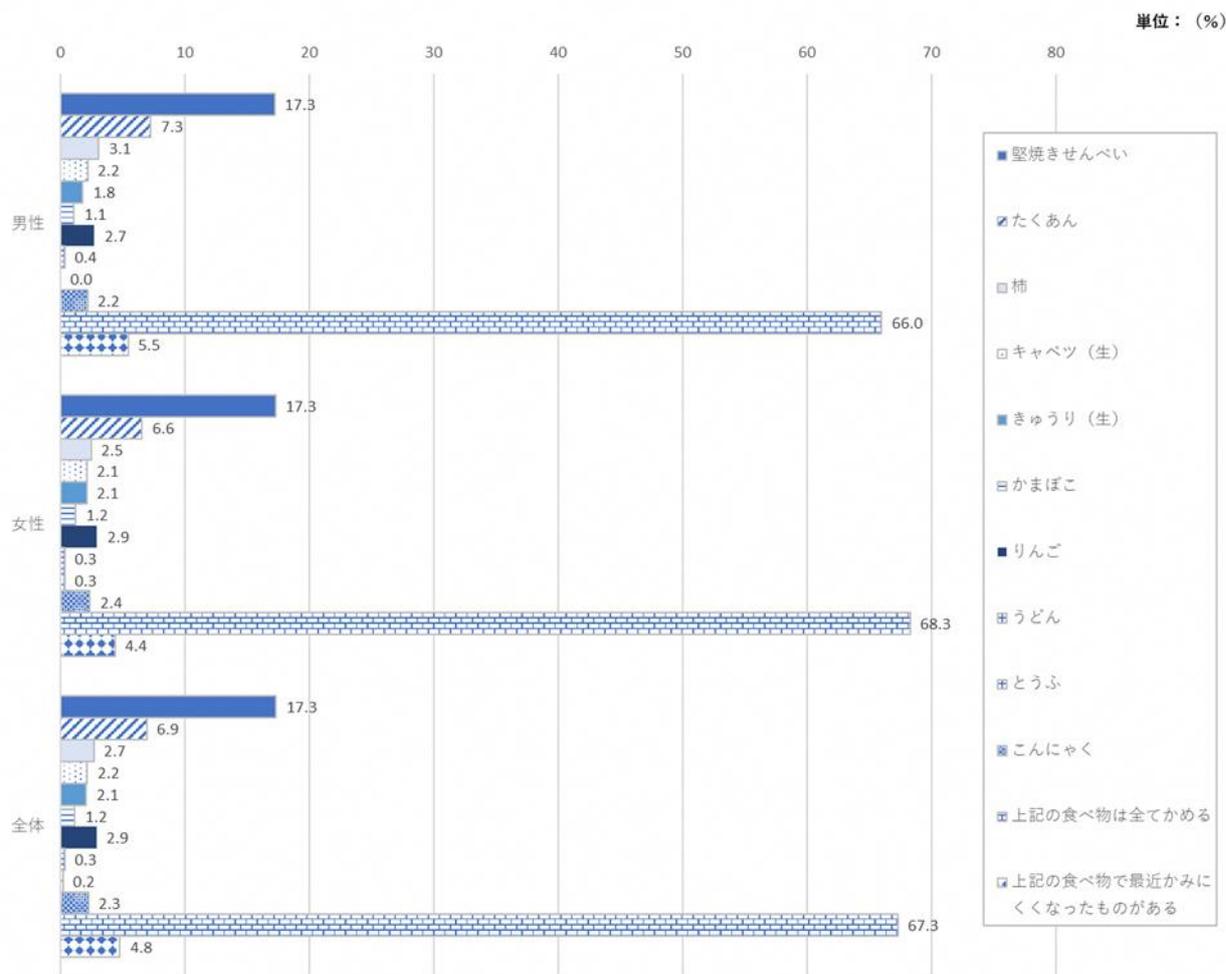
かみにくい食べ物は性別による差はみられない。

年代別にみると、「堅焼きせんべい」、「たくあん」では、年代が高くなるにつれてかみにくいと感じる者の割合が増加する。

【表・図59 かみにくい食べ物（性別）】

	堅焼きせんべい	たくあん	柿	キャベツ(生)	きゅうり(生)	かまぼこ	りんご	うどん	とうふ	こんにゃく	上記の食べ物は全てかめる	上記の食べ物で最近かみにくくなったものがある
男性	95	40	17	12	10	6	15	2	0	12	363	30
	17.3	7.3	3.1	2.2	1.8	1.1	2.7	0.4	0.0	2.2	66.0	5.5
女性	153	58	22	19	19	11	26	3	3	21	604	39
	17.3	6.6	2.5	2.1	2.1	1.2	2.9	0.3	0.3	2.4	68.3	4.4
全体	250	100	39	31	30	17	42	5	3	33	970	69
	17.3	6.9	2.7	2.2	2.1	1.2	2.9	0.3	0.2	2.3	67.3	4.8

上段：実数（人） 下段：割合（%）



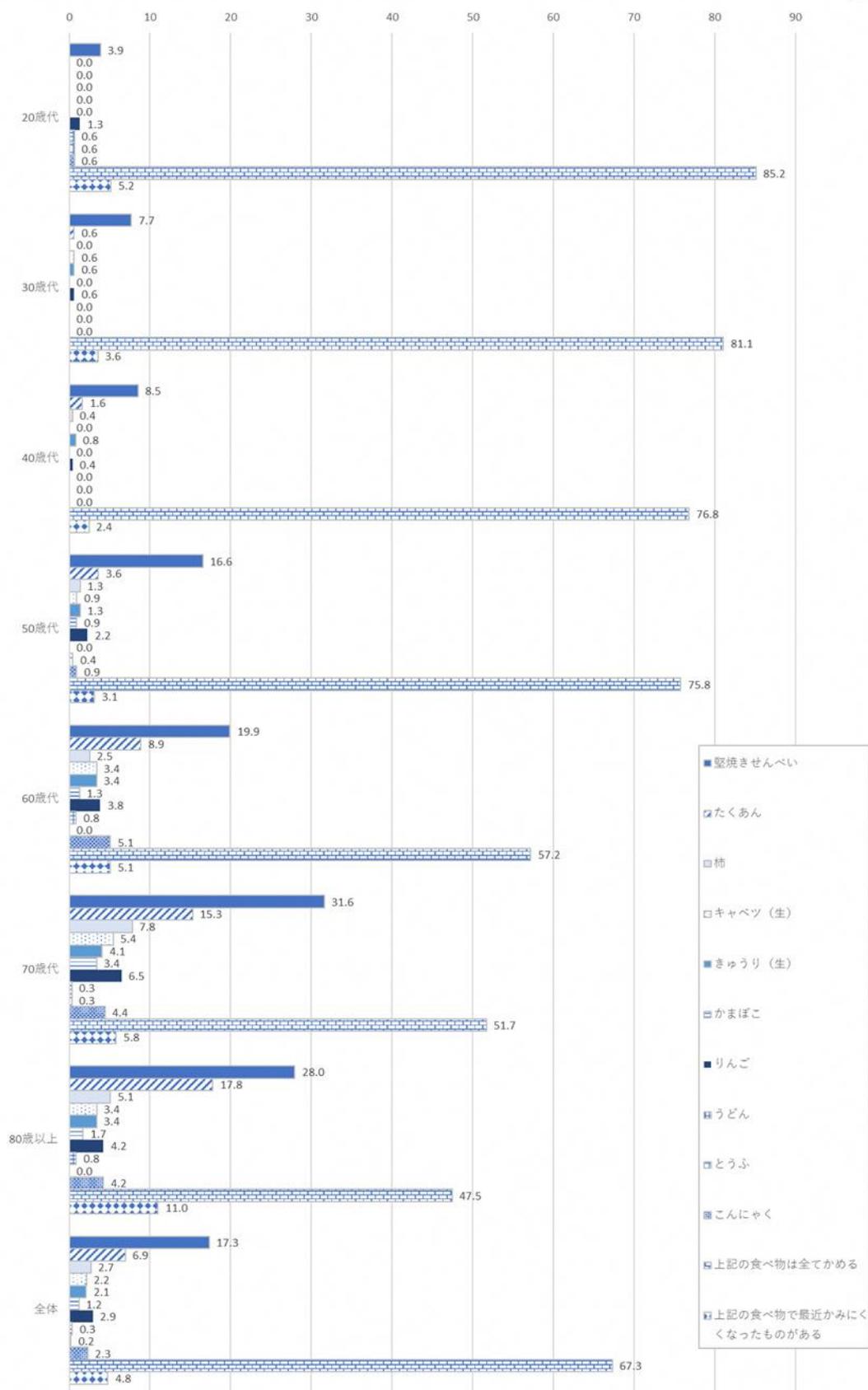
【表 60 かみにくい食べ物（年代別）】

	堅焼きせん べい	たくあん	柿	キャベツ (生)	きゅうり (生)	かまぼこ	りんご	うどん	とうふ	こんにゃく	上記の食 べ物は全 てかめる	上記の食 べ物で最近かみに くくなったも のがある
20歳代	6	0	0	0	0	0	2	1	1	1	132	8
	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.6	0.6	0.6	85.2	5.2
30歳代	13	1	0	1	1	0	1	0	0	0	137	6
	7.7	0.6	0.0	0.6	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	81.1	3.6
40歳代	21	4	1	0	2	0	1	0	0	0	189	6
	8.5	1.6	0.4	0.0	0.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	76.8	2.4
50歳代	37	8	3	2	3	2	5	0	1	2	169	7
	16.6	3.6	1.3	0.9	1.3	0.9	2.2	0.0	0.4	0.9	75.8	3.1
60歳代	47	21	6	8	8	3	9	2	0	12	135	12
	19.9	8.9	2.5	3.4	3.4	1.3	3.8	0.8	0.0	5.1	57.2	5.1
70歳代	93	45	23	16	12	10	19	1	1	13	152	17
	31.6	15.3	7.8	5.4	4.1	3.4	6.5	0.3	0.3	4.4	51.7	5.8
80歳以上	33	21	6	4	4	2	5	1	0	5	56	13
	28.0	17.8	5.1	3.4	3.4	1.7	4.2	0.8	0.0	4.2	47.5	11.0
全体	250	100	39	31	30	17	42	5	3	33	970	69
	17.3	6.9	2.7	2.2	2.1	1.2	2.9	0.3	0.2	2.3	67.3	4.8

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【図 60 かみにくい食べ物（年代別）】

単位：（％）



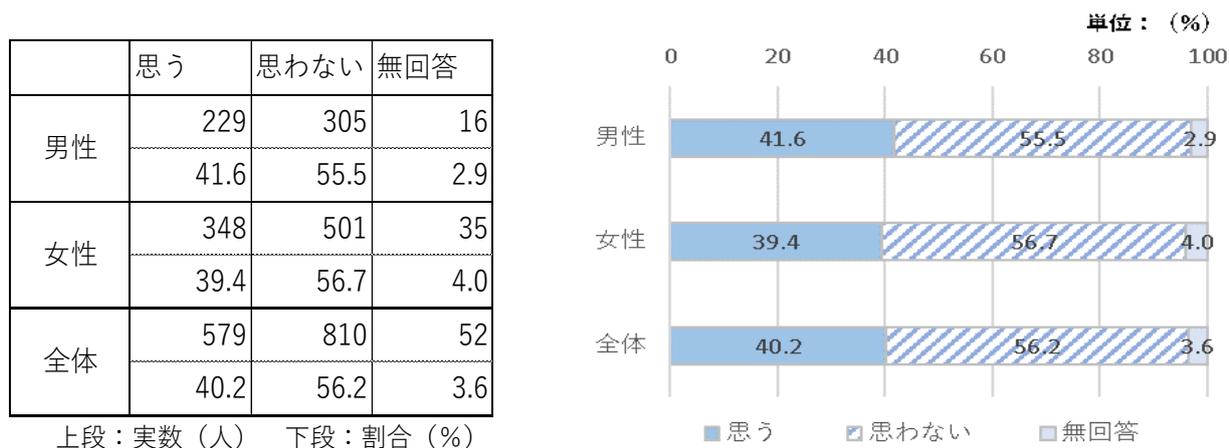
### 問 11 あなたは歯周病だと思いますか。

歯周病だと「思う」者は全体で40.2%（男性41.6%/女性39.4%）、「思わない」は全体で56.2%（男性55.5%/女性56.7%）となっている。約4対6の割合で「思わない」のほうが多い。

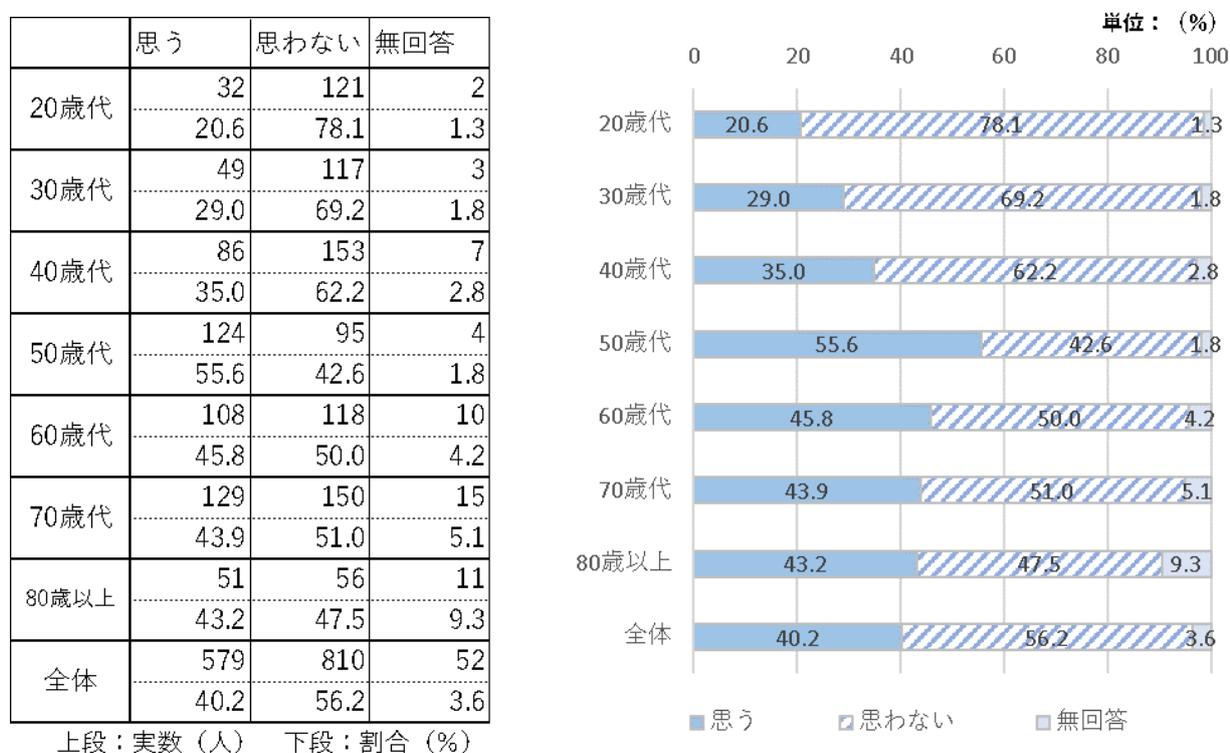
性別による差はみられない。

年代別では、歯周病だと「思う」は50歳代で55.6%と最も多く、5割を超えている。「思わない」は20歳代で約8割、30歳代で約7割、40歳代で約6割であり、年代が低いほうが「思わない」の割合が多い。

【表・図 61 歯周病の自己認識（性別）】



【表・図 62 歯周病の自己認識（年代別）】



問12 口の中の細菌（歯周病原菌）と関係があると聞いたことがあるものはどれですか。

「口の中の細菌（歯周病原菌）と関係がある」と聞いたことがある疾病として、「わからない」が50.6%で全体の半数を占める。最も聞いたことがあるのは「糖尿病」28.3%（男性22.5%/女性31.8%）で、次いで「心臓病」23.0%（男性18.2%/女性26.0%）、「肺炎（誤嚥性肺炎）」20.1%（男性11.3%/女性25.6%）となっている。「胃潰瘍」8.1%、「早産」6.7%、「骨粗鬆症」6.0%、「関節炎・リウマチ」4.1%、「皮膚炎」1.5%であり、認知度が低い。

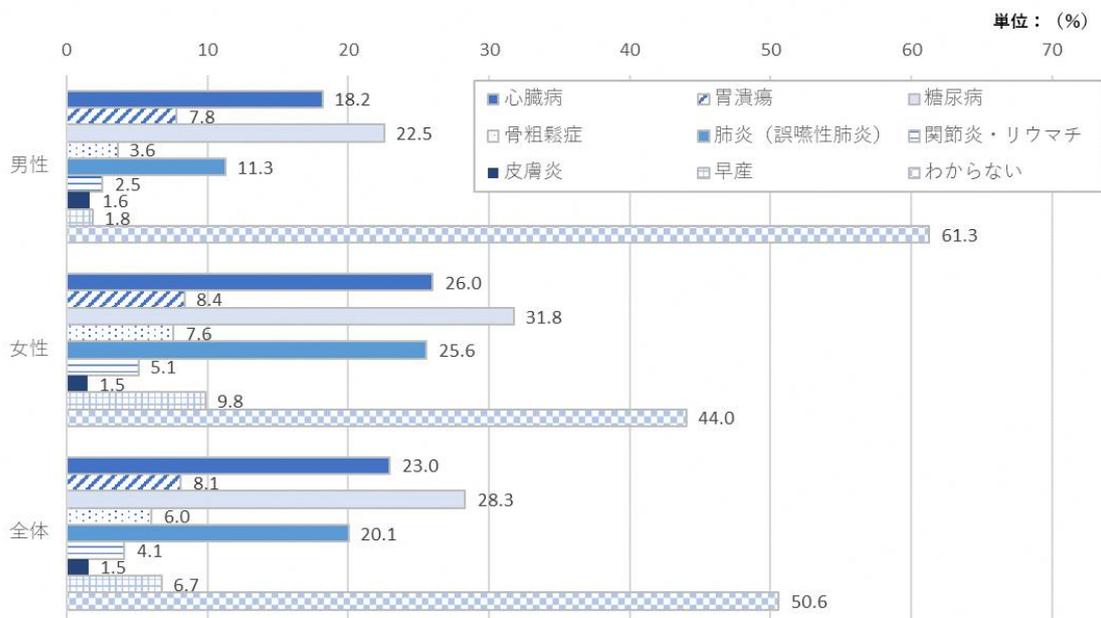
性別でみると、いずれの疾病についても男性に比べて女性の認知度が高い。

年代別では、「わからない」は20歳代が約7割（68.4%）と最も多く、他の年代は4～5割程度となっている。次いで、全ての年代において「糖尿病」の回答が多い。30歳代（16.0%）、40歳代（13.4%）では「早産」の回答が他の年代より多くみられる。

【表・図 63 口の中の細菌についての知識（性別）】

	心臓病	胃潰瘍	糖尿病	骨粗鬆症	肺炎（誤嚥性肺炎）	関節炎・リウマチ	皮膚炎	早産	わからない
男性	100	43	124	20	62	14	9	10	337
	18.2	7.8	22.5	3.6	11.3	2.5	1.6	1.8	61.3
女性	230	74	281	67	226	45	13	87	389
	26.0	8.4	31.8	7.6	25.6	5.1	1.5	9.8	44.0
全体	331	117	408	87	289	59	22	97	729
	23.0	8.1	28.3	6.0	20.1	4.1	1.5	6.7	50.6

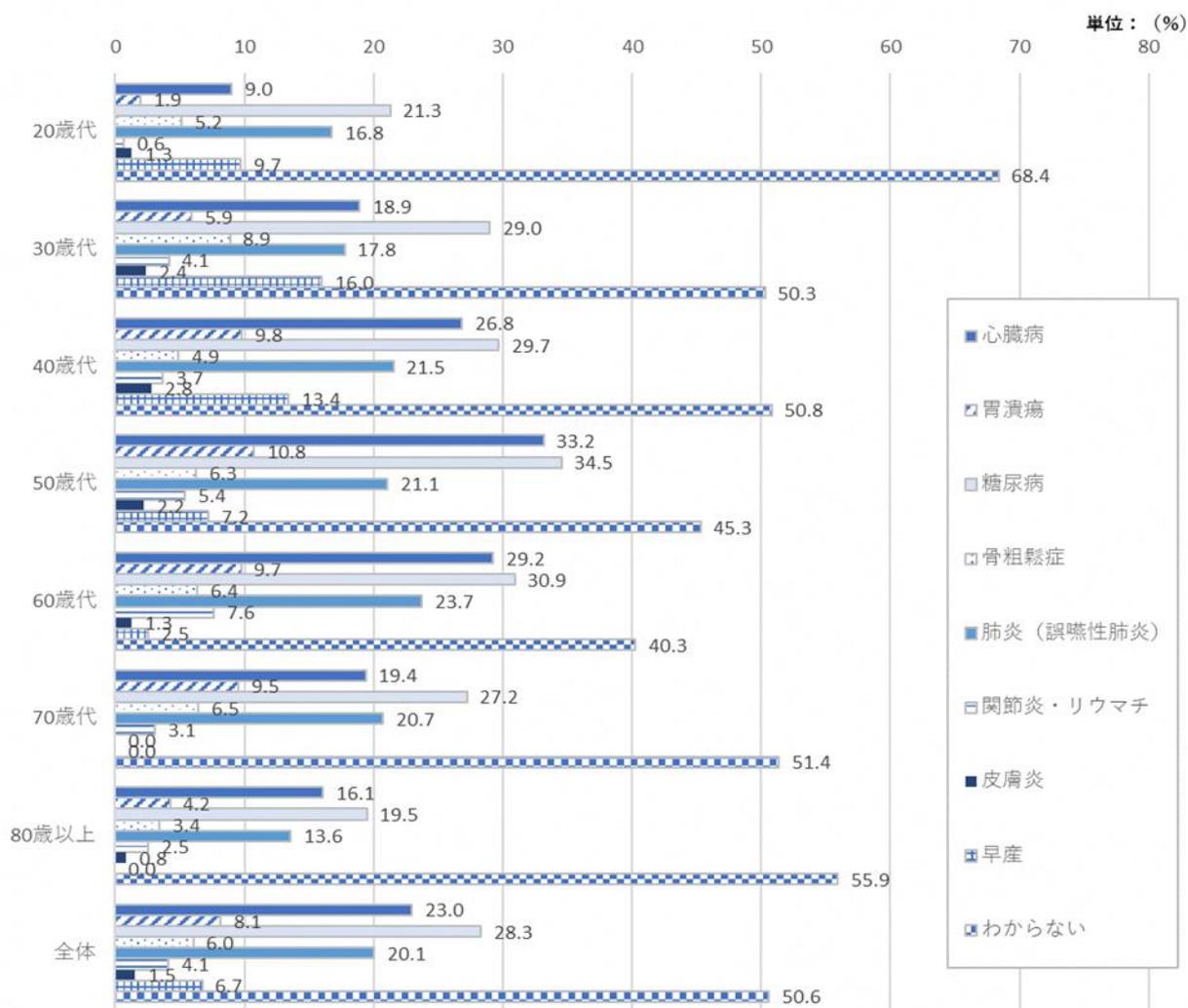
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 64 口の中の細菌についての知識（年代別）】

	心臓病	胃潰瘍	糖尿病	骨粗鬆症	肺炎（誤嚥性肺炎）	関節炎・リウマチ	皮膚炎	早産	わからない
20歳代	14	3	33	8	26	1	2	15	106
	9.0	1.9	21.3	5.2	16.8	0.6	1.3	9.7	68.4
30歳代	32	10	49	15	30	7	4	27	85
	18.9	5.9	29.0	8.9	17.8	4.1	2.4	16.0	50.3
40歳代	66	24	73	12	53	9	7	33	125
	26.8	9.8	29.7	4.9	21.5	3.7	2.8	13.4	50.8
50歳代	74	24	77	14	47	12	5	16	101
	33.2	10.8	34.5	6.3	21.1	5.4	2.2	7.2	45.3
60歳代	69	23	73	15	56	18	3	6	95
	29.2	9.7	30.9	6.4	23.7	7.6	1.3	2.5	40.3
70歳代	57	28	80	19	61	9	0	0	151
	19.4	9.5	27.2	6.5	20.7	3.1	0.0	0.0	51.4
80歳以上	19	5	23	4	16	3	1	0	66
	16.1	4.2	19.5	3.4	13.6	2.5	0.8	0.0	55.9
全体	331	117	408	87	289	59	22	97	729
	23.0	8.1	28.3	6.0	20.1	4.1	1.5	6.7	50.6

上段：実数（人） 下段：割合（%）



**問13 あなたは「たばこ」を吸いますか。1日に吸う本数と喫煙年数をご記入ください。**

喫煙の有無について、「吸わない」76.0%（男性59.5%/女性86.3%）、「以前吸っていたが今はやめている」10.3%（男性17.1%/女性6.0%）、「吸う（時々を含む）」11.5%（男性21.3%/女性5.5%）となっている。前回（平成28年度）調査では、「以前から吸わない」67.0%、「以前吸っていたが今はやめている」19.4%であり、禁煙傾向が高まっている。

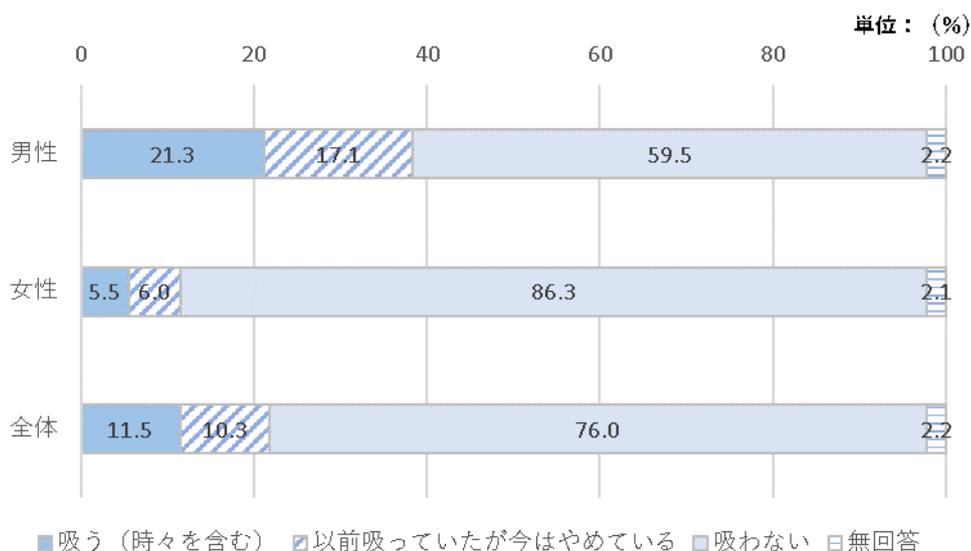
性別で見ると、女性では「吸わない」が9割弱に対して、男性は約6割にとどまっており、男女で差がみられる。

年代別では、「吸う（時々を含む）」の回答が多いのが40歳代（17.9%）と30歳代（16.6%）、「吸わない」の回答は20歳代が8割強（83.2%）と最も多い。

【表・図 65 喫煙の状況（性別）】

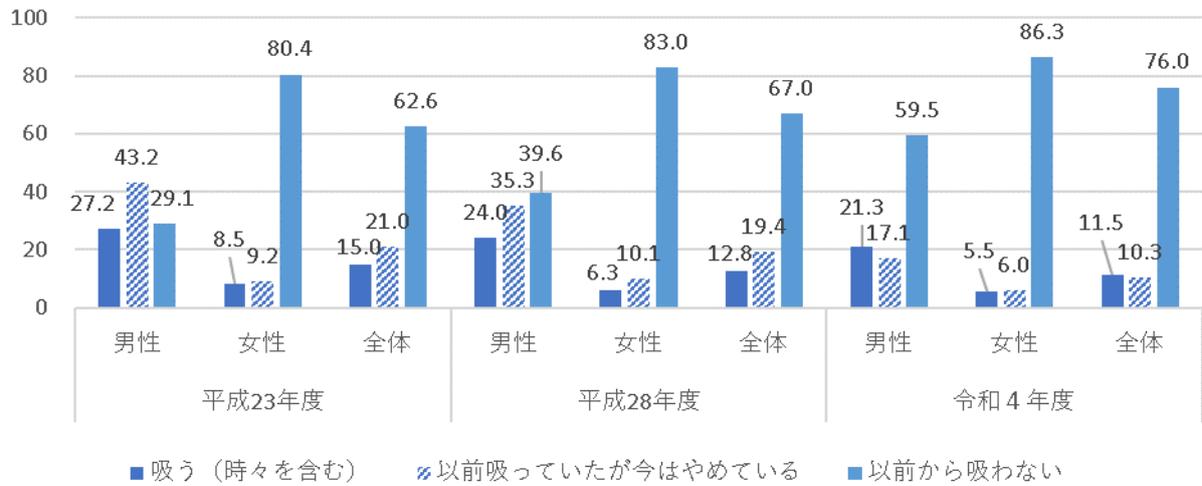
	吸う（時々を含む）	以前吸っていたが今はやめている	吸わない	無回答
男性	117	94	327	12
	21.3	17.1	59.5	2.2
女性	49	53	763	19
	5.5	6.0	86.3	2.1
全体	166	149	1095	31
	11.5	10.3	76.0	2.2

上段：実数（人） 下段：割合（%）



【図 65-2 喫煙の状況（性別、経年推移）】

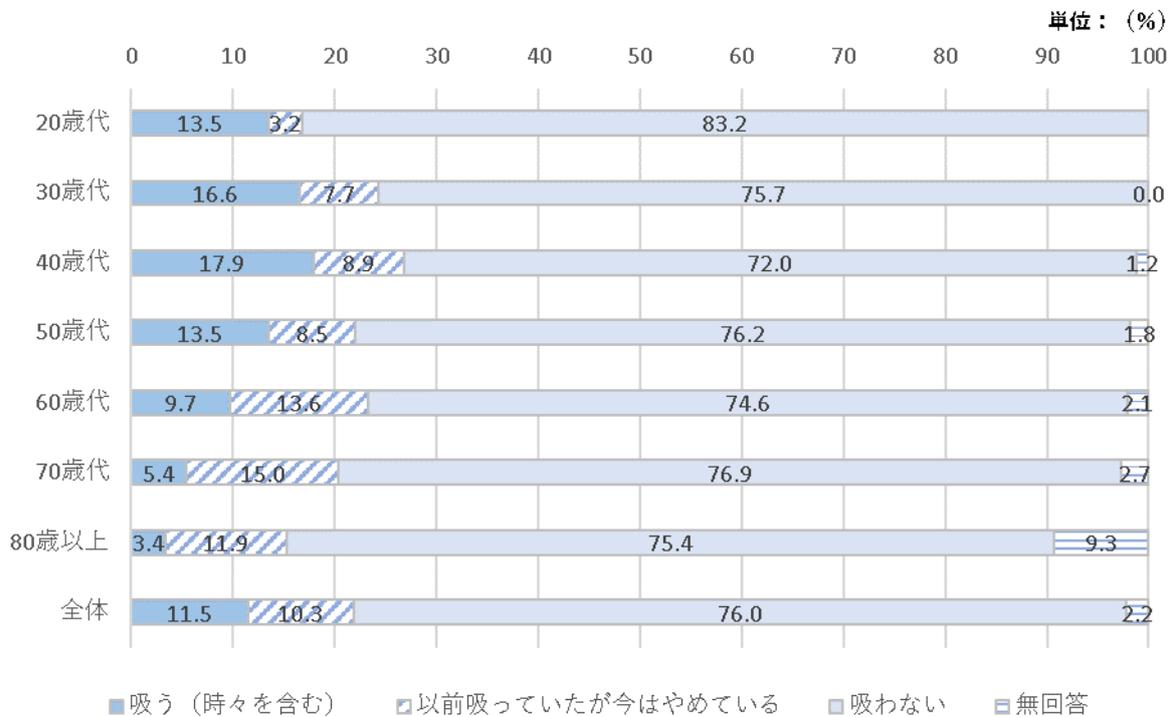
単位：（％）



【表・図 66 喫煙の状況（年代別）】

	吸う（時々を含む）	以前吸っていたが今はやめている	吸わない	無回答
20歳代	21	5	129	0
	13.5	3.2	83.2	0.0
30歳代	28	13	128	0
	16.6	7.7	75.7	0.0
40歳代	44	22	177	3
	17.9	8.9	72.0	1.2
50歳代	30	19	170	4
	13.5	8.5	76.2	1.8
60歳代	23	32	176	5
	9.7	13.6	74.6	2.1
70歳代	16	44	226	8
	5.4	15.0	76.9	2.7
80歳以上	4	14	89	11
	3.4	11.9	75.4	9.3
全体	166	149	1095	31
	11.5	10.3	76.0	2.2

上段：実数（人） 下段：割合（％）



## 1) 喫煙本数

1日に「たばこ」を吸う本数としては、「19本以下」が50.3%（男性41.8%/女性69.8%）、「20本以上」が44.8%（男性55.3%/女性20.8%）という結果である。

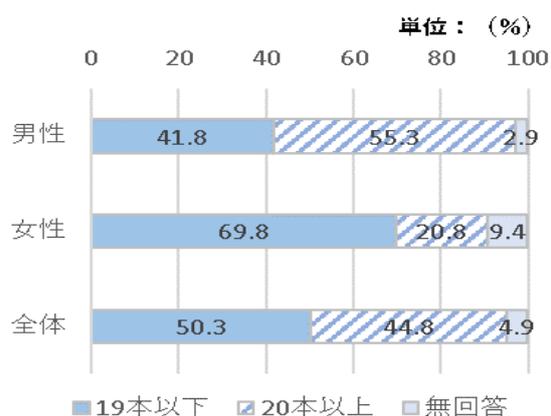
性別でみると、男性のほうが喫煙率も高く、1日に「20本以上」が、女性が2割に対して、男性は5割を超え、本数でも男性のほうが多い。

年代別では、「20本以上」の割合が、20歳代では21.7%であるのに対して、80歳以上では61.1%であり、40歳代を除き、年代が高くなるにつれて増加する。

【表・図 67 喫煙本数（性別）】

	19本以下	20本以上	無回答
男性	87	115	6
	41.8	55.3	2.9
女性	67	20	9
	69.8	20.8	9.4
全体	154	137	15
	50.3	44.8	4.9

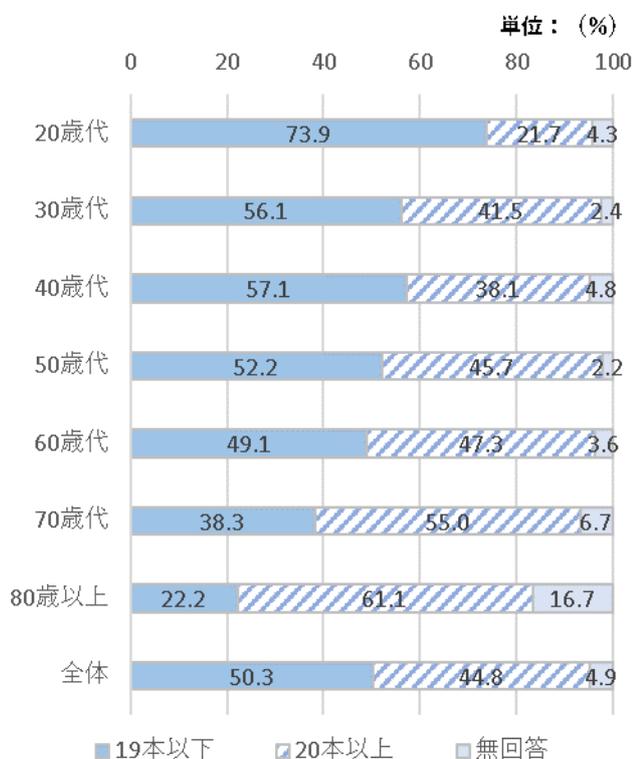
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 68 喫煙本数（年代別）】

	19本以下	20本以上	無回答
20歳代	17	5	1
	73.9	21.7	4.3
30歳代	23	17	1
	56.1	41.5	2.4
40歳代	36	24	3
	57.1	38.1	4.8
50歳代	24	21	1
	52.2	45.7	2.2
60歳代	27	26	2
	49.1	47.3	3.6
70歳代	23	33	4
	38.3	55.0	6.7
80歳以上	4	11	3
	22.2	61.1	16.7
全体	154	137	15
	50.3	44.8	4.9

上段：実数（人） 下段：割合（%）



## 2) 喫煙年数

喫煙年数については、「16年以上」が約6割（全体62.5%・男性69.5%/女性47.0%）で最も多く、次いで「6～10年」が14.4%（男性10.5%/女性23.0%）である。

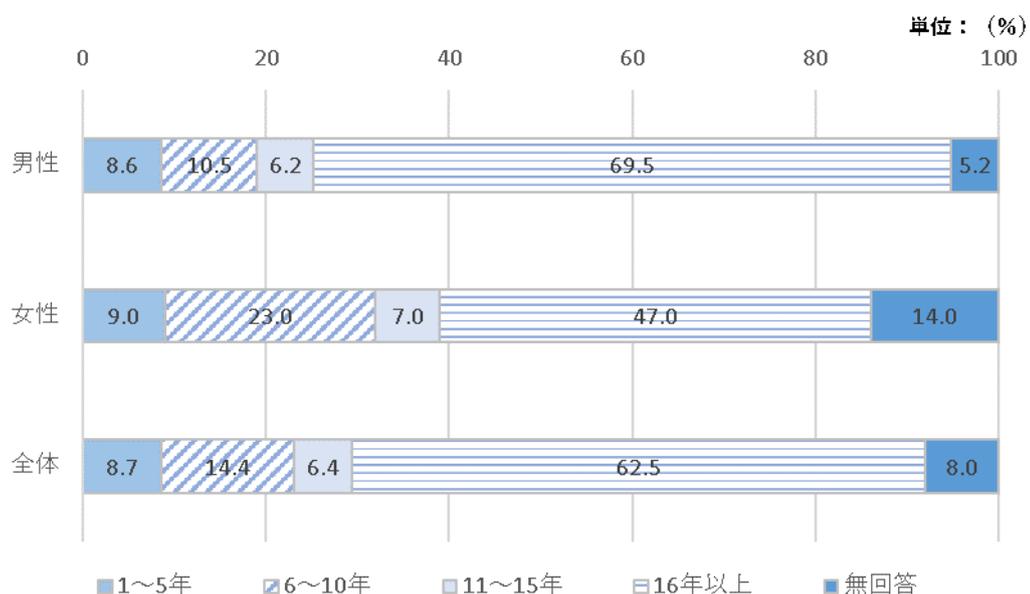
性別で見ると、「16年以上」が女性は5割に満たないのに対して、男性は約7割と高い。

年代別では、50～70歳代で「16年以上」が8割を超え、40歳代でも6割を超えている。

【表・図 69 喫煙年数（性別）】

	1～5年	6～10年	11～15年	16年以上	無回答
男性	18	22	13	146	11
	8.6	10.5	6.2	69.5	5.2
女性	9	23	7	47	14
	9.0	23.0	7.0	47.0	14.0
全体	27	45	20	195	25
	8.7	14.4	6.4	62.5	8.0

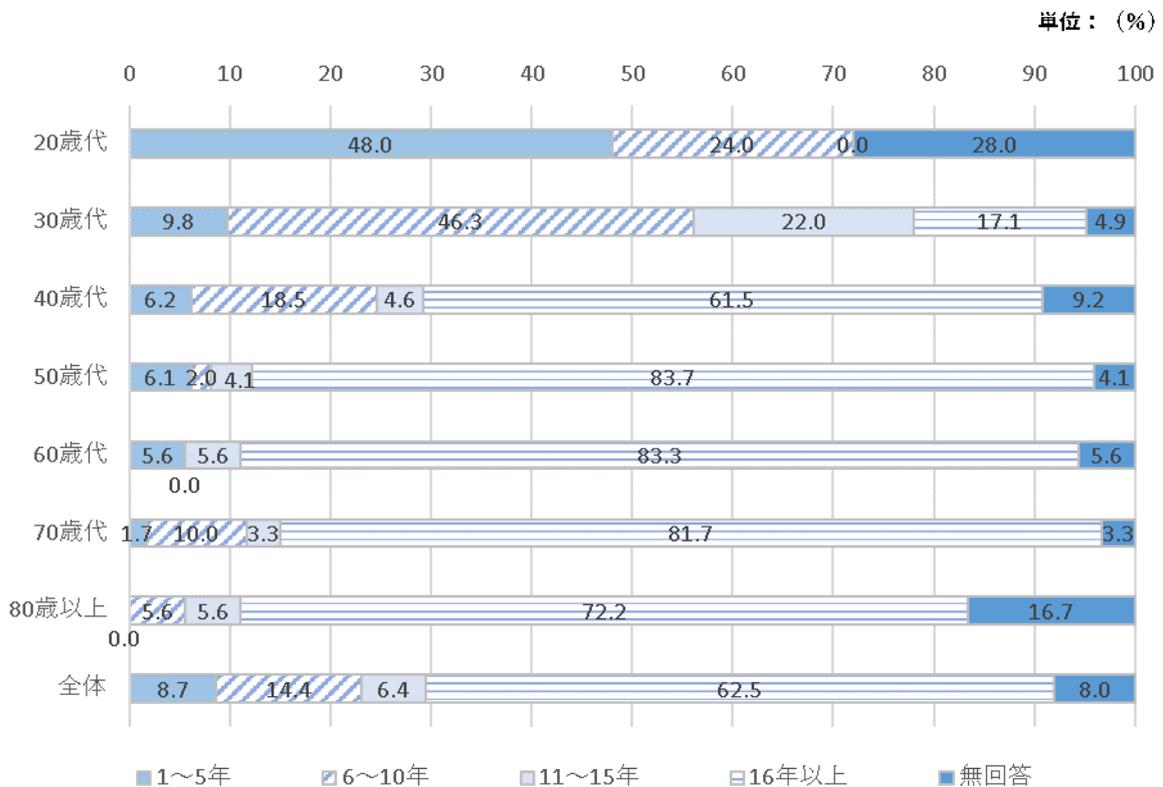
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 70 喫煙年数（年代別）】

	1～5年	6～10年	11～15年	16年以上	無回答
20歳代	12	6	0	0	7
	48.0	24.0	0.0	0.0	28.0
30歳代	4	19	9	7	2
	9.8	46.3	22.0	17.1	4.9
40歳代	4	12	3	40	6
	6.2	18.5	4.6	61.5	9.2
50歳代	3	1	2	41	2
	6.1	2.0	4.1	83.7	4.1
60歳代	3	0	3	45	3
	5.6	0.0	5.6	83.3	5.6
70歳代	1	6	2	49	2
	1.7	10.0	3.3	81.7	3.3
80歳以上	0	1	1	13	3
	0.0	5.6	5.6	72.2	16.7
全体	27	45	20	195	25
	8.7	14.4	6.4	62.5	8.0

上段：実数（人） 下段：割合（％）



問 14 「たばこを吸うと歯周病になりやすい」ことを知っていますか。

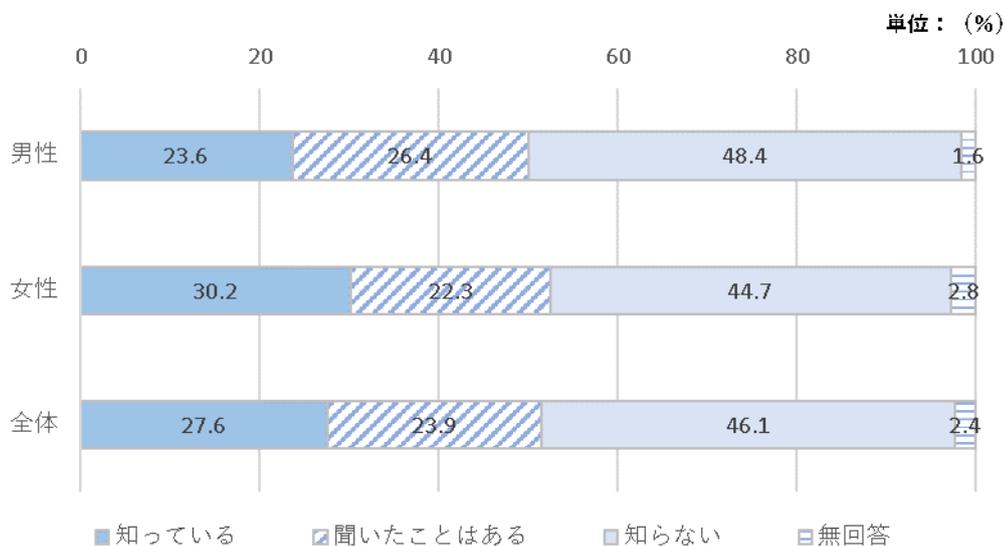
「たばこを吸うと歯周病になりやすい」ことを「知らない」が46.1%（男性48.4%/女性44.7%）で最も多く、「知っている」が27.6%（男性23.6%/女性30.2%）、「聞いたことはある」が23.9%（男性26.4%/女性22.3%）である。

「知っている」の回答が女性3割に対して男性が約2割であるが、性別や年代別による大きな差はみられない。

【表・図 71 喫煙と歯周病の関係についての知識（性別）】

	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
男性	130	145	266	9
	23.6	26.4	48.4	1.6
女性	267	197	395	25
	30.2	22.3	44.7	2.8
全体	398	344	665	34
	27.6	23.9	46.1	2.4

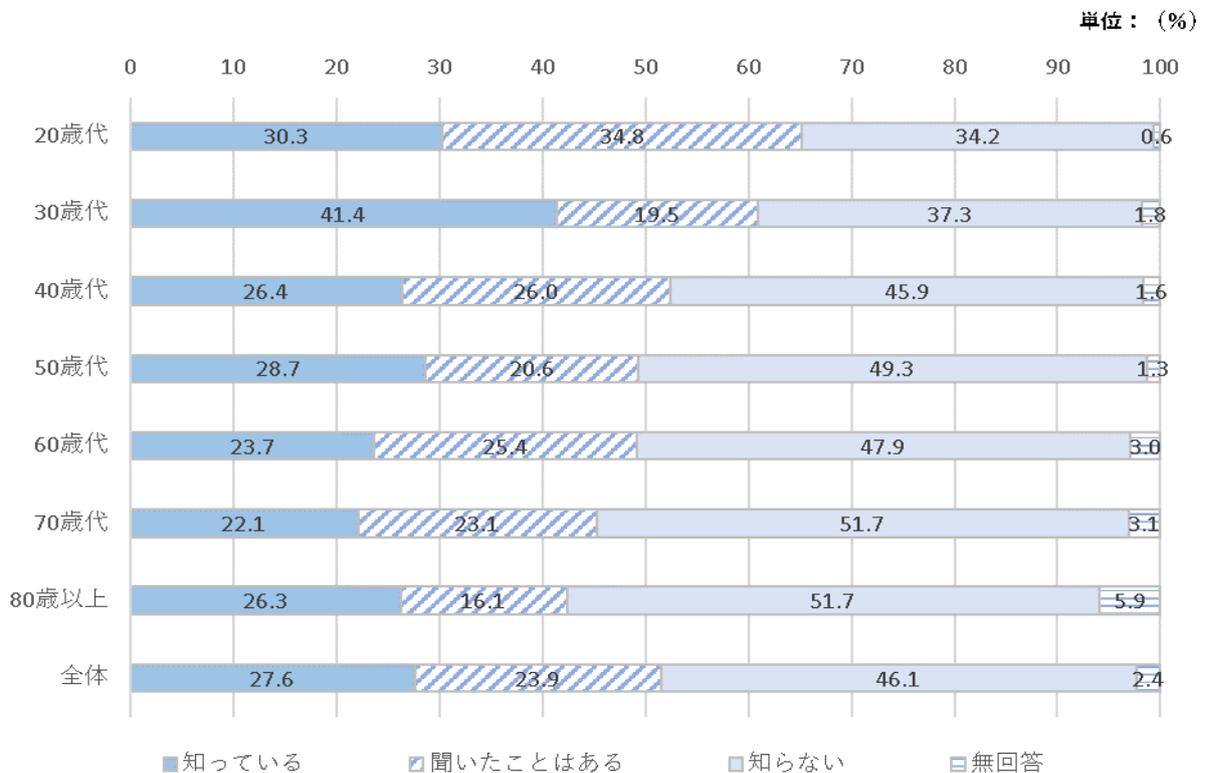
上段：実数（人） 下段：割合（%）



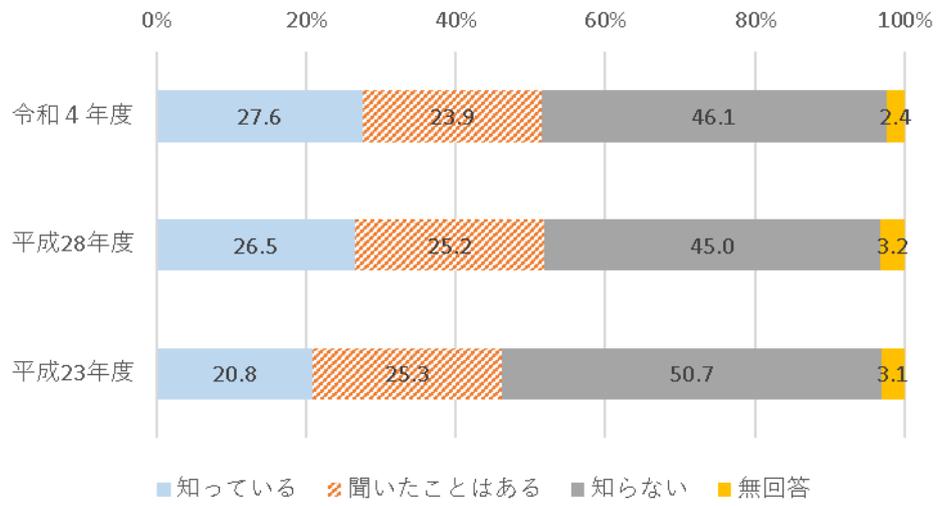
【表・図 72 喫煙と歯周病の関係についての知識（年代別）】

	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
20歳代	47	54	53	1
	30.3	34.8	34.2	0.6
30歳代	70	33	63	3
	41.4	19.5	37.3	1.8
40歳代	65	64	113	4
	26.4	26.0	45.9	1.6
50歳代	64	46	110	3
	28.7	20.6	49.3	1.3
60歳代	56	60	113	7
	23.7	25.4	47.9	3.0
70歳代	65	68	152	9
	22.1	23.1	51.7	3.1
80歳以上	31	19	61	7
	26.3	16.1	51.7	5.9
全体	398	344	665	34
	27.6	23.9	46.1	2.4

上段：実数（人） 下段：割合（％）



【図 73 喫煙と歯周病の関係についての知識（経年推移）】



問 15 「糖尿病と歯周病の治療効果に関連性がある」ことを知っていますか。

「糖尿病と歯周病の治療効果に関連性がある」ことを「知らない」が 51.7%（男性 58.4%/女性 47.5%）と最も多く、「聞いたことがある」が 26.3%（男性 24.0%/女性 27.8%）、「知っている」が 20.5%（男性 16.5%/女性 22.9%）である。

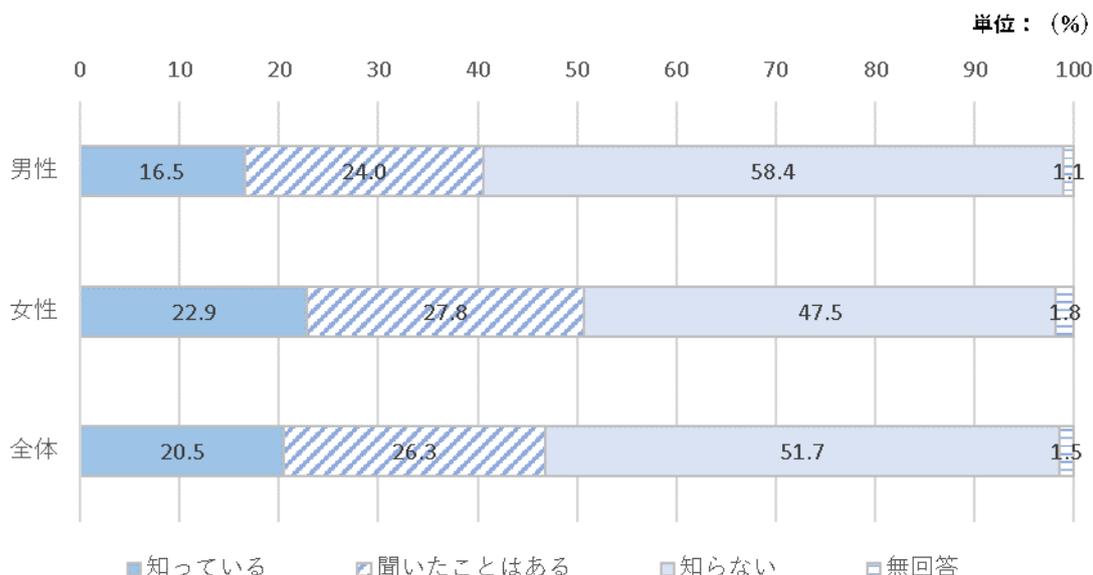
性別でみると、「知っている」に「聞いたことがある」を含めると、男性約 4 割、女性約 5 割となり、女性のほうが認知度は高い。

年代別では、「知っている」の回答は 20 歳代が最も少ない 18.1%で、30 歳代が最も多い 23.1%であり、年代による大きな差はみられない。

【表・図 74 糖尿病と歯周病の治療効果の関連性についての知識（性別）】

	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
男性	91	132	321	6
	16.5	24.0	58.4	1.1
女性	202	246	420	16
	22.9	27.8	47.5	1.8
全体	295	379	745	22
	20.5	26.3	51.7	1.5

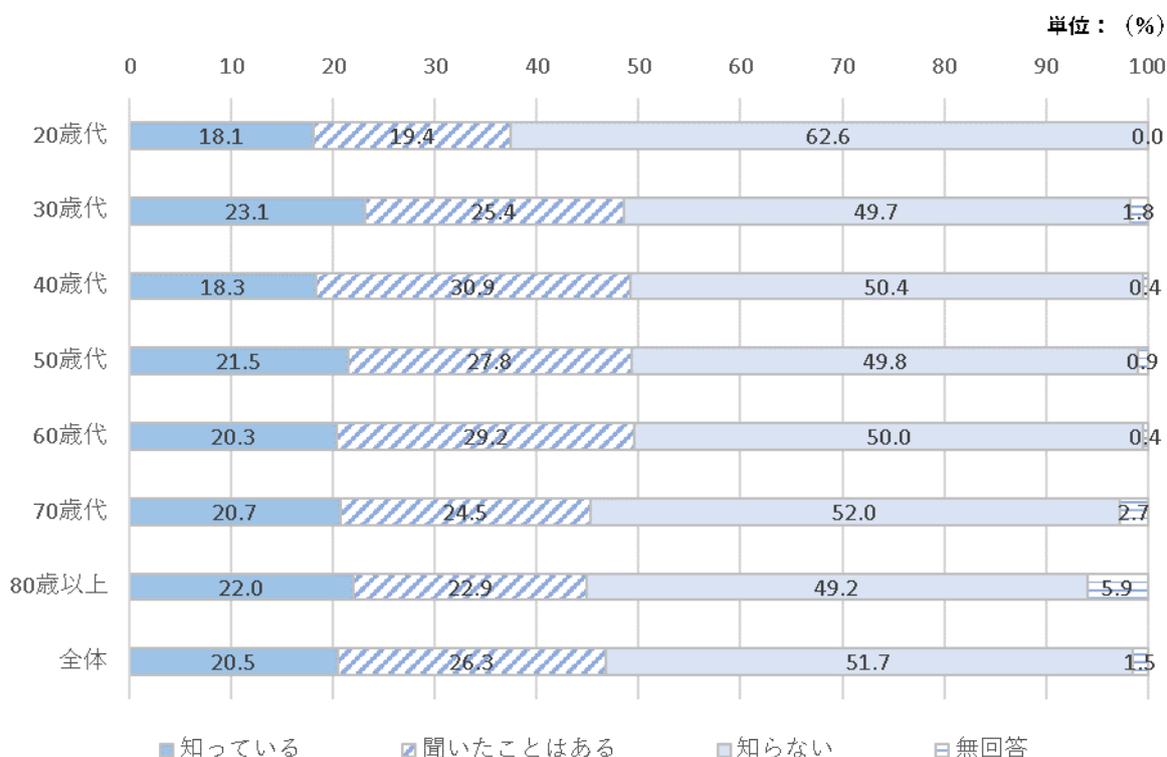
上段：実数（人） 下段：割合（%）



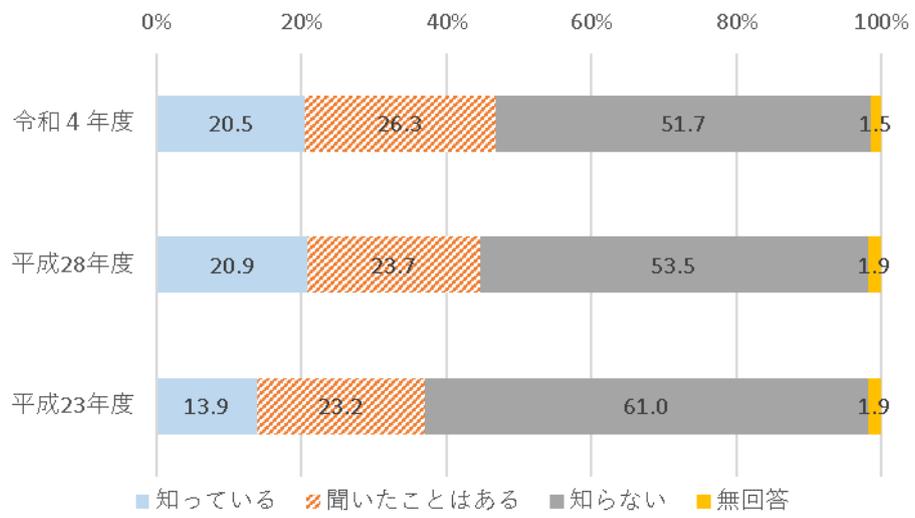
【表・図 75 糖尿病と歯周病の治療効果の関連性についての知識（年代別）】

	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
20歳代	28	30	97	0
	18.1	19.4	62.6	0.0
30歳代	39	43	84	3
	23.1	25.4	49.7	1.8
40歳代	45	76	124	1
	18.3	30.9	50.4	0.4
50歳代	48	62	111	2
	21.5	27.8	49.8	0.9
60歳代	48	69	118	1
	20.3	29.2	50.0	0.4
70歳代	61	72	153	8
	20.7	24.5	52.0	2.7
80歳以上	26	27	58	7
	22.0	22.9	49.2	5.9
全体	295	379	745	22
	20.5	26.3	51.7	1.5

上段：実数（人） 下段：割合（％）



【図 76 糖尿病と歯周病の治療効果の関連性についての知識（経年推移）】



問 16 口腔ケア（口の中を清掃すること）が誤嚥性肺炎を予防する」ことを知っていますか。

口腔ケアと誤嚥性肺炎の予防の関係について、「知らない」が過半数（全体 51.9%・男性 64.2%/女性 44.2%）を占め、「知っている」24.6%（男性 14.0%/女性 31.4%）、「聞いたことがある」22.1%（男性 20.5%/女性 23.0%）を大幅に上回っている。

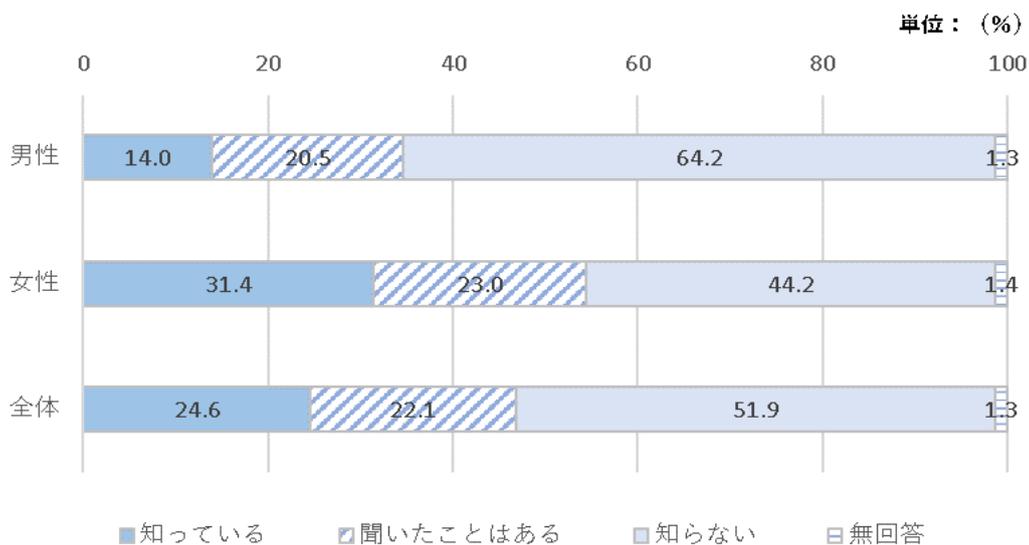
性別で見ると、「知っている」に「聞いたことがある」も含めると、男性が3割強に対して、女性の認知度は5割を超えている。

年代別では、「知っている」の回答は20歳代が最も少ない18.1%で、80歳以上が最も多い30.5%であり、年代が高くなるにつれて認知度が高い。

【表・図 77 口腔ケアと誤嚥性肺炎予防の関係についての知識（性別）】

	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
男性	77	113	353	7
	14.0	20.5	64.2	1.3
女性	278	203	391	12
	31.4	23.0	44.2	1.4
全体	355	319	748	19
	24.6	22.1	51.9	1.3

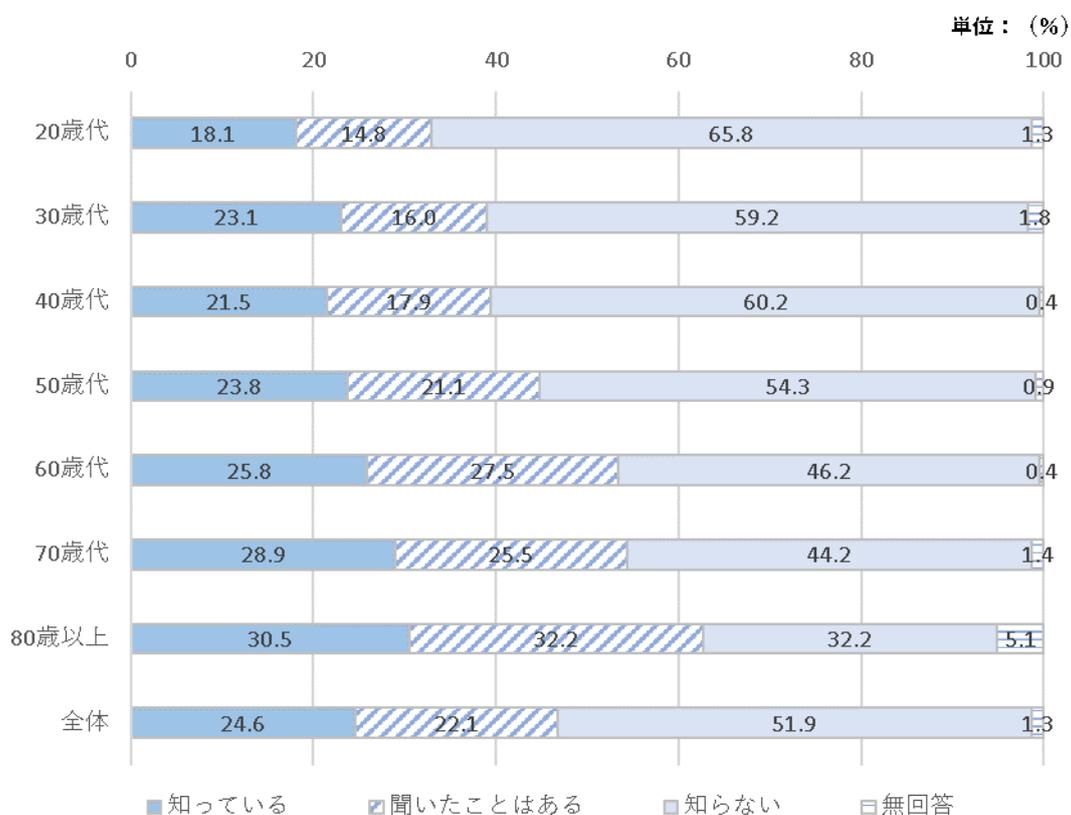
上段：実数（人） 下段：割合（%）



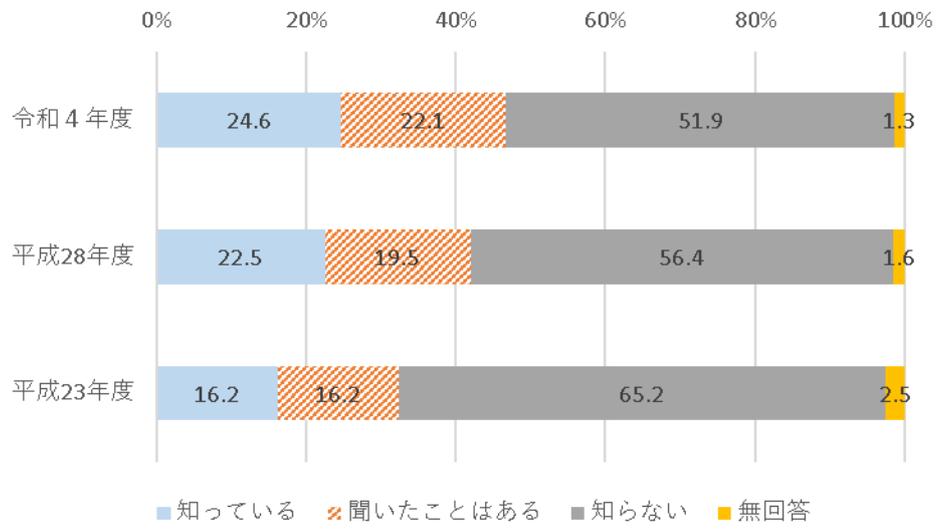
【表・図 78 口腔ケアと誤嚥性肺炎予防の関係についての知識（年代別）】

	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
20歳代	28	23	102	2
	18.1	14.8	65.8	1.3
30歳代	39	27	100	3
	23.1	16.0	59.2	1.8
40歳代	53	44	148	1
	21.5	17.9	60.2	0.4
50歳代	53	47	121	2
	23.8	21.1	54.3	0.9
60歳代	61	65	109	1
	25.8	27.5	46.2	0.4
70歳代	85	75	130	4
	28.9	25.5	44.2	1.4
80歳以上	36	38	38	6
	30.5	32.2	32.2	5.1
全体	355	319	748	19
	24.6	22.1	51.9	1.3

上段：実数（人） 下段：割合（％）



【図 79 口腔ケアと誤嚥性肺炎予防の関係についての知識（経年推移）】



問17 「オーラルフレイル」についておたずねします。

「オーラルフレイル」について、「言葉も意味もわからない」が64.8%（男性71.1%/女性61.0%）と最も多く、次いで、「言葉は知っているが、意味はわからない」が22.8%（男性20.4%/女性24.2%）となっている。「言葉と意味を知っている」は10.3%（男性7.1%/女性12.4%）と約1割である。

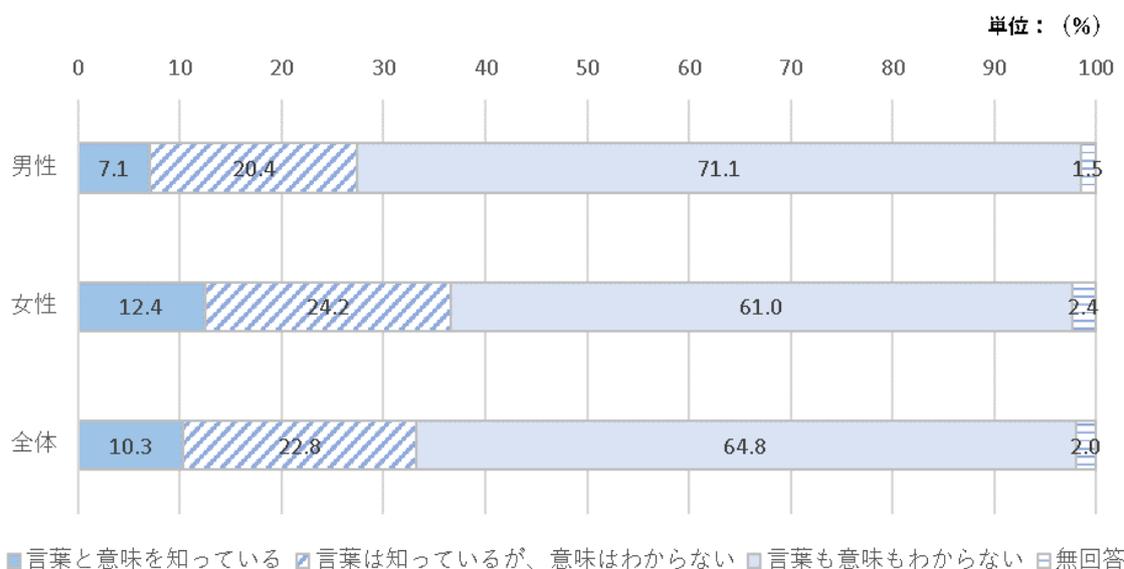
性別で見ると、「言葉も意味もわからない」が男性7割に対して、女性は6割である。女性の認知度のほうがやや高い。

年代別では、「言葉と意味を知っている」は30歳代13.0%が最も高く、20歳代は5.2%と最も低い。20歳代以外では、年代による差はみられない。

【表・図80 オーラルフレイルについての知識（性別）】

	言葉と意味を知っている	言葉は知っているが、意味はわからない	言葉も意味もわからない	無回答
男性	39	112	391	8
	7.1	20.4	71.1	1.5
女性	110	214	539	21
	12.4	24.2	61.0	2.4
全体	149	329	934	29
	10.3	22.8	64.8	2.0

上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 81 オーラルフレイルについての知識（年代別）】

	言葉と意味を知っている	言葉は知っているが、意味はわからない	言葉も意味もわからない	無回答
20歳代	8	31	115	1
	5.2	20.0	74.2	0.6
30歳代	22	29	115	3
	13.0	17.2	68.0	1.8
40歳代	23	51	169	3
	9.3	20.7	68.7	1.2
50歳代	23	60	137	3
	10.3	26.9	61.4	1.3
60歳代	22	61	149	4
	9.3	25.8	63.1	1.7
70歳代	36	77	175	6
	12.2	26.2	59.5	2.0
80歳以上	15	20	74	9
	12.7	16.9	62.7	7.6
全体	149	329	934	29
	10.3	22.8	64.8	2.0

上段：実数（人） 下段：割合（％）



問 18 心臓病やがん等の全身麻酔下での手術または化学療法や放射線治療を受けた時に、口腔ケア（口の中を清掃すること）を受けたことがありますか。

1) 手術または化学療法や放射線治療を受けたことがあるか

心臓病やがん等の全身麻酔下での手術または化学療法や放射線治療を「受けた」は11.6%（男性9.8%/女性12.7%）と約1割である。「受けていない」が82.4%（男性85.8%/女性80.2%）。

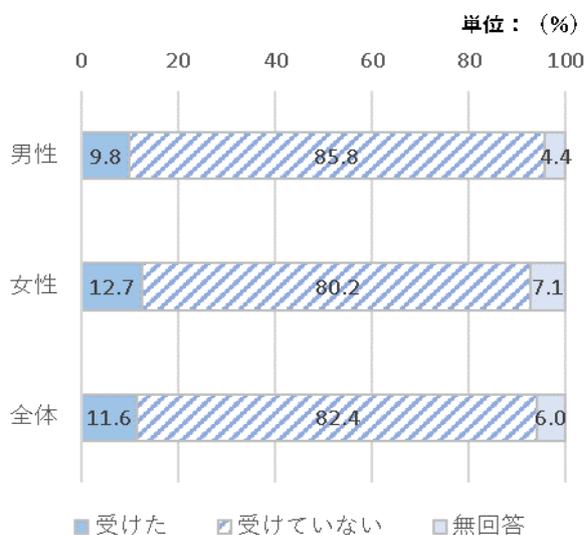
性別による大きな差はみられない。

年代別にみると、20～50歳代は「受けた」割合が1割に満たないのに対し、60歳代13.6%、70歳代18.7%、80歳以上18.6%と年代が高くなると増加する。

【表・図 82 手術または化学療法や放射線治療の受療状況（性別）】

	受けた	受けていない	無回答
男性	54	472	24
	9.8	85.8	4.4
女性	112	709	63
	12.7	80.2	7.1
全体	167	1187	87
	11.6	82.4	6.0

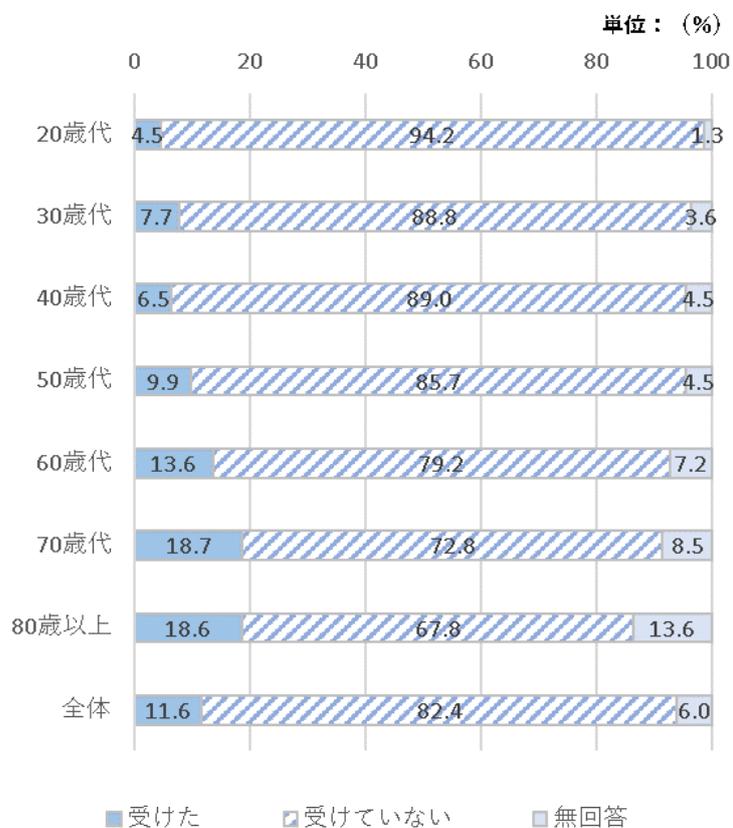
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 83 手術または化学療法や放射線治療の受療状況（年代別）】

	受けた	受けていない	無回答
20歳代	7	146	2
	4.5	94.2	1.3
30歳代	13	150	6
	7.7	88.8	3.6
40歳代	16	219	11
	6.5	89.0	4.5
50歳代	22	191	10
	9.9	85.7	4.5
60歳代	32	187	17
	13.6	79.2	7.2
70歳代	55	214	25
	18.7	72.8	8.5
80歳以上	22	80	16
	18.6	67.8	13.6
全体	167	1187	87
	11.6	82.4	6.0

上段：実数（人） 下段：割合（％）

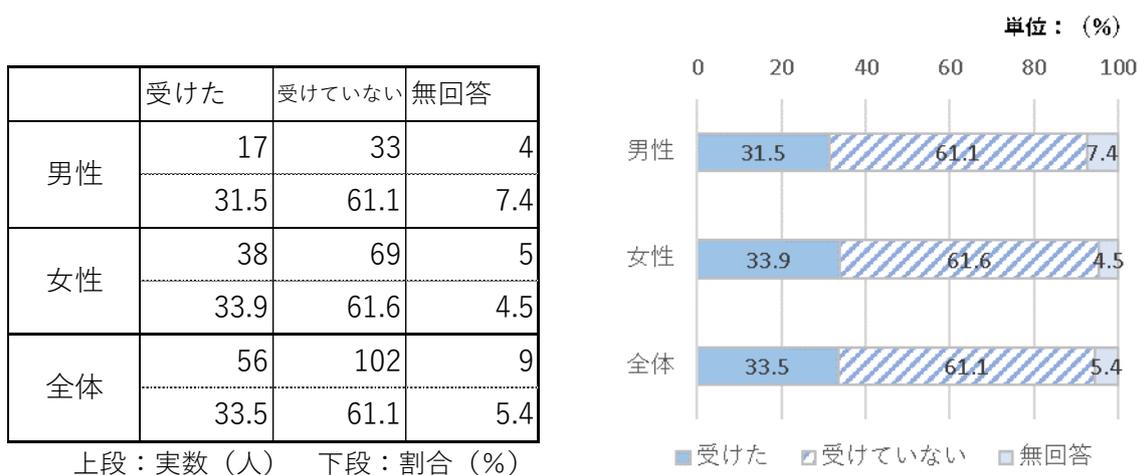


## 2) 口腔ケア（口の中の清掃）を受けたことがあるか

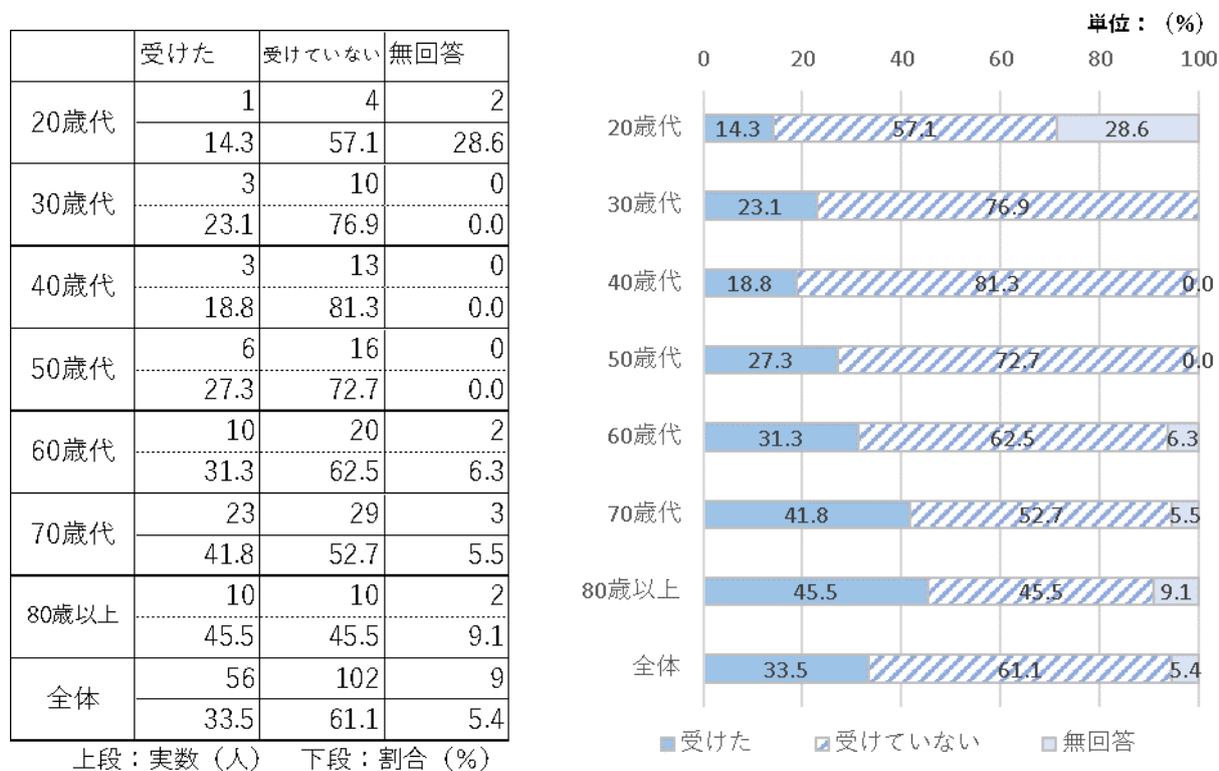
心臓病やがん等の全身麻酔下での手術または化学療法や放射線治療の際、口腔ケアを「受けた」は33.5%（男性31.5%/女性33.9%）と3割強であり、「受けていない」が61.1%（男性61.1%/女性61.6%）である。男女による差はほぼみられない。

年代別にみると、80歳以上では「受けた」と「受けていない」が45.5%と同じ割合であり、70歳代までは「受けていない」の割合のほうが多い。

【表・図 84 手術等を受けた際の口腔ケアの受診状況（性別）】



【表・図 85 手術等を受けた際の口腔ケアの受診状況（年代別）】



3) 「口腔ケアを受けた」と答えた方におたずねします。どこで受けましたか。

口腔ケアを受けた場所について、「病院（歯科・口腔外科）」が53.6%（男性52.9%/女性55.3%）と最も多い。次いで「歯科医院（診療所）」が26.8%（男性35.3%/女性23.7%）、「病院と歯科医院の両方」が16.1%（男性11.8%/女性15.8%）となっている。

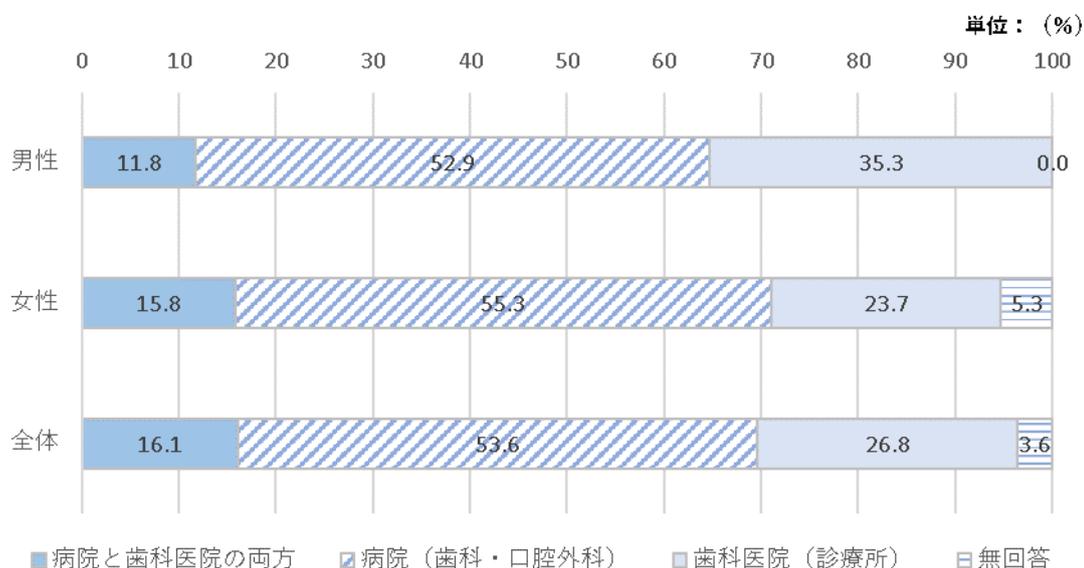
性別による差は認められない。

年代別でみると、被調査者数が少ないため比較は困難であるが、60歳代、70歳代では「病院（歯科・口腔外科）」が多い。

【表・図 86 口腔ケアを受けた場所（性別）】

	病院と歯科医院の両方	病院（歯科・口腔外科）	歯科医院（診療所）	無回答
男性	2	9	6	0
	11.8	52.9	35.3	0.0
女性	6	21	9	2
	15.8	55.3	23.7	5.3
全体	9	30	15	2
	16.1	53.6	26.8	3.6

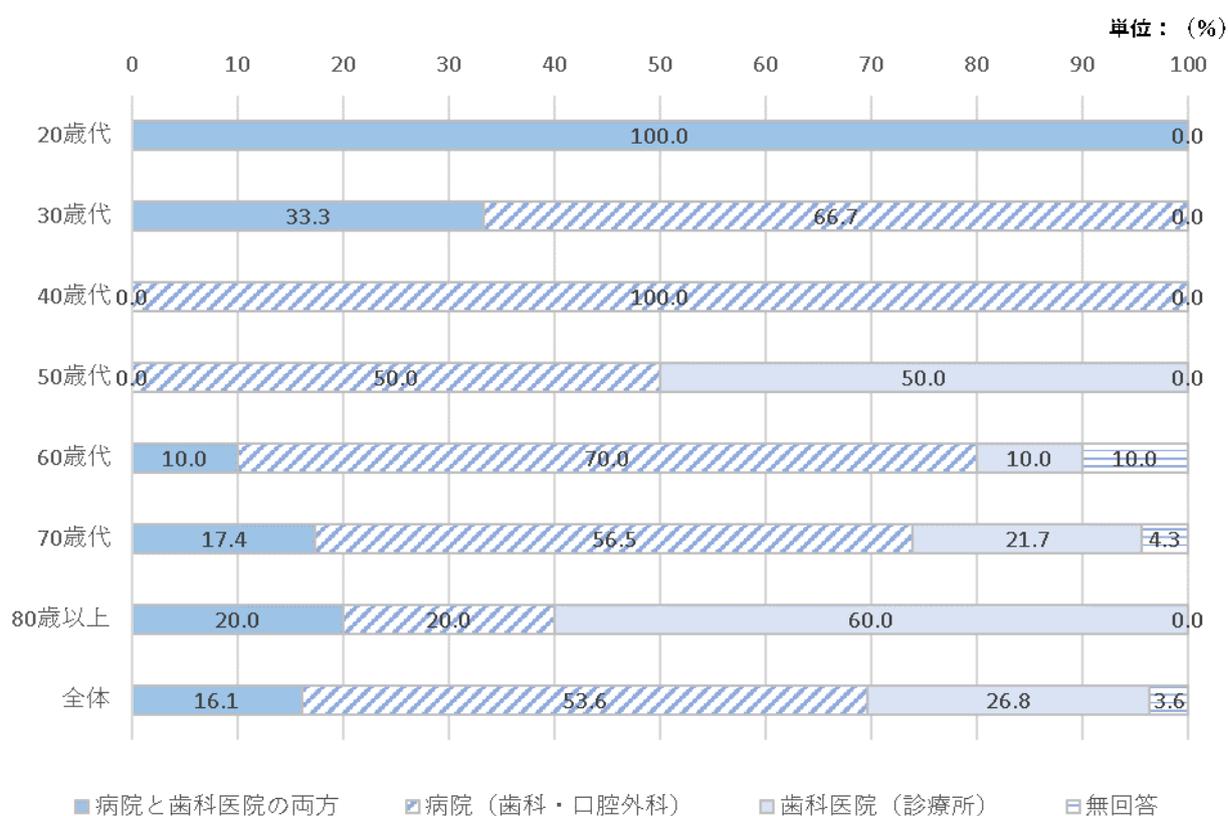
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 87 口腔ケアを受けた場所（年代別）】

	病院と歯科医院 の両方	病院（歯科・口 腔外科）	歯科医院（診療 所）	無回答
20歳代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
30歳代	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0
40歳代	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0
50歳代	0 0.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0
60歳代	1 10.0	7 70.0	1 10.0	1 10.0
70歳代	4 17.4	13 56.5	5 21.7	1 4.3
80歳以上	2 20.0	2 20.0	6 60.0	0 0.0
全体	9 16.1	30 53.6	15 26.8	2 3.6

上段：実数（人） 下段：割合（％）



問19 歯や歯ぐきのことについて健康相談や指導を受ける場合、どのような場所がよいですか。

歯や歯ぐきのことについて健康相談や指導を受けるなら「歯科医院（病院、診療所を含む）」がよいという回答が93.4%（男性93.5%/女性93.4%）と最も多い。次いで「保健所・市町村保健センター」は3.5%（男性2.7%/女性4.1%）である。

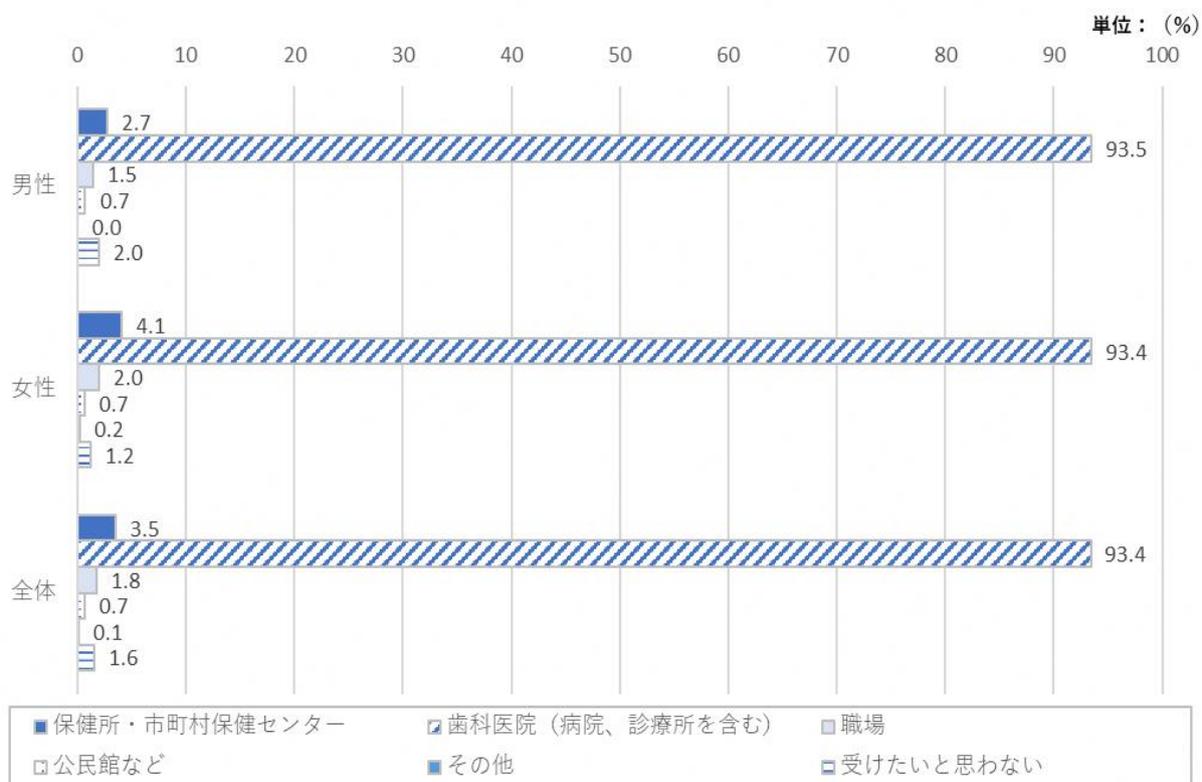
性別による差はみられない。

年代別にみても、すべての年代で「歯科医院（病院、診療所を含む）」が約9割となっている。20～30歳代で「職場」や60歳代以上で「保健所・市町村保健センター」の回答が4～5%あるが、年代による差もみられない。

【表・図88 歯科健康相談や指導を受ける場所についての希望（性別）】

	保健所・市町村保健センター	歯科医院（病院、診療所を含む）	職場	公民館など	その他	受けたいと思わない
男性	15	514	8	4	0	11
	2.7	93.5	1.5	0.7	0.0	2.0
女性	36	826	18	6	2	11
	4.1	93.4	2.0	0.7	0.2	1.2
全体	51	1346	26	10	2	23
	3.5	93.4	1.8	0.7	0.1	1.6

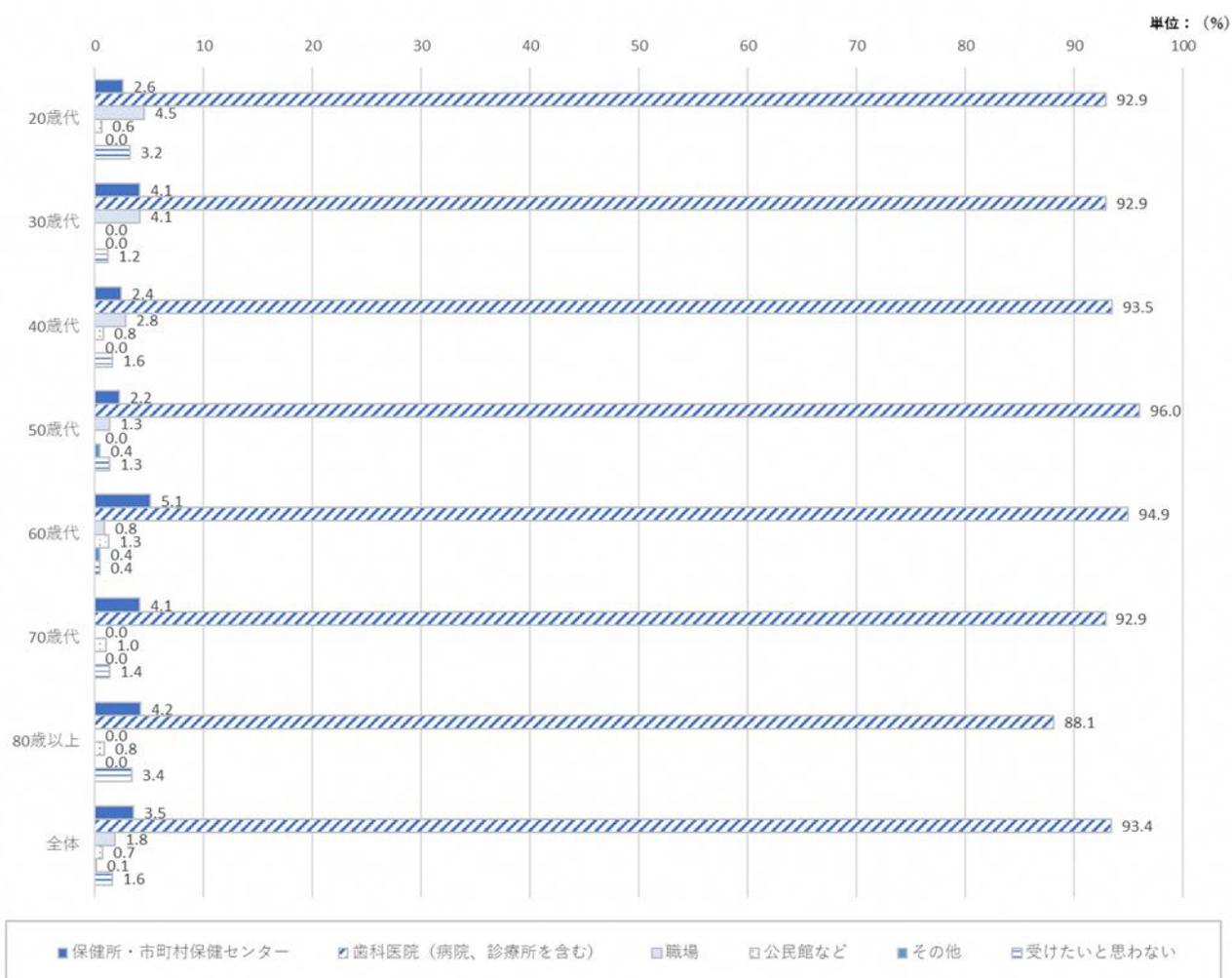
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 89 歯科健康相談や指導を受ける場所についての希望（年代別）】

	保健所・市町村 保健センター	歯科医院（病院、診 療所を含む）	職場	公民館など	その他	受けたいと思わ ない
20歳代	4	144	7	1	0	5
	2.6	92.9	4.5	0.6	0.0	3.2
30歳代	7	157	7	0	0	2
	4.1	92.9	4.1	0.0	0.0	1.2
40歳代	6	230	7	2	0	4
	2.4	93.5	2.8	0.8	0.0	1.6
50歳代	5	214	3	0	1	3
	2.2	96.0	1.3	0.0	0.4	1.3
60歳代	12	224	2	3	1	1
	5.1	94.9	0.8	1.3	0.4	0.4
70歳代	12	273	0	3	0	4
	4.1	92.9	0.0	1.0	0.0	1.4
80歳以上	5	104	0	1	0	4
	4.2	88.1	0.0	0.8	0.0	3.4
全体	51	1346	26	10	2	23
	3.5	93.4	1.8	0.7	0.1	1.6

上段：実数（人） 下段：割合（％）



問 20 あなたの就労・就学等の状況についておたずねします。

就労・就学等の状況について、「就労中（パートタイム労働などを含む）」が最も多い58.7%（男性65.6%/女性54.5%）、次いで「就業していない」が36.7%（男性28.9%/女性41.5%）、「学生」1.8%（男性2.2%/女性1.5%）となっている。

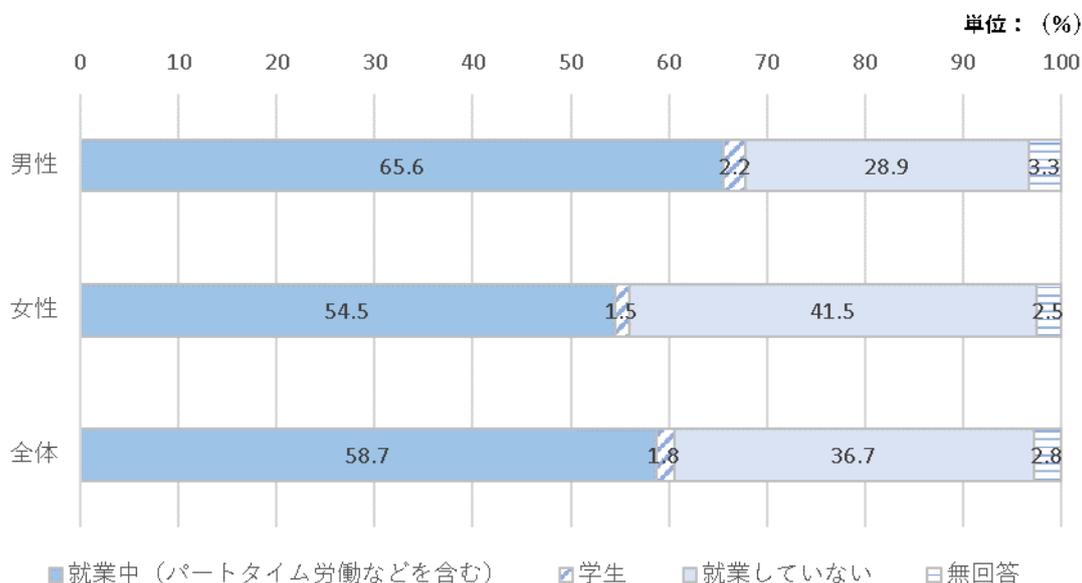
性別でみると、男性のほうが1割程度就業率が高い。

年代別にみると、「学生」が16.1%いる20歳代～50歳代までの約8割、60歳代では6割、70歳代では2割が「就労中（パートタイム労働などを含む）」である。

【表・図 90 就労・就学等の状況（性別）】

	就労中（パートタイム労働などを含む）	学生	就業していない	無回答
男性	361	12	159	18
	65.6	2.2	28.9	3.3
女性	482	13	367	22
	54.5	1.5	41.5	2.5
全体	846	26	529	40
	58.7	1.8	36.7	2.8

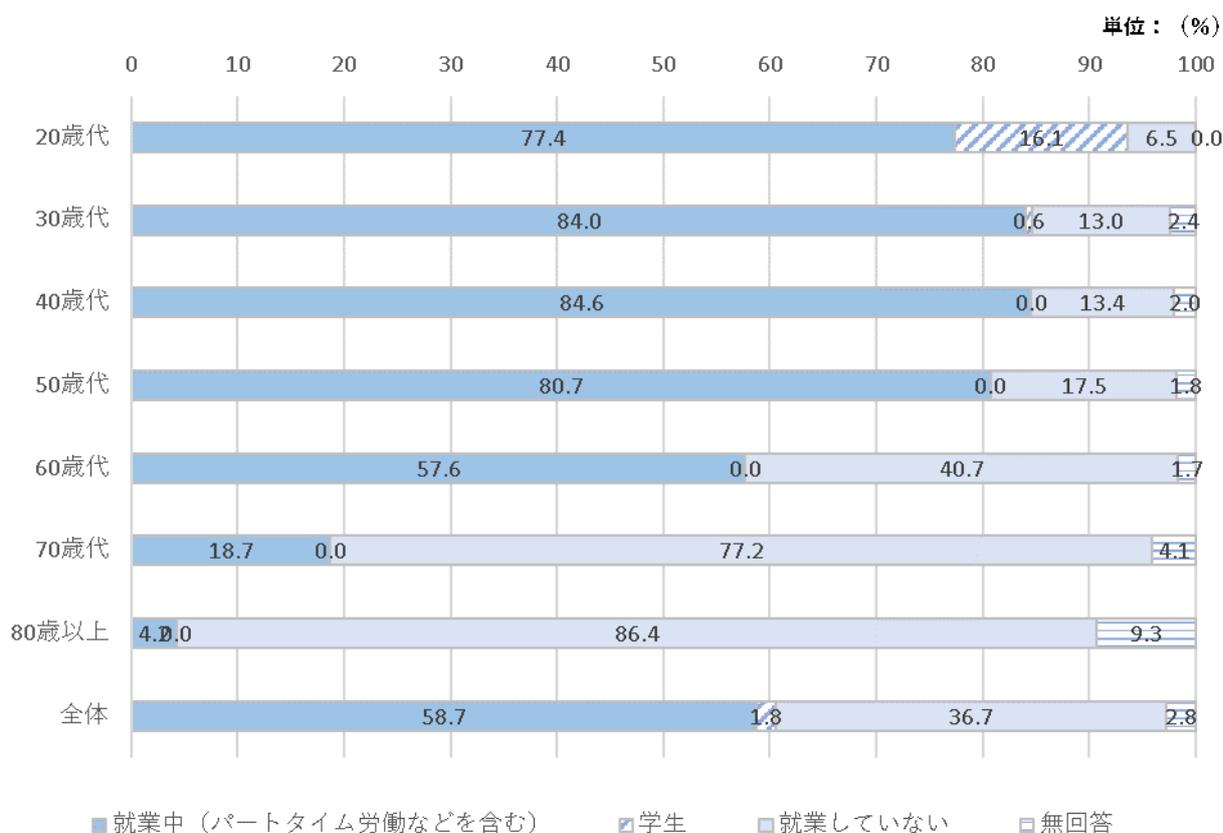
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 91 就労・就学等の状況（年代別）】

	就労中（パートタイム労働などを含む）	学生	就業していない	無回答
20歳代	120	25	10	0
	77.4	16.1	6.5	0.0
30歳代	142	1	22	4
	84.0	0.6	13.0	2.4
40歳代	208	0	33	5
	84.6	0.0	13.4	2.0
50歳代	180	0	39	4
	80.7	0.0	17.5	1.8
60歳代	136	0	96	4
	57.6	0.0	40.7	1.7
70歳代	55	0	227	12
	18.7	0.0	77.2	4.1
80歳以上	5	0	102	11
	4.2	0.0	86.4	9.3
全体	846	26	529	40
	58.7	1.8	36.7	2.8

上段：実数（人） 下段：割合（%）



## 4 クロス集計

### (1) 未処置歯を有する者の歯科健診を受けていない理由

未処置歯がある者で、定期的に歯科健診を受けていない理由として、「受診の必要性を感じない」28.7%（男性33.9%/女性23.3%）で最も多い。「現在歯科医院に通院中である」19.1%（男性22.3%/女性16.3%）と「健診を実施しているか知らない」18.7%（男性20.7%/女性17.1%）が約2割、「日時が合わない」が15.5%（男性15.7%/女性15.5%）となっている。

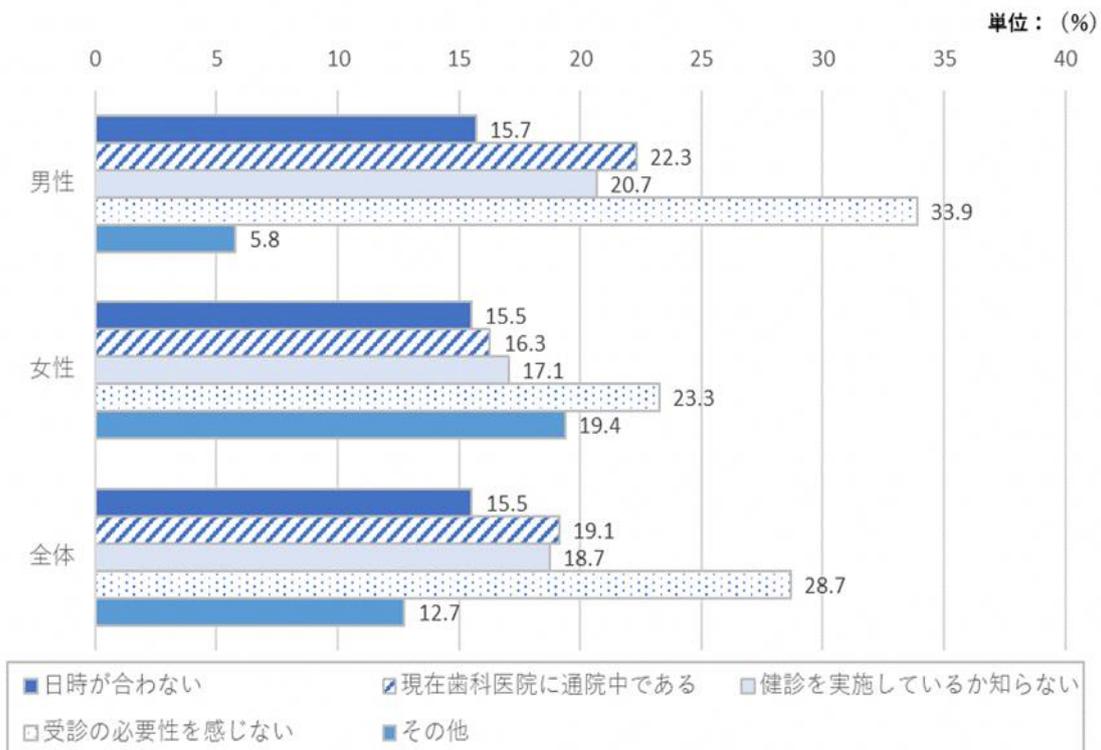
性別でみると、男性の「受診の必要性を感じない」の割合がやや高い。

年代別では、20歳代、60歳代、80歳以上では「受診の必要性を感じない」の割合が、50歳代では「健診を実施しているか知らない」の割合が約3割と高い。

【表・図 92 未処置歯を有する者の歯科健診を受けていない理由（性別）】

	日時が合わない	現在歯科医院に通院中である	健診を実施しているか知らない	受診の必要性を感じない	その他
男性	19	27	25	41	7
	15.7	22.3	20.7	33.9	5.8
女性	20	21	22	30	25
	15.5	16.3	17.1	23.3	19.4
全体	39	48	47	72	32
	15.5	19.1	18.7	28.7	12.7

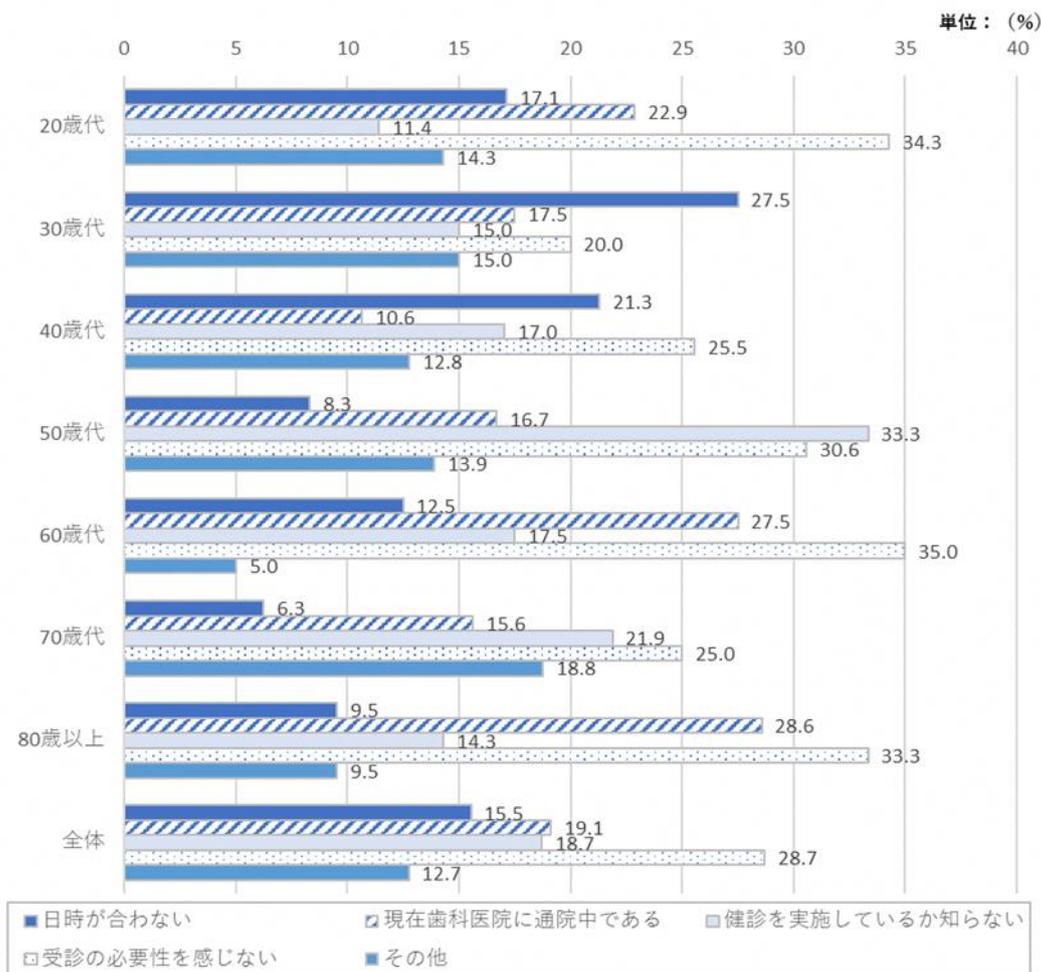
上段：実数（人） 下段：割合（%）



【表・図 93 未処置歯を有する者の歯科健診を受けていない理由（年代別）】

	日時が合わない	現在歯科医院に通院中である	健診を実施しているか知らない	受診の必要性を感じない	その他
20歳代	6	8	4	12	5
	17.1	22.9	11.4	34.3	14.3
30歳代	11	7	6	8	6
	27.5	17.5	15.0	20.0	15.0
40歳代	10	5	8	12	6
	21.3	10.6	17.0	25.5	12.8
50歳代	3	6	12	11	5
	8.3	16.7	33.3	30.6	13.9
60歳代	5	11	7	14	2
	12.5	27.5	17.5	35.0	5.0
70歳代	2	5	7	8	6
	6.3	15.6	21.9	25.0	18.8
80歳以上	2	6	3	7	2
	9.5	28.6	14.3	33.3	9.5
全体	39	48	47	72	32
	15.5	19.1	18.7	28.7	12.7

上段：実数（人） 下段：割合（％）



## (2) 歯数とかみにくい食べ物の関係

### 1) 現在歯数とかみにくい食べ物の関係

現在歯数とかみにくい食べ物の関係をみると、最もかみにくいと回答される「堅焼きせんべい」は、全体で17.3%、現在歯数「20本以上」で12.9%、「10～19本」で42.4%、「0～9本」で47.0%となっている。「たくあん」や「柿」についても同様の傾向がみられ、現在歯数が減少するとかみにくいと感じている。

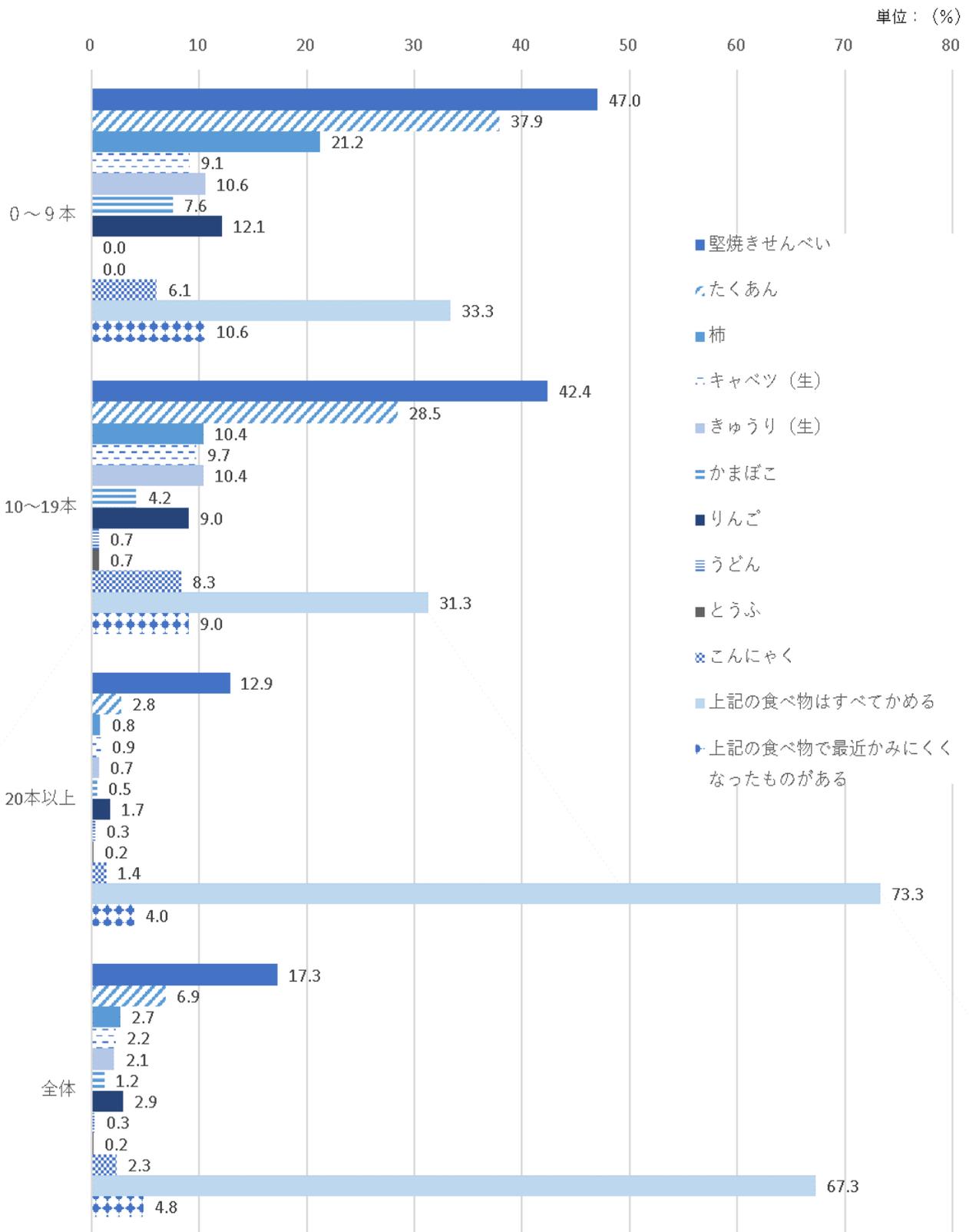
「上記の食べ物はすべてかめる」と回答した者は、「20本以上」では約7割であるのに対し、「19本以下」では約3割であり、また、「19本以下」では「上記の食べ物で最近かみにくくなったものがある」と約1割の者が感じている。

【表 94 現在歯数とかみにくい食べ物の関係】

	堅焼きせんべい	たくあん	柿	キャベツ(生)	きゅうり(生)	かまぼこ	りんご	うどん	とうふ	こんにゃく	上記の食べ物はすべてかめる	上記の食べ物で最近かみにくくなったものがある
0～9本	31	25	14	6	7	5	8	0	0	4	22	7
	47.0	37.9	21.2	9.1	10.6	7.6	12.1	0.0	0.0	6.1	33.3	10.6
10～19本	61	41	15	14	15	6	13	1	1	12	45	13
	42.4	28.5	10.4	9.7	10.4	4.2	9.0	0.7	0.7	8.3	31.3	9.0
20本以上	158	34	10	11	8	6	21	4	2	17	901	49
	12.9	2.8	0.8	0.9	0.7	0.5	1.7	0.3	0.2	1.4	73.3	4.0
全体	250	100	39	31	30	17	42	5	3	33	970	69
	17.3	6.9	2.7	2.2	2.1	1.2	2.9	0.3	0.2	2.3	67.3	4.8

上段：実数（人） 下段：割合（％）

【図 94 現在歯数とかみにくい食べ物の関係】



## 2) 欠損補綴歯数を加えた現在歯数とかみにくい食べ物の関係

現在歯数と欠損補綴歯数の合計とかみにくい食べ物の関係をみると、最もかみにくいと回答される「堅焼きせんべい」では、現在歯数と欠損補綴歯数の合計が「20本以上」で16.9%、「10～19本」で約6割（58.8%）がかみにくいと感じている。「たくあん」でも、「20本以上」で6.4%が、「10～19本」では52.9%に増える。現在歯数だけではなく欠損補綴歯数を加えても、「うどん」、「とうふ」を除く食べ物で「20本以上」と比較すると、「10～19本」ではかみにくいと感じている。

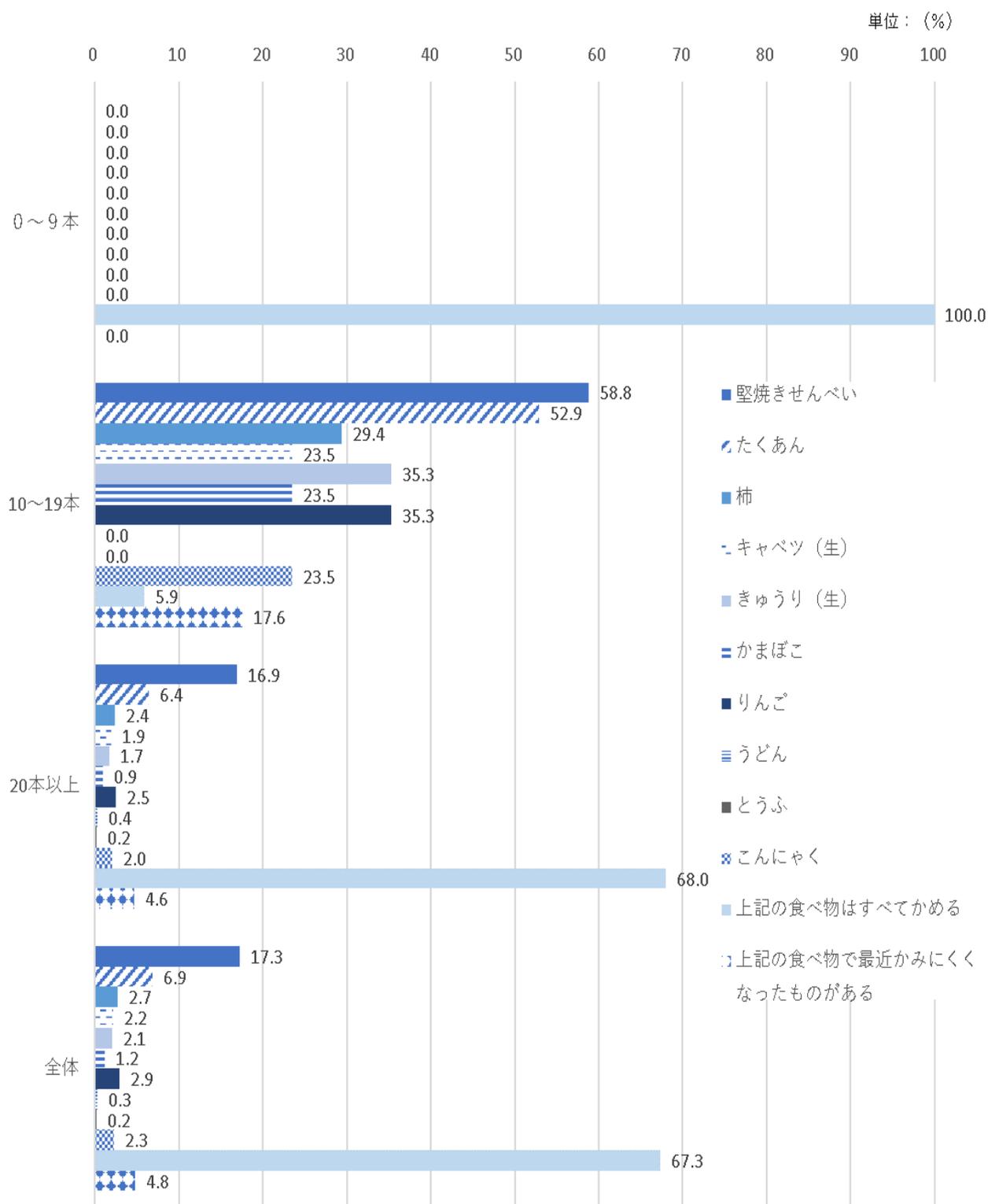
「上記の食べ物はすべてかめる」と回答した「20本以上」の者は、現在歯のみでは73.3%であるが、欠損補綴歯数を加えた現在歯数では68.0%にやや低下する。

【表 95 欠損補綴歯数を加えた現在歯数とかみにくい食べ物の関係】

	堅焼きせんべい	たくあん	柿	キャベツ(生)	きゅうり(生)	かまぼこ	りんご	うどん	とうふ	こんにゃく	上記の食べ物はすべてかめる	上記の食べ物で最近かみにくくなったものがある
0～9本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
10～19本	10	9	5	4	6	4	6	0	0	4	1	3
	58.8	52.9	29.4	23.5	35.3	23.5	35.3	0.0	0.0	23.5	5.9	17.6
20本以上	240	91	34	27	24	13	36	5	3	29	965	66
	16.9	6.4	2.4	1.9	1.7	0.9	2.5	0.4	0.2	2.0	68.0	4.6
全体	250	100	39	31	30	17	42	5	3	33	970	69
	17.3	6.9	2.7	2.2	2.1	1.2	2.9	0.3	0.2	2.3	67.3	4.8

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【図 95 欠損補綴歯数を加えた現在歯数とかみにくい食べ物の関係】



### (3) 現在歯の数と全身疾患の関係

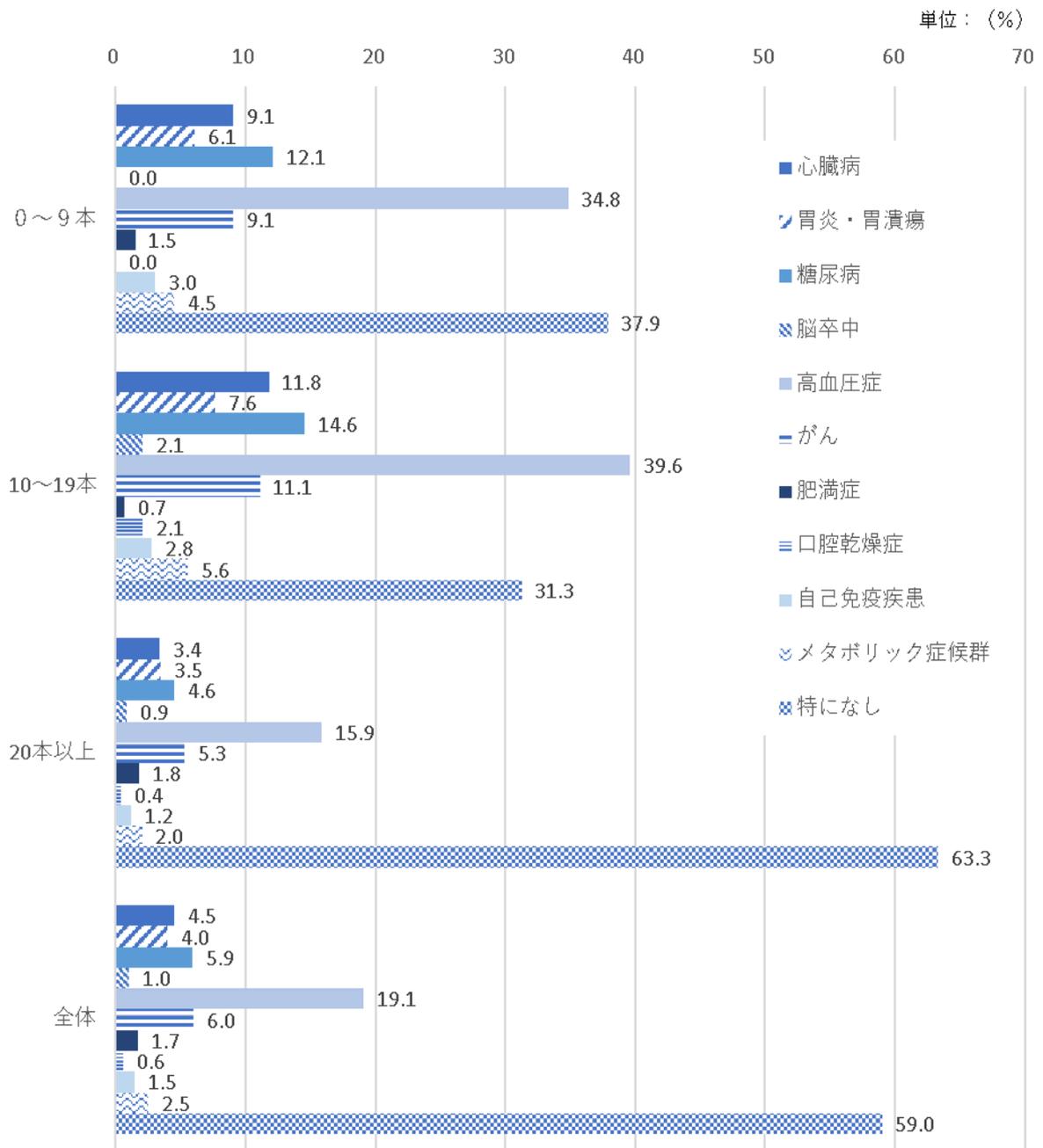
現在の歯数と全身疾患の関係をみると、全身疾患の中で最も多い「高血圧」は、現在歯数「20本以上」では15.9%であるが、「19本以下」になると3~4割程度（34.8~39.6%）に増えている。「糖尿病」、「心臓病」、「メタボリック症候群」などにも同様の傾向がみられる。

【表 96 現在歯の数と全身疾患の関係】

	心臓病	胃炎・胃潰瘍	糖尿病	脳卒中	高血圧症	がん	肥満症	口腔乾燥症	自己免疫疾患	メタボリック症候群	特になし
0~9本	6	4	8	0	23	6	1	0	2	3	25
	9.1	6.1	12.1	0.0	34.8	9.1	1.5	0.0	3.0	4.5	37.9
10~19本	17	11	21	3	57	16	1	3	4	8	45
	11.8	7.6	14.6	2.1	39.6	11.1	0.7	2.1	2.8	5.6	31.3
20本以上	42	43	56	11	195	65	22	5	15	25	778
	3.4	3.5	4.6	0.9	15.9	5.3	1.8	0.4	1.2	2.0	63.3
全体	65	58	85	14	275	87	24	8	21	36	850
	4.5	4.0	5.9	1.0	19.1	6.0	1.7	0.6	1.5	2.5	59.0

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【図 96 現在歯の数と全身疾患の関係】



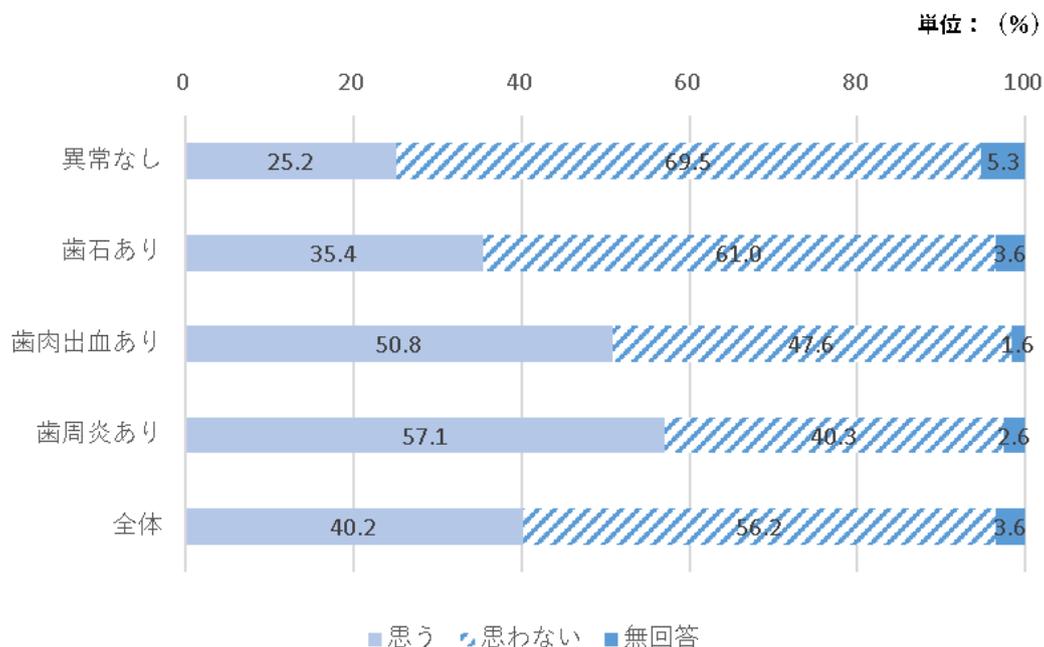
#### (4) 歯周病の自己認識

歯周病であると「思わない」と回答した者のなかには、「歯肉出血あり」では47.6%、「歯周炎あり」では40.3%に歯肉の炎症所見があるにもかかわらず自覚がない。

【表・図 97 歯周病の自己認識】

	思う	思わない	無回答
異常なし	67	185	14
	25.2	69.5	5.3
歯石あり	186	321	19
	35.4	61.0	3.6
歯肉出血あり	157	147	5
	50.8	47.6	1.6
歯周炎あり	262	185	12
	57.1	40.3	2.6
全体	579	810	52
	40.2	56.2	3.6

上段：実数（人） 下段：割合（%）



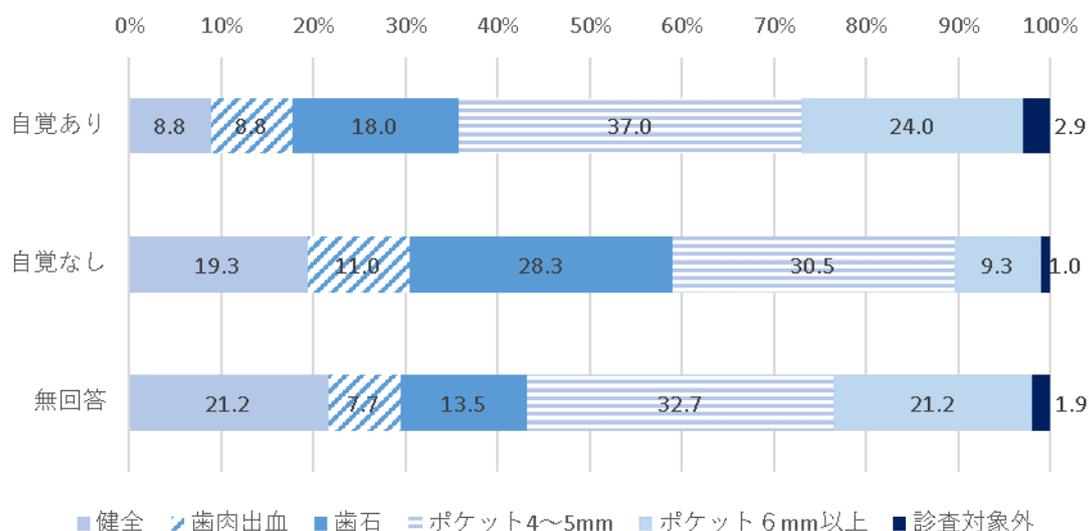
### (5) 歯周病の自覚の有無と歯肉の状況の関係

全体の歯周病の「自覚あり」40.2%と「自覚なし」56.2%を基準に歯肉の状況を比較すると、「歯周ポケット6mm以上」では「自覚あり」は24.0%、「自覚なし」は9.3%と自覚している者が多いが、「歯周ポケット4～5mm」では「自覚あり」は37.0%、「自覚なし」は30.5%と約3割の者に歯周病の自覚がない。「歯周ポケット6mm以上」になると自覚できる者が多い。

【表・図 98 歯周病の自覚の有無と歯肉の状況の関係】

	自覚あり	自覚なし	無回答
健全	51	156	11
	8.8	19.3	21.2
歯肉出血	51	89	4
	8.8	11.0	7.7
歯石	104	229	7
	18.0	28.3	13.5
ポケット 4～5mm	214	247	17
	37.0	30.5	32.7
ポケット 6mm以上	139	75	11
	24.0	9.3	21.2
診査対象外	17	8	1
	2.9	1.0	1.9
全体	579	810	52
	40.2	56.2	3.6

上段：実数（人） 下段：割合（%）



## (6) 進行した歯周炎と既往歴・現病歴の関係

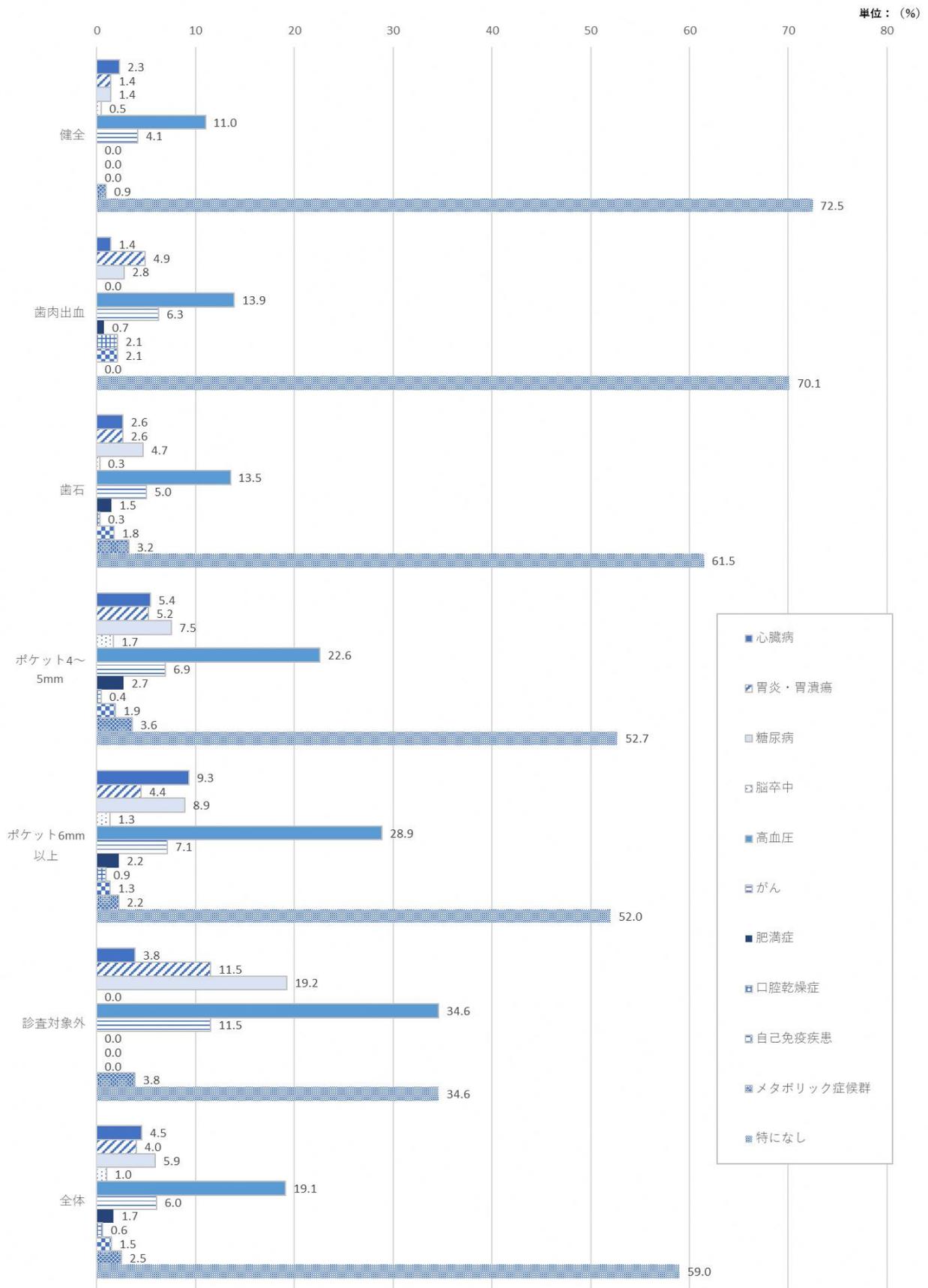
進行した歯周炎と既往歴・現病歴の関係について、全身疾患の中で最も多い「高血圧」をみると、歯周病がない「健全」が約1割（11.0%）であるのに対して、「歯周ポケット6mm以上」の28.9%と「歯周ポケット4～5mm」の22.6%を合わせると進行した歯周炎を有する者が約5割（51.5%）を占め、健全な者の4.7倍である。同様に「心臓病」、「胃炎・胃潰瘍」、「糖尿病」では、それぞれ6.4倍、6.9倍、11.7倍であり、前記疾病では歯肉の炎症所見が進行すると増加する傾向がみられる。

【表 99 進行した歯周炎と既往歴・現病歴の関係】

	心臓病	胃炎・胃潰瘍	糖尿病	脳卒中	高血圧	がん	肥満症	口腔乾燥症	自己免疫疾患	メタボリック症候群	特になし
健全	5	3	3	1	24	9	0	0	0	2	158
	2.3	1.4	1.4	0.5	11.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.9	72.5
歯肉出血	2	7	4	0	20	9	1	3	3	0	101
	1.4	4.9	2.8	0.0	13.9	6.3	0.7	2.1	2.1	0.0	70.1
歯石	9	9	16	1	46	17	5	1	6	11	209
	2.6	2.6	4.7	0.3	13.5	5.0	1.5	0.3	1.8	3.2	61.5
ポケット4～5mm	26	25	36	8	108	33	13	2	9	17	252
	5.4	5.2	7.5	1.7	22.6	6.9	2.7	0.4	1.9	3.6	52.7
ポケット6mm以上	21	10	20	3	65	16	5	2	3	5	117
	9.3	4.4	8.9	1.3	28.9	7.1	2.2	0.9	1.3	2.2	52.0
診査対象外	1	3	5	0	9	3	0	0	0	1	9
	3.8	11.5	19.2	0.0	34.6	11.5	0.0	0.0	0.0	3.8	34.6
全体	65	58	85	14	275	87	24	8	21	36	850
	4.5	4.0	5.9	1.0	19.1	6.0	1.7	0.6	1.5	2.5	59.0

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【図 99 進行した歯周炎と既往症・現病歴の関係】



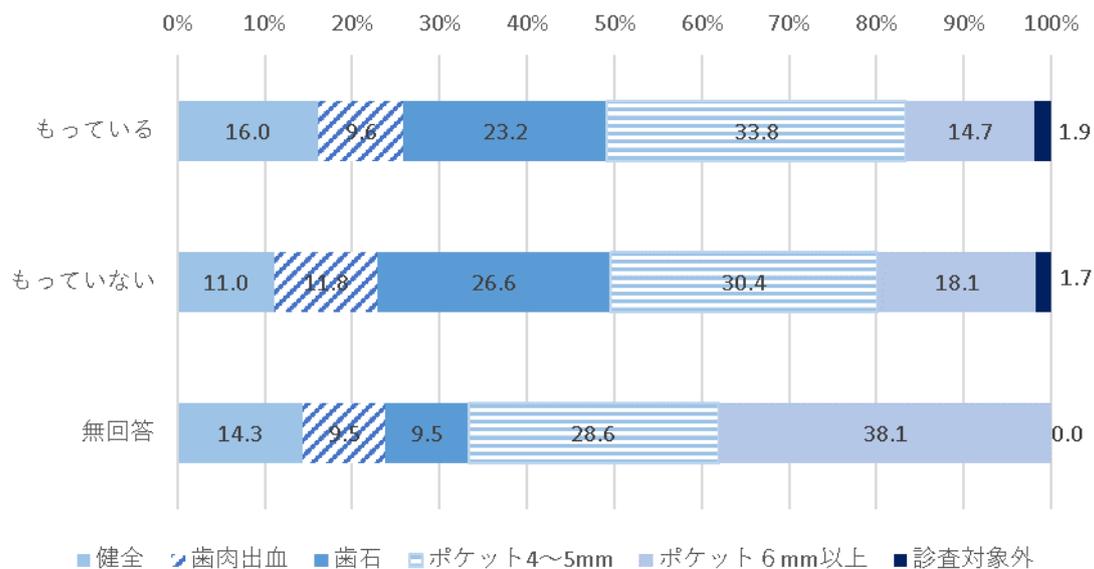
### (7) かかりつけ歯科医の有無と歯肉の状況の関係

歯肉の状況とかかりつけ歯科医の関係について、かかりつけ歯科医を「もっていない」者では、「健全」の割合がやや少なく、「歯肉出血」、「歯石」、「歯周ポケット 6mm 以上」の割合がやや多い。

【表・図 100 かかりつけ歯科医の有無と歯肉状況の関係】

	もっている	もっていない	無回答
健全	189	26	3
	16.0	11.0	14.3
歯肉出血	114	28	2
	9.6	11.8	9.5
歯石	275	63	2
	23.2	26.6	9.5
ポケット 4~5mm	400	72	6
	33.8	30.4	28.6
ポケット 6mm以上	174	43	8
	14.7	18.1	38.1
診査対象外	22	4	0
	1.9	1.7	0.0
全体	1183	237	21
	82.1	16.4	1.5

上段：実数（人） 下段：割合（％）



### (8) 定期的な歯科健診の受診と歯肉の状況の関係

定期的に歯科健診を「受けた」者では「異常なし」が21.2%、「受けていない」者では「異常なし」が12.7%であり、「受けた」者のほうが「異常なし」の割合が多い。

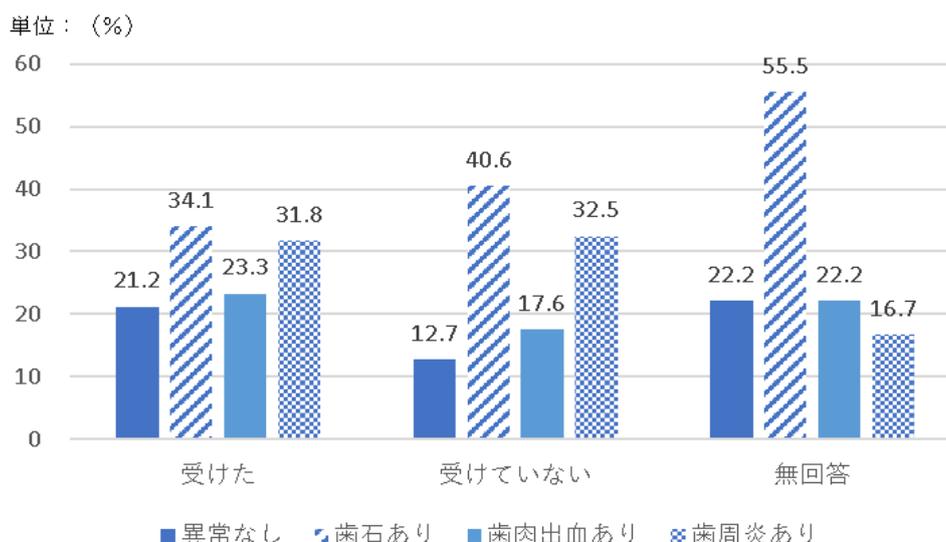
「歯石あり」については、「受けた」者では34.1%、「受けていない」者では40.6%と「受けていない」ほうが歯石が付着している者の割合が高い。

「歯周炎あり」については、歯科健診の受診の有無にかかわらず、約3割に歯肉の炎症所見がみられる。

【表・図 101 定期的な歯科健診の受診と歯肉の状況の関係】

	受けた	受けていない	無回答
異常なし	203	59	4
	21.2	12.7	22.2
歯石あり	327	189	10
	34.1	40.6	55.5
歯肉出血あり	223	82	4
	23.3	17.6	22.2
歯周炎あり	305	151	3
	31.8	32.5	16.7
全体	958	465	18
	66.5	32.3	1.2

上段：実数（人） 下段：割合（%）



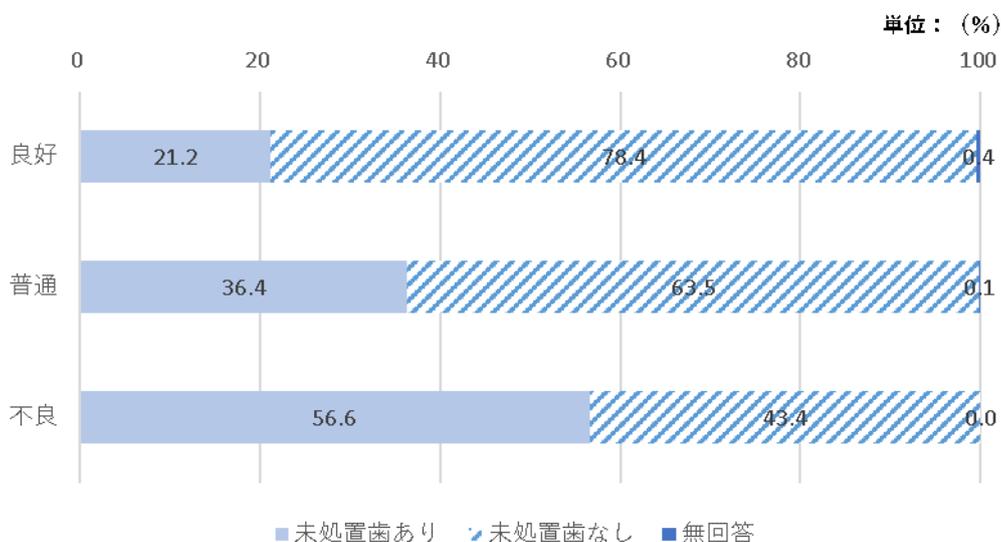
### (9) 口腔清掃状態と未処置歯の有無の関係

口腔清掃状態が「不良」であると「未処置歯あり」が約6割（56.6%）と高い。口腔清掃状態が「良好」であると「未処置歯なし」は約8割（78.4%）と高い割合であるが、「普通」の場合では、約6割（63.5%）、さらに口腔清掃状態が「不良」の場合には、「未処置歯なし」は約4割（43.4%）に低下している。

【表・図 102 口腔清掃状態と未処置歯の有無の関係】

	未処置歯あり	未処置歯なし	無回答
良好	104	385	2
	21.2	78.4	0.4
普通	268	468	1
	36.4	63.5	0.1
不良	112	86	0
	56.6	43.4	0.0

上段：実数（人） 下段：割合（%）



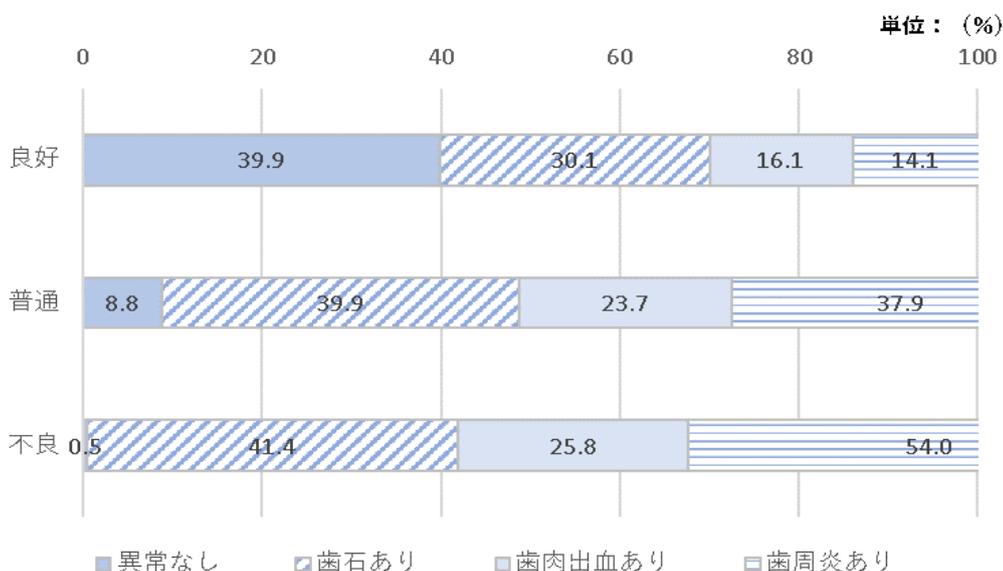
### (10) 口腔清掃状態と歯肉の状況の関係

口腔清掃状態が「良好」であると「異常なし」が約4割（39.9%）であるが、「普通」では約1割（8.8%）に減少する。口腔清掃状態が「良好」と比較して、「普通」や「不良」では、歯肉に炎症所見が多くみられる。口腔清掃状態が「不良」で「異常なし」はほぼみられない。

【表・図 103 口腔清掃状態と歯肉の状況の関係】

	異常なし	歯石あり	歯肉出血あり	歯周炎あり
良好	196	148	79	69
	39.9	30.1	16.1	14.1
普通	65	294	175	279
	8.8	39.9	23.7	37.9
不良	1	82	51	107
	0.5	41.4	25.8	54.0

上段：実数（人） 下段：割合（%）



### (11) 口腔内の悩みと歯肉の状況の関係

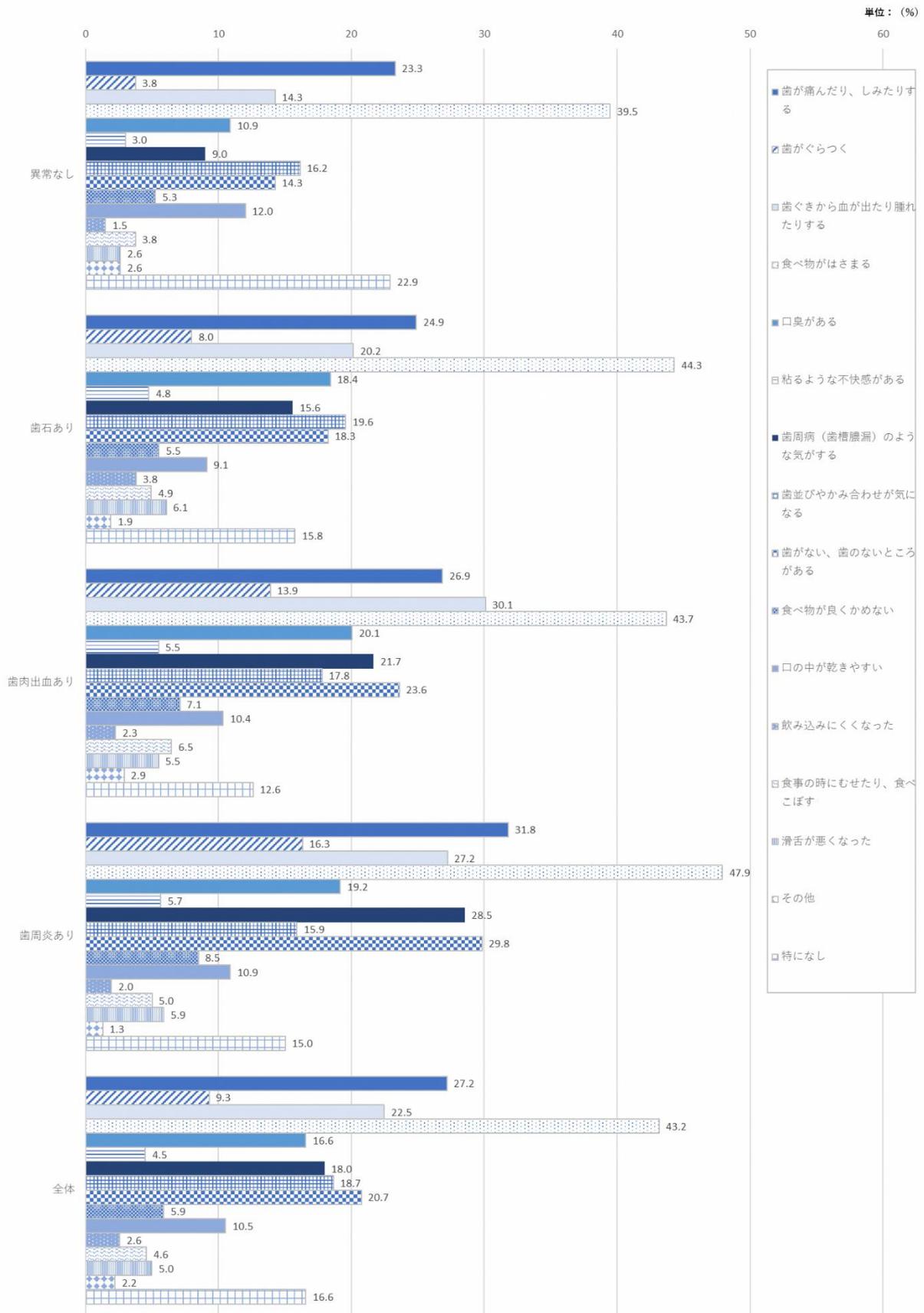
「歯石あり」、「歯肉出血あり」から「歯周炎あり」へと歯肉の炎症所見が進行するほど、「食べ物はさまる」、「歯が痛んだり、しみたりする」、「歯ぐきから血が出たり腫れたりする」などの口腔内の悩みが増えている。「食べ物がはさまる」は、「歯周炎あり」47.9%、「異常なし」39.5%と、1割程度の差がみられる。「歯が痛んだり、しみたりする」、「歯ぐきから血が出たり腫れたりする」でも同様の傾向がみられ、「歯周炎あり」では口腔内の悩みをもつ者が増加する。

【表 104 口腔内の悩みと歯肉の状況の関係】

	歯が痛んだり、しみたりする	歯がぐらつく	歯ぐきから血が出たり腫れたりする	食べ物がはさまる	口臭がある	粘るような不快感がある	歯周病（歯槽膿漏）のような気がする	歯並びや噛み合わせが気になる	歯がない、歯のいないところがある	食べ物が良くかめない	口の中が乾きやすい	飲み込みにくくなった	食事の時にむせたり、食べこぼす	滑舌が悪くなった	その他	特になし
異常なし	62	10	38	105	29	8	24	43	38	14	32	4	10	7	7	61
	23.3	3.8	14.3	39.5	10.9	3.0	9.0	16.2	14.3	5.3	12.0	1.5	3.8	2.6	2.6	22.9
歯石あり	131	42	106	233	97	25	82	103	96	29	48	20	26	32	10	83
	24.9	8.0	20.2	44.3	18.4	4.8	15.6	19.6	18.3	5.5	9.1	3.8	4.9	6.1	1.9	15.8
歯肉出血あり	83	43	93	135	62	17	67	55	73	22	32	7	20	17	9	39
	26.9	13.9	30.1	43.7	20.1	5.5	21.7	17.8	23.6	7.1	10.4	2.3	6.5	5.5	2.9	12.6
歯周炎あり	146	75	125	220	88	26	131	73	137	39	50	9	23	27	6	69
	31.8	16.3	27.2	47.9	19.2	5.7	28.5	15.9	29.8	8.5	10.9	2.0	5.0	5.9	1.3	15.0
全体	392	134	324	622	239	65	259	269	299	85	152	37	66	72	32	239
	27.2	9.3	22.5	43.2	16.6	4.5	18.0	18.7	20.7	5.9	10.5	2.6	4.6	5.0	2.2	16.6

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【図 104 口腔内の悩みと歯肉の状況の関係】



## (12) 歯や口の健康のために気をつけていることと歯肉の状況の関係

歯や口の健康のために「特に何もしていない」者は「異常なし」8.6%に対して、「歯石あり」9.1%、「歯肉出血あり」9.7%、「歯周炎あり」12.2%と、歯肉に炎症所見を有する割合が高くなっている。

歯肉の状況の「異常なし」の者では、気をつけていることとして「食後歯を磨いている」61.7%、「定期的に歯石をとってもらおう」58.6%、「歯の根もとまで磨いている」41.0%の順に多い。

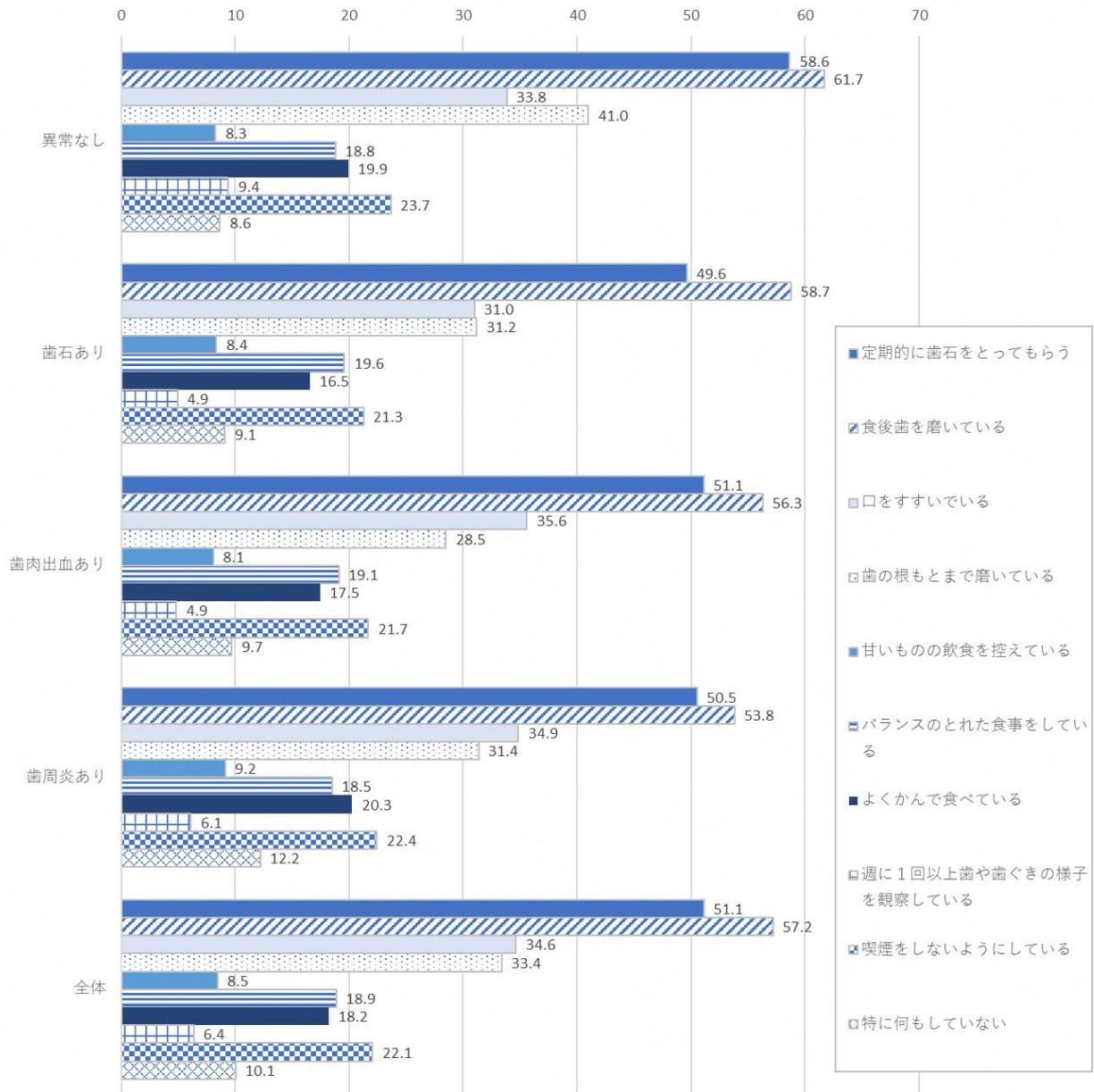
【表 105 歯や口の健康のために気をつけていることと歯肉の状況の関係】

	定期的に 歯石を とってもら う	食後歯を 磨いてい る	口をすす いでいる	歯の根も とまで磨 いている	甘いもの の飲食を 控えてい る	バランス のとれた 食事をし ている	よくかん で食べて いる	週に1回以 上歯や歯ぐ きの様子を 観察してい る	喫煙をし ないよう にしてい る	特に何も していな い
異常なし	156	164	90	109	22	50	53	25	63	23
	58.6	61.7	33.8	41.0	8.3	18.8	19.9	9.4	23.7	8.6
歯石あり	261	309	163	164	44	103	87	26	112	48
	49.6	58.7	31.0	31.2	8.4	19.6	16.5	4.9	21.3	9.1
歯肉出血 あり	158	174	110	88	25	59	54	15	67	30
	51.1	56.3	35.6	28.5	8.1	19.1	17.5	4.9	21.7	9.7
歯周炎 あり	232	247	160	144	42	85	93	28	103	56
	50.5	53.8	34.9	31.4	9.2	18.5	20.3	6.1	22.4	12.2
全体	737	824	499	481	122	272	262	92	318	145
	51.1	57.2	34.6	33.4	8.5	18.9	18.2	6.4	22.1	10.1

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【図 105 歯や口の健康のために気をつけていることと歯肉の状況の関係】

単位：(%)



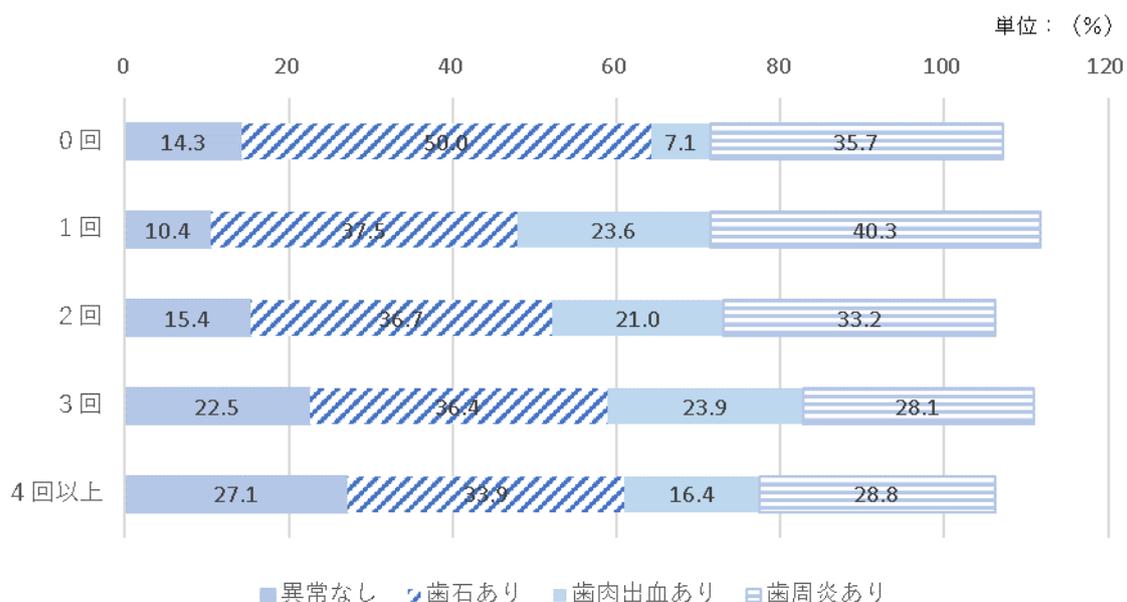
### (13) 歯みがきの回数と歯肉の状況の関係

1日に1回も磨かない被調査者は少ないが「歯石あり」や「歯周炎あり」の割合が多い傾向がみられる。1日に4回以上磨く者では「異常なし」が最も多く、歯みがきが1回より、2回以上では「異常なし」の割合が増加傾向である。「歯周炎あり」では、歯みがきが1回の者が最も多く、歯みがき回数が1回より2回以上のほうが歯周炎の割合が減少傾向である。

【表・図 106 歯みがきの回数と歯肉の状況の関係】

	異常なし	歯石あり	歯肉出血あり	歯周炎あり
0回	2	7	1	5
	14.3	50.0	7.1	35.7
1回	15	54	34	58
	10.4	37.5	23.6	40.3
2回	104	248	142	224
	15.4	36.7	21.0	33.2
3回	97	157	103	121
	22.5	36.4	23.9	28.1
4回以上	48	60	29	51
	27.1	33.9	16.4	28.8
全体	266	526	309	459
	18.5	36.5	21.4	31.9

上段：実数（人） 下段：割合（％）



### (14) 歯間清掃用具の使用と歯肉の状況の関係

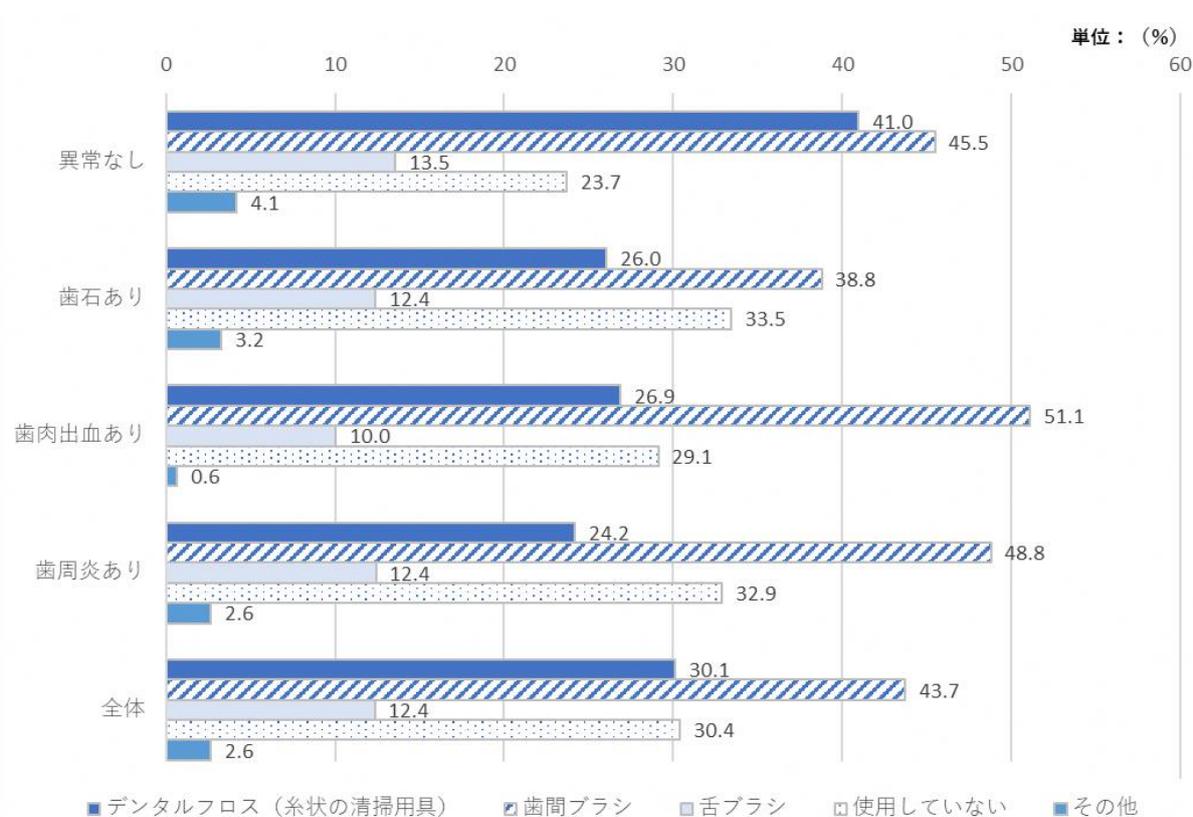
「異常なし」の場合でみると、歯間掃除用具を「使用していない」23.7%に対して、「歯間ブラシ」45.5%、「デンタルフロス（糸状の清掃用具）」41.0%と高い。

歯肉の状況にかかわらず、「歯間ブラシ」を使用している者の割合が高く、「歯肉出血あり」、「歯周炎あり」においては、約5割と高い。

【表・図 107 歯間清掃用具の使用と歯肉の状況の関係】

	デンタルフロス (糸状の清掃用具)	歯間ブラシ	舌ブラシ	使用していない	その他
異常なし	109	121	36	63	11
	41.0	45.5	13.5	23.7	4.1
歯石あり	137	204	65	176	17
	26.0	38.8	12.4	33.5	3.2
歯肉出血あり	83	158	31	90	2
	26.9	51.1	10.0	29.1	0.6
歯周炎あり	111	224	57	151	12
	24.2	48.8	12.4	32.9	2.6
全体	434	630	178	438	38
	30.1	43.7	12.4	30.4	2.6

上段：実数（人） 下段：割合（%）



### (15) 歯科医院の受診理由と歯肉の状況の関係

「口の中が気にならなくても定期的に受診する」者では、「異常なし」の割合が多い。

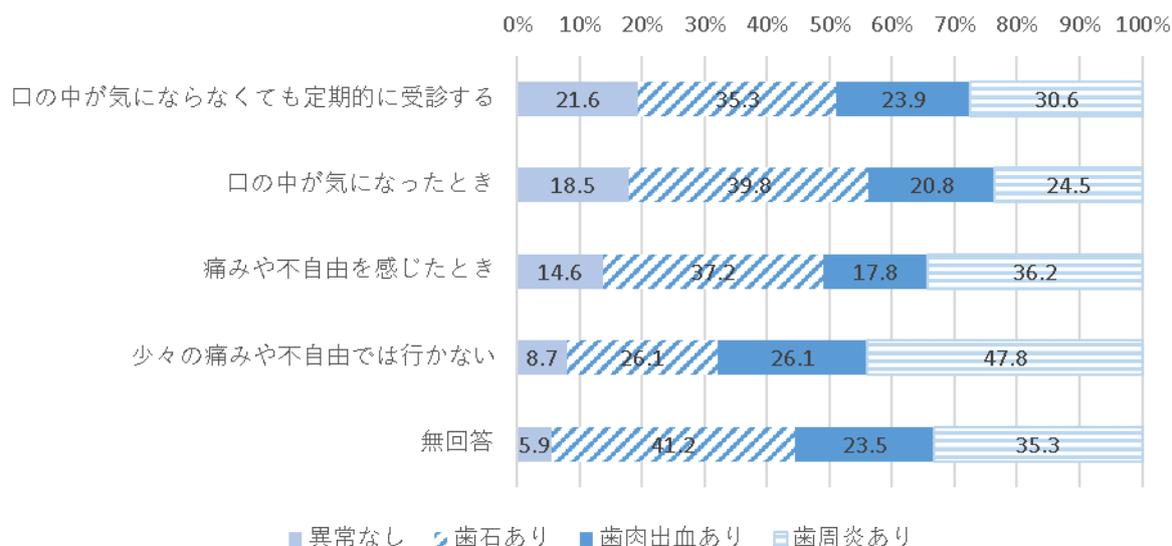
「口の中が気になったとき」に受診する者では、「歯石あり」の割合が多く、「歯周炎あり」の割合が少ない。

「痛みや不自由を感じたとき」や「少々の痛みや不自由では行かない」者では、「歯周炎あり」の割合が多い。

【表・図 108 歯科医院の受診理由と歯肉の状況の関係】

	口の中が気にならなくても定期的に受診する (定期健診、歯石除去など)	口の中が気になったとき	痛みや不自由を感じたとき	少々の痛みや不自由では行かない	無回答
異常なし	154	40	69	2	1
	21.6	18.5	14.6	8.7	5.9
歯石あり	251	86	176	6	7
	35.3	39.8	37.2	26.1	41.2
歯肉出血あり	170	45	84	6	4
	23.9	20.8	17.8	26.1	23.5
歯周炎あり	218	53	171	11	6
	30.6	24.5	36.2	47.8	35.3
全体	712	216	473	23	17
	49.4	15.0	32.8	1.6	1.2

上段：実数（人） 下段：割合（％）



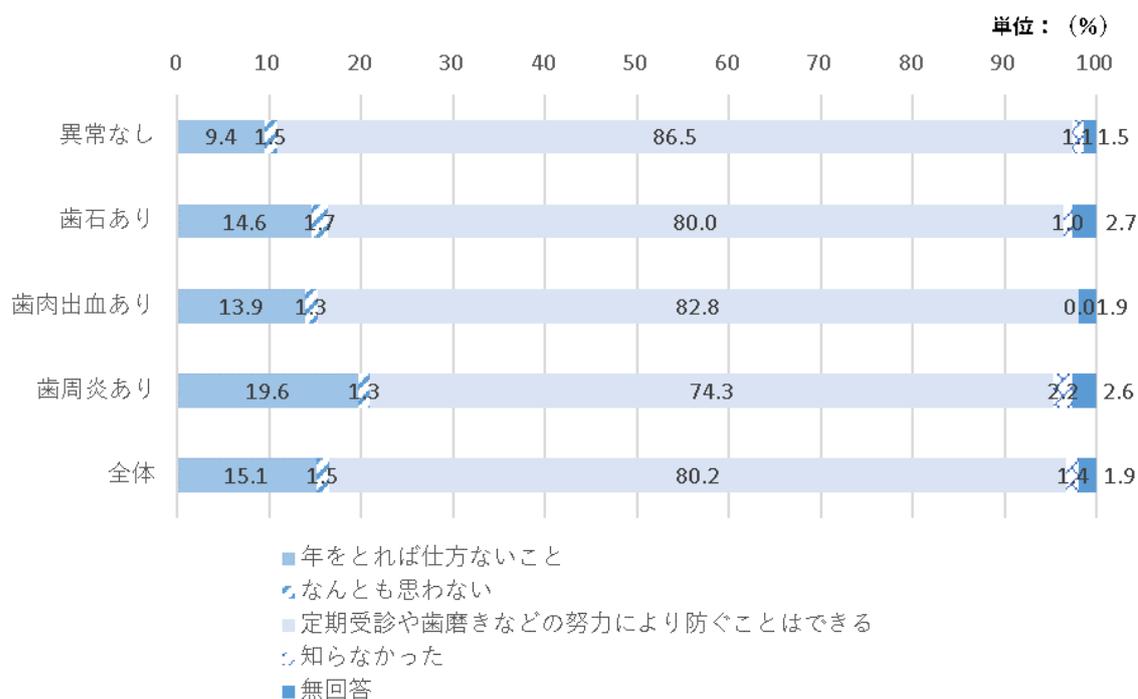
### (16) 歯を喪失することについての意識と歯肉の状況の関係

歯を喪失することに対する意識と歯肉の状況の関係について、「歯周炎あり」19.6%、「歯肉出血あり」13.9%、「歯石あり」14.6%、「異常なし」9.4%とはいずれの歯肉の状況においても1～2割は「年をとれば仕方ないこと」と捉えているが、7割以上が「定期受診や歯みがきなどの努力により防ぐことはできる」と捉えている。進行した歯周炎を有する者のほうが「年をとれば仕方ないこと」と捉える者の割合が多い。

【表・図 109 歯を喪失することについての意識と歯肉の状況の関係】

	年をとれば仕方ないこと	なんとも思わない	定期受診や歯磨きなどの努力により防ぐことはできる	知らなかった	無回答
異常なし	25	4	230	3	4
	9.4	1.5	86.5	1.1	1.5
歯石あり	77	9	421	5	14
	14.6	1.7	80.0	1.0	2.7
歯肉出血あり	43	4	256	0	6
	13.9	1.3	82.8	0.0	1.9
歯周炎あり	90	6	341	10	12
	19.6	1.3	74.3	2.2	2.6
全体	217	21	1155	20	28
	15.1	1.5	80.2	1.4	1.9

上段：実数（人） 下段：割合（%）



### (17) 義歯の使用の有無とかみにくい食べ物の関係

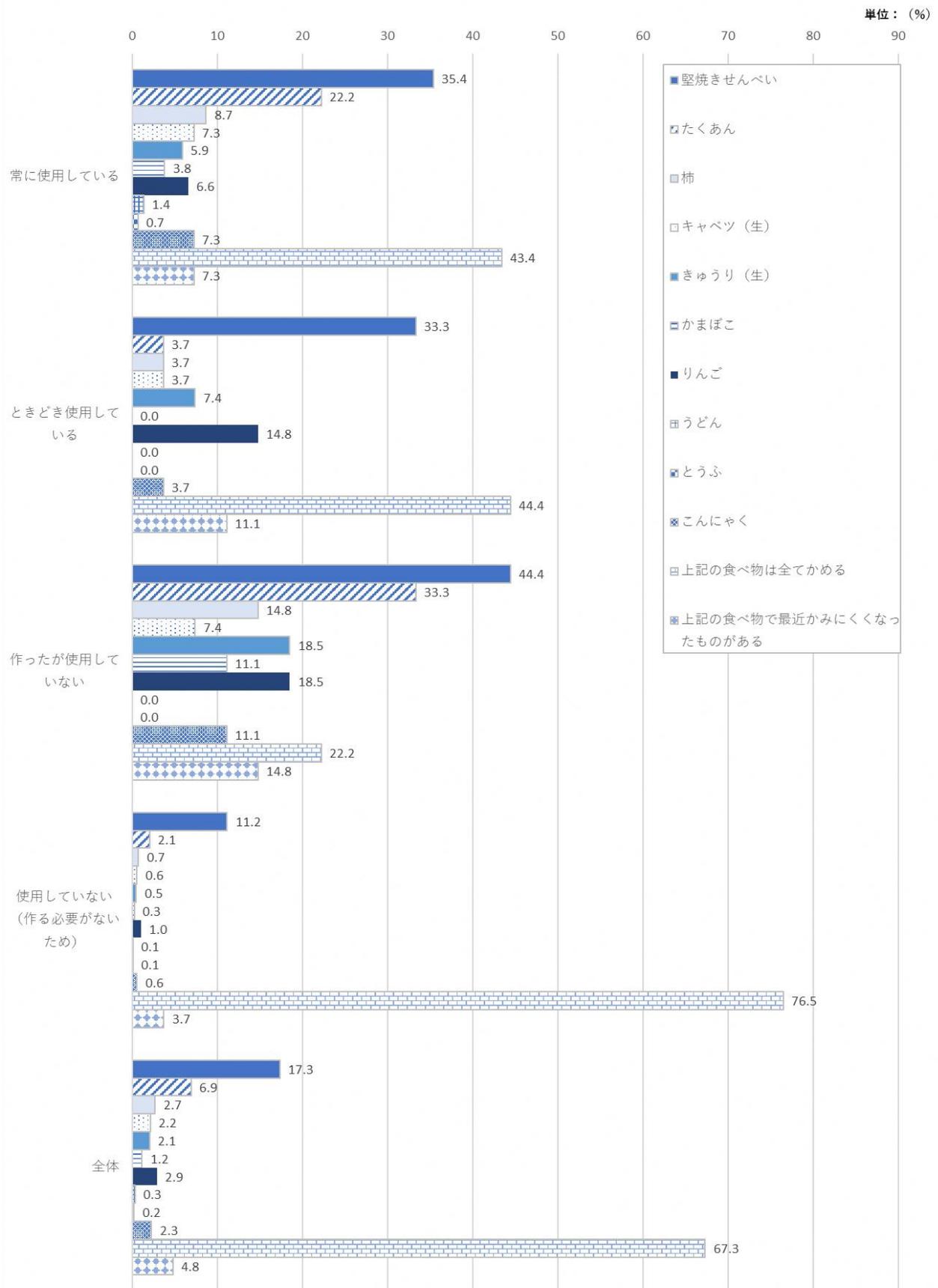
義歯を「常に使用している」者で「堅焼きせんべい」はかみにくいと回答したのは35.4%に対し、「作ったが使用していない」は44.4%であり、義歯を使用しているほうがかみにくいと感じる者が少ない。また、義歯を「常に使用している」、「ときどき使用している」場合は、質問の選択肢にあげられた食べ物は「全てかめる」が4割強、「作ったが使用していない」の場合は、「全てかめる」が2割程度に低下し、義歯の使用でかみにくさが改善されている。

【表 110 義歯の使用の有無とかみにくい食べ物の関係】

	堅焼きせんべい	たくあん	柿	キャベツ(生)	きゅうり(生)	かまぼこ	りんご	うどん	とうふ	こんにやく	上記の食べ物は全てかめる	上記の食べ物で最近かみにくくなったものがある
常に使用している	102	64	25	21	17	11	19	4	2	21	125	21
	35.4	22.2	8.7	7.3	5.9	3.8	6.6	1.4	0.7	7.3	43.4	7.3
ときどき使用している	9	1	1	1	2	0	4	0	0	1	12	3
	33.3	3.7	3.7	3.7	7.4	0.0	14.8	0.0	0.0	3.7	44.4	11.1
作ったが使用していない	12	9	4	2	5	3	5	0	0	3	6	4
	44.4	33.3	14.8	7.4	18.5	11.1	18.5	0.0	0.0	11.1	22.2	14.8
使用していない(作る必要がないため)	120	22	8	6	5	3	11	1	1	6	821	40
	11.2	2.1	0.7	0.6	0.5	0.3	1.0	0.1	0.1	0.6	76.5	3.7
全体	250	100	39	31	30	17	42	5	3	33	970	69
	17.3	6.9	2.7	2.2	2.1	1.2	2.9	0.3	0.2	2.3	67.3	4.8

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【図 110 義歯の使用の有無とかみにくい食べ物の関係】



### (18) かみにくい食べ物と歯肉の状況の関係

歯肉に「異常なし」の者では、「堅焼きせんべい」は約1割（10.5%）しかかみにくいと感じていないが、「歯石あり」16.3%、「歯肉出血あり」23.3%、「歯周炎あり」24.0%と、歯肉の炎症が進行していくにつれてかみにくいと感じる者の割合が増加している。「たくあん」、「りんご」でも同様の傾向がみられる。

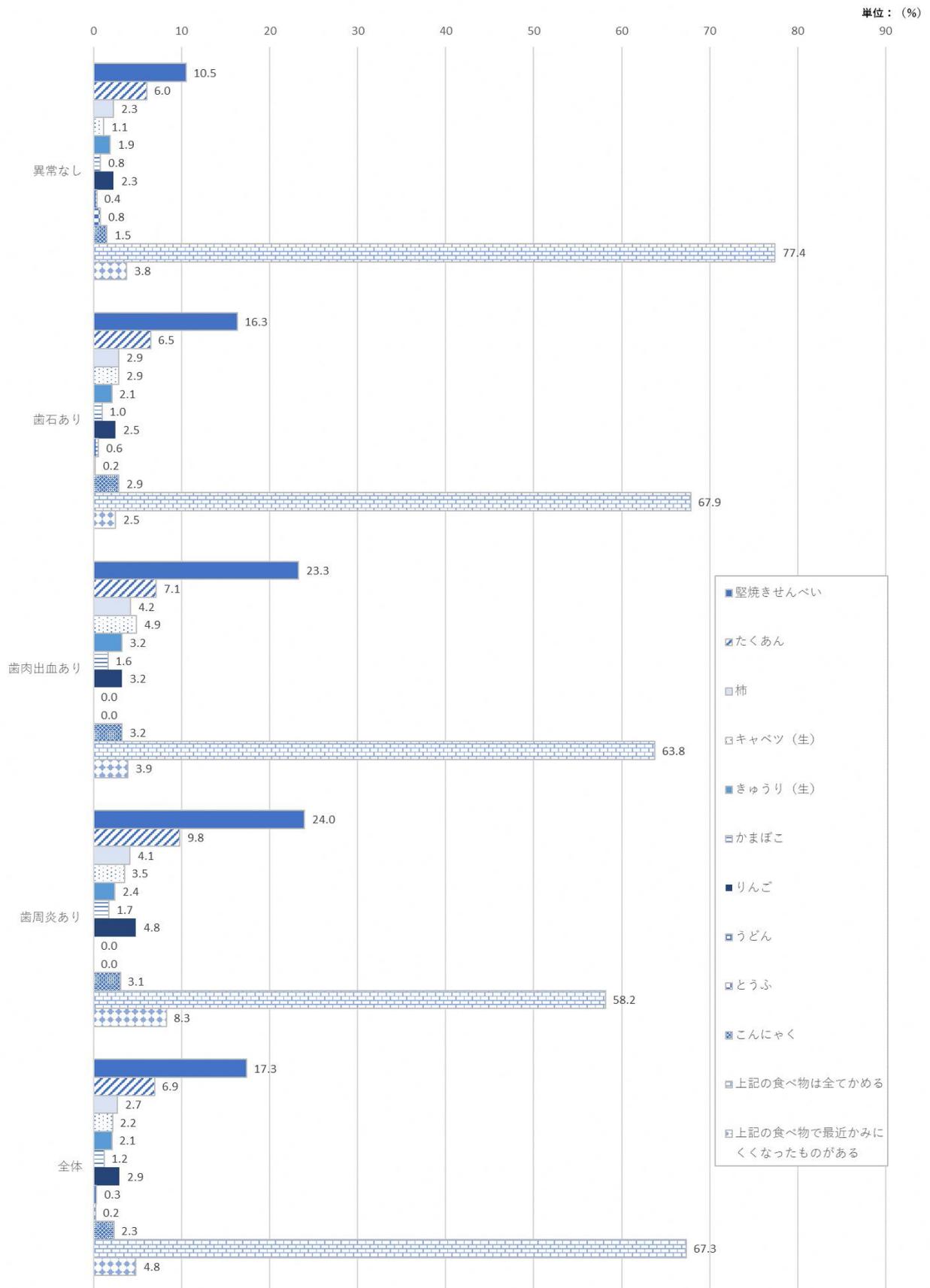
質問の選択肢にあげられた食べ物は「全てかめる」と回答した者は、「異常なし」では77.4%であるが、「歯周炎あり」では58.2%に低下する。また、「最近かみにくくなったものがある」と回答した者は、「異常なし」では3.8%であるが、「歯周炎あり」では8.3%に増加する。

【表 111 かみにくい食べ物と歯肉の状況の関係】

	堅焼きせんべい	たくあん	柿	キャベツ(生)	きゅうり(生)	かまぼこ	りんご	うどん	とうふ	こんにゃく	上記の食べ物は全てかめる	上記の食べ物で最近かみにくくなったものがある
異常なし	28	16	6	3	5	2	6	1	2	4	206	10
	10.5	6.0	2.3	1.1	1.9	0.8	2.3	0.4	0.8	1.5	77.4	3.8
歯石あり	86	34	15	15	11	5	13	3	1	15	357	13
	16.3	6.5	2.9	2.9	2.1	1.0	2.5	0.6	0.2	2.9	67.9	2.5
歯肉出血あり	72	22	13	15	10	5	10	0	0	10	197	12
	23.3	7.1	4.2	4.9	3.2	1.6	3.2	0.0	0.0	3.2	63.8	3.9
歯周炎あり	110	45	19	16	11	8	22	0	0	14	267	38
	24.0	9.8	4.1	3.5	2.4	1.7	4.8	0.0	0.0	3.1	58.2	8.3
全体	250	100	39	31	30	17	42	5	3	33	970	69
	17.3	6.9	2.7	2.2	2.1	1.2	2.9	0.3	0.2	2.3	67.3	4.8

上段：実数（人） 下段：割合（%）

【図 111 かみにくい食べ物と歯肉の状況の関係】



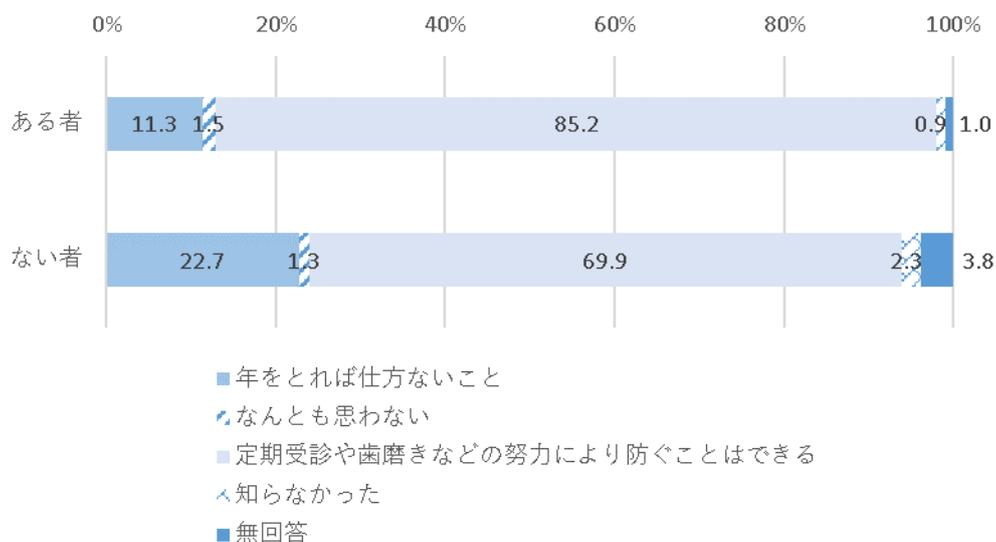
### (19) かみにくい食べ物の有無と歯を失うことについての意識の関係

「定期受診や歯みがきなどの努力により防ぐことはできる」と回答した者の中で、かみにくい食べ物が「ある者」が85.2%、「ない者」が69.9%であり、「年をとれば仕方ないこと」と回答した者の中で、かみにくい食べ物が「ある者」が11.3%、「ない者」が22.7%である。この結果から、かみにくい食べ物がある者のほうが、努力により防げると捉えている者が多い。

【表・図 112 かみにくい食べ物の有無と歯を失うことについての意識の関係】

	年をとれば仕方ないこと	なんとも思わない	定期受診や歯磨きなどの努力により防ぐことはできる	知らなかった	無回答
ある者	110	15	826	9	10
	11.3	1.5	85.2	0.9	1.0
ない者	107	6	329	11	18
	22.7	1.3	69.9	2.3	3.8

上段：実数（人） 下段：割合（％）



## (20) 喫煙の有無と歯肉の状況の関係

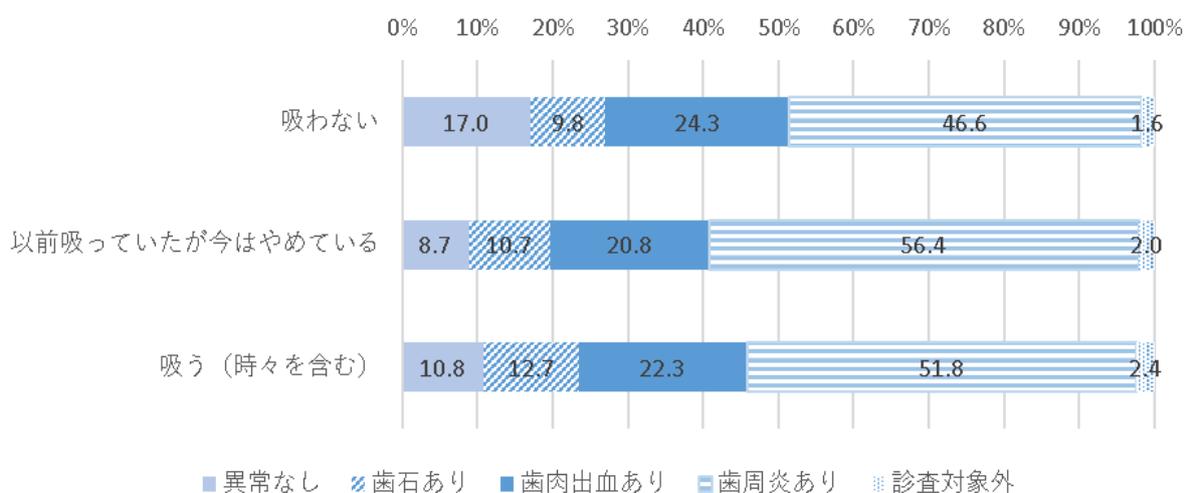
「吸う（時々を含む）」、「以前吸っていたが今はやめている」、「吸わない」の喫煙の有無と歯肉の状況を比較すると、「吸わない」者では、「異常なし」が最も多く、「歯周炎あり」が最も低い。

「吸う（時々を含む）」より「以前吸っていたが今はやめている」のほうが「歯周炎あり」の者が多く、喫煙が歯肉に悪影響を与えている可能性がある。

【表・図 113 喫煙の有無と歯肉の状況の関係】

	吸わない	以前吸っていたが今はやめている	吸う（時々を含む）	無回答
異常なし	186	13	18	1
	17.0	8.7	10.8	3.2
歯石あり	107	16	21	0
	9.8	10.7	12.7	0.0
歯肉出血あり	266	31	37	6
	24.3	20.8	22.3	19.4
歯周炎あり	510	84	86	23
	46.6	56.4	51.8	74.2
診査対象外	18	3	4	1
	1.6	2.0	2.4	3.2
無回答	8	2	0	0
	0.7	1.3	0.0	0.0
全体	1095	149	166	31
	76.0	10.3	11.5	2.2

上段：実数（人） 下段：割合（%）



(21) 喫煙と歯肉の状況の関係

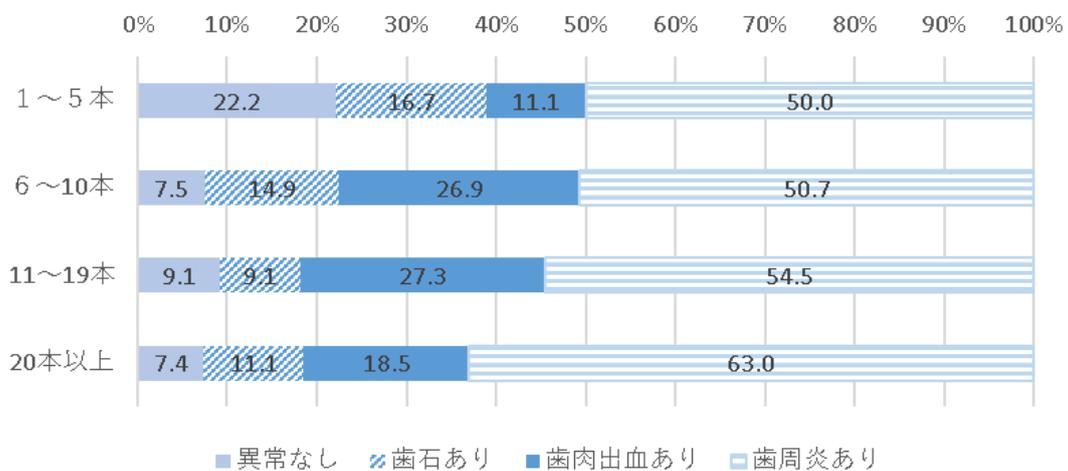
1) 喫煙本数と歯肉の状況の関係

喫煙本数が6本以上になると明らかに「異常なし」の割合が少なくなる。また、喫煙本数が多くなるにつれて歯周炎ありの割合が高まっており、喫煙本数と歯肉の炎症に関係性がみられる。

【表・図 114 喫煙本数と歯肉の状況の関係】

	1～5本	6～10本	11～19本	20本以上	無回答
異常なし	4	5	2	4	3
	22.2	7.5	9.1	7.4	60.0
歯石あり	3	10	2	6	0
	16.7	14.9	9.1	11.1	0.0
歯肉出血あり	2	18	6	10	1
	11.1	26.9	27.3	18.5	20.0
歯周炎あり	9	34	12	34	1
	50.0	50.7	54.5	63.0	20.0
全体	18	67	22	54	5
	10.8	40.4	13.3	32.5	3.0

上段：実数（人） 下段：割合（％）



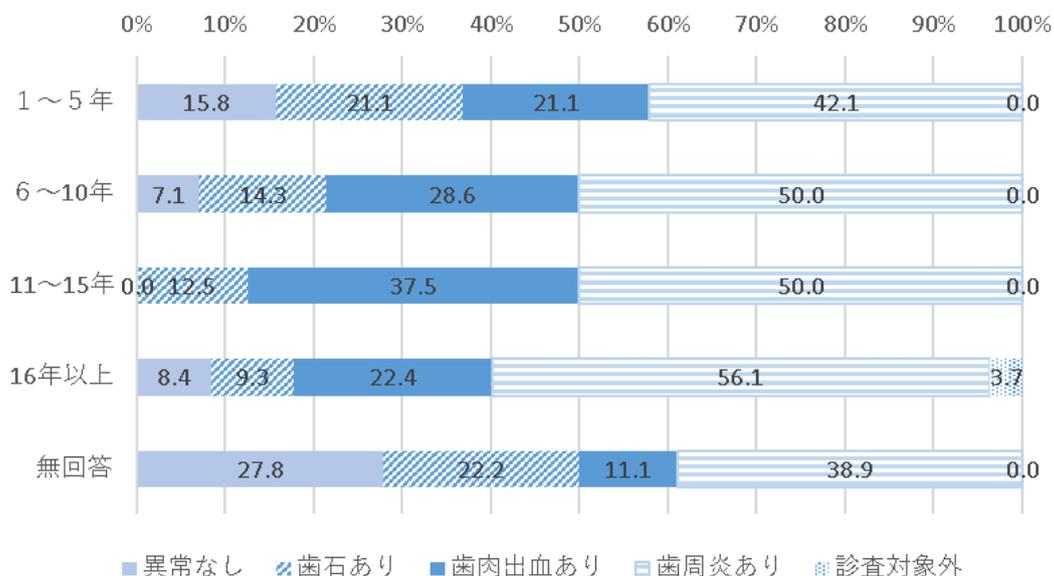
## 2) 喫煙年数と歯肉の状況の関係

喫煙年数が16年以下の被調査者数が特に少ないため比較は難しいが、喫煙年数が長くなると「歯周炎あり」の割合が高まっており、「16年以上」では喫煙年数が長くなると歯肉の炎症が進行する傾向がみられる。

【表・図 115 喫煙年数と歯肉の状況の関係】

	1～5年	6～10年	11～15年	16年以上	無回答
異常なし	3	1	0	9	5
	15.8	7.1	0.0	8.4	27.8
歯石あり	4	2	1	10	4
	21.1	14.3	12.5	9.3	22.2
歯肉出血あり	4	4	3	24	2
	21.1	28.6	37.5	22.4	11.1
歯周炎あり	8	7	4	60	7
	42.1	50.0	50.0	56.1	38.9
診査対象外	0	0	0	4	0
	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0
全体	19	14	8	107	18
	11.4	8.4	4.8	64.5	10.8

上段：実数（人） 下段：割合（％）



## (22) 喫煙と歯周病の関わりについての知識と歯肉の状況の関係

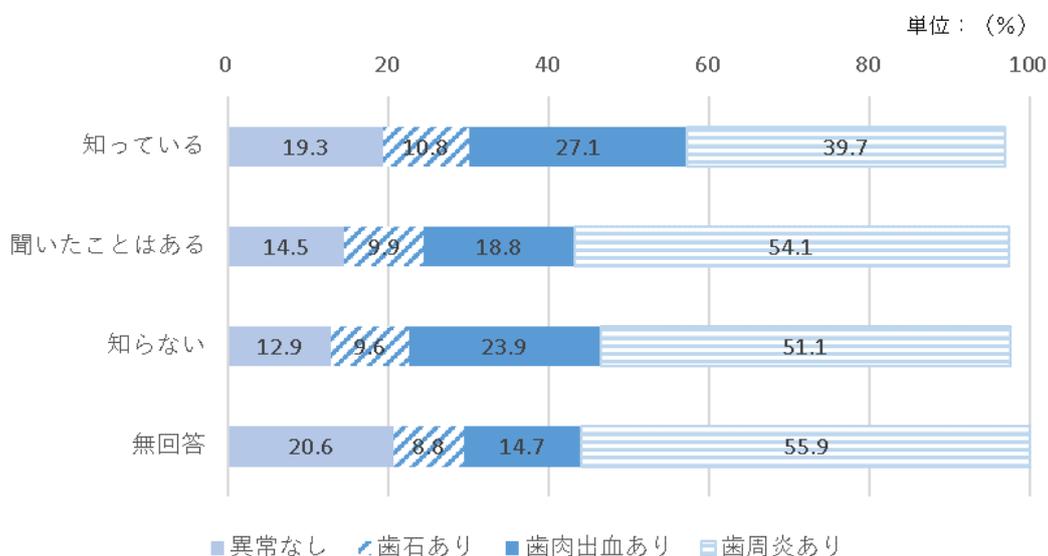
喫煙と歯周病の関係について、「知っている」よりも、「知らない」と回答した者のほうが歯肉に炎症所見を有している割合が高い。

「歯周炎あり」でみると、「知っている」39.7%に対して、「知らない」は51.1%であり、「知らない」と回答した者は約1.3倍の歯周炎を発症している。

【表・図 116 喫煙と歯周病の関わりについての知識と歯肉の状況の関係】

	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
異常なし	77	50	86	7
	19.3	14.5	12.9	20.6
歯石あり	43	34	64	3
	10.8	9.9	9.6	8.8
歯肉出血あり	108	68	159	5
	27.1	18.8	23.9	14.7
歯周炎あり	158	186	340	19
	39.7	54.1	51.1	55.9
全体	398	344	665	34
	27.6	23.9	46.1	2.4

上段：実数（人） 下段：割合（%）



### (23) 健康相談や指導についての希望の有無と歯肉の状況の関係

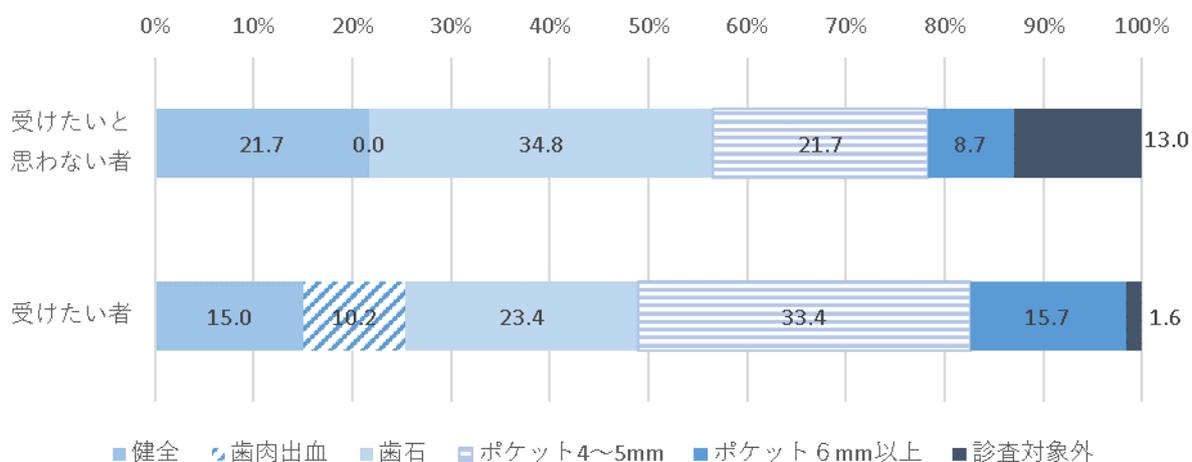
被調査者全体において健康相談や指導を「受けない者」は1,441人中1,418人であり、98.4%とほぼ全員が健康相談や指導を受けたいと思っている。

「受けない者」では、被調査者が少ないが、「歯石」が付着している傾向があり、「受けない者」では「歯周ポケット4～5mm」の者が多い。

【表・図 117 健康相談や指導についての希望と歯肉の状況の関係】

	受けない者	受けない者
健全	5	213
	21.7	15.0
歯肉出血	0	144
	0.0	10.2
歯石	8	332
	34.8	23.4
ポケット 4～5mm	5	473
	21.7	33.4
ポケット 6mm以上	2	223
	8.7	15.7
診査対象外	3	23
	13.0	1.6
全体	23	1418
	1.6	98.4

上段：実数（人） 下段：割合（％）



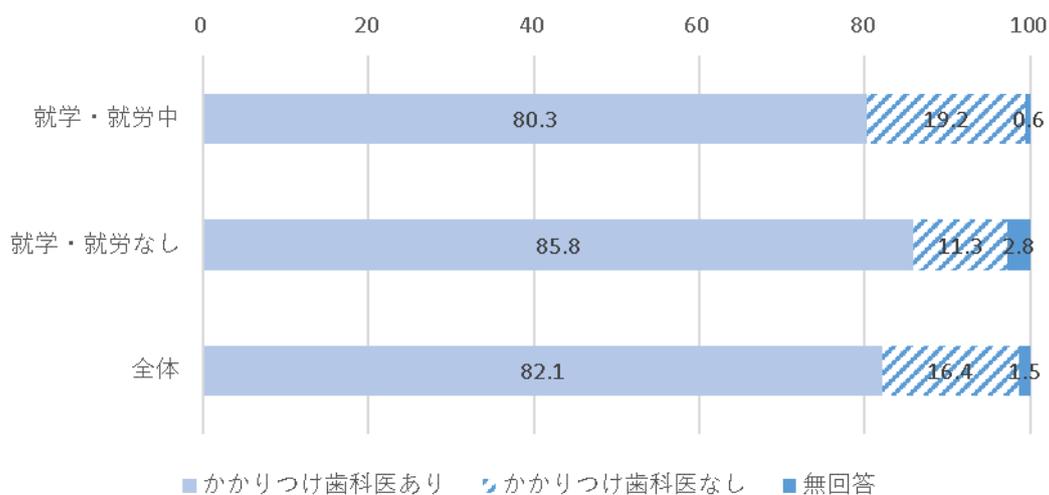
## (24) 就労・就学等の状況とかかりつけ歯科医の有無の関係

かかりつけ歯科の有無については、「かかりつけ歯科医あり」では、「就学・就労中」が80.3%、「就学・就労なし」が85.8%であり、ともに8割を超えているが、「就学・就労中」のほうがやや低い。

【表・図 118 就労・就学等の状況とかかりつけ歯科医の有無の関係】

	かかりつけ歯科医あり	かかりつけ歯科医なし	無回答
就学・就労中	700	167	5
	80.3	19.2	0.6
就学・就労なし	454	60	15
	85.8	11.3	2.8
全体	1183	237	21
	82.1	16.4	1.5

上段：実数（人） 下段：割合（%）



### (25) 就労・就学等の状況と過去一年間の歯科健診受診状況の関係

過去一年間に歯科健診を受診している者は、「就学・就労中」が62.5%、「就学・就労なし」が74.1%であり、「就学・就労中」のほうが約1割少ない。「就学・就労中」のほうが「就学・就労なし」に比べて低いのは、受診する時間の融通が利きにくいことが一因と考えられる。

【表・図 119 就労・就学等の状況と過去一年間の歯科健診受診状況の関係】

	受けている	受けていない	無回答
就学・就労中	545	321	6
	62.5	36.8	0.7
就学・就労なし	392	126	11
	74.1	23.8	2.1
全体	958	465	18
	66.5	32.3	1.2

上段：実数（人） 下段：割合（%）

